

【科目名】		生物学	【担当講師】		佐藤 江奈
【年次・開講期】		1年次・前期	【時間】		30時間
			【単位】		2単位
【授業概要】					
生物学の基礎と専門基礎分野で学ぶ生化学、生理学などにつながる内容を網羅した授業を行う。					
【実務経験有】					
助教として大学勤務					
【教科書】					
最新歯科衛生士教本 生物学 医歯薬出版					
【到達目標】					
生命をつくる細胞の成り立ちと活動に関する基礎知識を身に付ける。					
生命が連続する仕組みについての基礎知識を身に付ける。					
生命が環境の変化に合わせて生活する仕組みについて学習する。					
【参考図書】					
配布資料					
【授業方法】					
講義形式					
【評価方法】					
期末試験による。60点以上を合格点とする。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	生物の特徴と生命構成物質		生物の特徴と生命を構成している物質について説明する。		
2	生命の誕生と変遷		生命の誕生と変遷について説明する。		
3	細胞の構造		細胞の構造と機能について説明する。		
4	細胞の活動		細胞の様々な活動について説明する。		
5	細胞の分化・組織の形成		体細胞分裂の仕組み、組織の種類について説明する。		
6	器官		ヒトの消化・循環・呼吸・泌尿器官系について説明する。		
7	生殖、減数分裂		生殖の方法、減数分裂について説明する。		
8	遺伝と遺伝子		遺伝の法則とヒトの遺伝形質について説明する。		
9	DNAとゲノム		DNAの構造、ゲノムについて説明する。		
10	発生の過程と仕組み		発生の過程や仕組みについて説明する。		
11	刺激の受容と反応		感覚器の種類とその働きについて説明する。		
12	恒常性とホルモン		恒常性とホルモンの種類と働きについて説明する。		
13	生体防御		ヒトの生体防御、免疫系の仕組みについて説明する。		
14	動物の行動		生得的行動と習慣的行動について説明する。		
15	進化と未来		ヒトの進化と生態系、環境汚染等について説明する。		

【科目名】		化学	【担当講師】		石関 容子
【年次・開講期】		1年次・前期	【時間】		30時間
			【単位】		2単位
【授業概要】					
歯科衛生士を目指す生徒にとって、人体や医薬品、歯科材料の化学的な内容の理解は重要である。 そこで高校での学習内容と関連を図りながら、物質や物質の状態・変化について考察する能力、化学の基本的な考え方や原理・法則を理解する能力を養うことを目指す。さらに専門分野での、化学的・生理的な内容を理解する能力を養うことを目指す。					
【実務経験有】					
高等学校教諭一種免許(理科) 2006年4月から県立前橋女子高校にて12年間。 2018年4月から県立高崎女子高校にて2年間。他2高校を含め15年余、非常勤講師として勤務。					
【到達目標】					
1 原子とその性質、原子の結びつきを学び、物質の概念を理解する。 2 物質の三態や基礎的な理論や法則を理解する。 3 物質の質量や濃度を演算できる。 4 酸と塩基、酸化・還元を理解する。 5 有機化合物の特徴や人体を構成する物質を理解する。					
【教科書】					
医歯薬出版「最新 歯科衛生士教本 化学」 全国歯科衛生士教育協議会監修					
【参考図書】					
【授業方法】					
講義形式(教科書、プリント、スライド)および問題解決型授業の形式を適宜取り入れる					
【評価方法】					
全授業終了後、記述試験を行い合計得点(100点満点)の60点以上の者を合格とする。 出席実績、授業態度などにより減点を科す場合がある。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	物質の種類と性質、元素		・物質を純物質と混合物に分け、それぞれの性質を学ぶ。 ・単体と化合物、元素を学ぶ。		
2	原子の構造と同位体		原子についてその構造を学ぶ。		
3	原子配置とイオン		電子殻と電子配置、価電子、イオンについて学ぶ。		
4	物質の構成と表わし方		イオンからなる物質、分子からなる物質、金属について学ぶ。		
5	元素の周期律		価電子数から周期律と周期表について学ぶ。		
6	原子量・分子量と式量		物質の質量と物質を構成している粒子の質量との関係について学ぶ。		
7	物質の量の表わし方		物質質量を表わす単位である「モル」を学ぶ。		
8	溶液の濃度		・溶液と濃度の表わし方について学ぶ。 ・コロイドについて学ぶ。		
9	溶液の濃度の計算		・パーセント濃度、モル濃度、%と ppmの換算、希釈液の作り方の計算を学ぶ。		
10	酸と塩基(アルカリ)		・酸性・塩基性、酸と塩基の定義、強弱についてを学ぶ。 ・pHについて学ぶ。 ・中和について学ぶ。		
11	酸化と還元 金属のイオン化傾向		・酸化・還元の定義と、酸化数、酸化剤と還元剤を学ぶ。 ・金属のイオン化傾向と反応性について学ぶ。		
12	化学反応		化学反応式の表わし方、触媒と反応の速さについて学ぶ。		
13	有機化合物		有機化合物の定義やその特徴について学ぶ。		
14	代表的な有機化合物と性質		アルコールやカルボン酸など、官能基ごとにその性質、利用法について学ぶ。		
15	人を構成する物質		糖質、アミノ酸・たんぱく質、脂質などについて学ぶ。		

【科目名】		歯科英語	【担当講師】		矢内 太郎
【年次・開講期】		1年次・前期	【時間】		16時間
			【単位】		1単位
【授業概要】					
高等学校までに修得した英語力をもとにして、簡単な英語表現でコミュニケーションができるようにする。					
【実務経験有】					
矢内歯科医院院長(歯科医師)					
【到達目標】					
英語歯科用語の意味を理解し、発音できるようにする。					
【教科書】					
最新歯科衛生士教本 『歯科英語』(医歯薬出版)					
【参考図書】					
【授業方法】					
講義					
【評価方法】					
全授業終了後、試験を行う。合格点に満たない者には再試験を行う。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	英語会話・歯科医学英語		Making an Appointment by Telephon P2～		
			Reading「Healthy snacks for teeth」 P7～		
2	英語会話・歯科医学英語		Requests for Medicine P8～		
			Reading「Tooth brush and brushing」 P13～		
3	英語会話・歯科医学英語		Emergency Appointments P14～		
			Reading「Tooth designating system」 P18～		
4	英語会話・歯科医学英語		National Health Insurance P20～		
			Reading「Insurance and expenditures for dental care」 P23～		
5	英語会話・歯科医学英語		Asking the Patient to Describe Symptoms P24～		
			Reading「First aid steps for a knocked-out tooth P30～		
6	英語会話・歯科医学英語		Asking the Medical History P32～		
			Reading「Health questionnaire」 P37～		
7	英語会話・歯科医学英語		Periodontal Disease P38～		
			Reading「Tobacco and oral health」 P46～		
8	英語会話・歯科医学英語		Pregnancy P48～		
			Reading「Bleeding and swollen gums during pregnancy」 P52～		

【科目名】		心理学	【担当講師】		加藤 昌弘
【年次・開講期】		1年次・前期	【時間】		30時間
			【単位】		2単位
【授業概要】					
医療現場で患者と対応しなければならない医療従事者にとって、患者の心理状態を多面的に理解できることは、よりよい医療サービスを提供するために不可欠のことである。自分とは異なる様々な人間の心の世界を、理解するための基本的な知識を提供する学問分野の一つが、心理学である。本授業では、基礎心理学の枠組みだけでなく、臨床心理学の知見を踏まえ、人間探求の心理学的視点を多角的に習得することを目的とするものである。					
【実務経験有】					
公認心理師・臨床心理士					
【到達目標】					
基礎心理学の基本的な事項を理解する。					
人間探求の方法としての心理アセスメントの方法について学ぶ。					
臨床心理的援助技法としての心理カウンセリングの考え方と方法を習得する。					
【教科書】					
全国歯科衛生士教育協議会監修 最新歯科衛生士教本 『心理学』 医歯薬出版株式会社					
【参考図書】					
鹿取廣人他編 『心理学 第5版改訂版』 東京大学出版会					
【授業方法】					
講義形式(教科書、印刷教材、パワーポイント)、動画鑑賞、および、ワークショップ形式の授業を適宜行う。					
【評価方法】					
すべての講義の終了後、60分間の筆記試験(持込不可)を行う。成績評価は、筆記試験結果(70点)、フィードバックシート(30点)を基に算出し、その合計が60点以上の者を合格とする。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	オリエンテーション “こころ”とは何か		この授業の概要とねらいを知る 心理学の歴史を踏まえ、“こころ”とは何かを考える		
2	自己を探究する①		心理テストを自分自身に実施してみる		
3	自己を探究する②		実施した心理テストを解釈して、自分自身の心理的側面を理解する		
4	見る・聞く・感じるこころ		知覚とは何かを知り、心理学的な観察力を高める		
5	発達するこころ①		発達とは何かを知り、主要な発達理論を学ぶ		
6	発達するこころ②		乳児期・幼児期の心理について学ぶ		
7	発達するこころ③		児童期の心理を知り、神経発達障害群について学ぶ		
8	かしこさの心理①		知能とは何かを知り、主要な知能モデルについて学ぶ		

回	授業項目	授業内容
9	かしこさの心理②	知能の測定方法を知り、知的能力障害について学ぶ
10	発達するころ④	思春期・青年期の心理を知り、この時期の心身の障害について学ぶ
11	その人らしさの心理①	主要なパーソナリティ理論について学ぶ
12	その人らしさの心理②	パーソナリティの調べ方を知り、その異常と障害について学ぶ
13	発達するころ⑤	成人期、高齢期の心理について学ぶ
14	健康なころ	ストレスについて学び、その対処法を知る
15	学ぶころ①	学習理論について学ぶ
16	学ぶころ②	学習理論の応用としての行動療法について学ぶ
17	覚えるころ①	記憶のメカニズムについて学ぶ
18	覚えるころ②	記憶の病理と歪みについて学ぶ
19	人と関わるころ①	カウンセリング技法としての対人関係技法を体験的に習得する
20	人と関わるころ② まとめ	カウンセリング技法としての傾聴技法を体験的に習得する 講義全体を振り返る

【科目名】		社会学	【担当講師】		中野 玲子
【年次・開講期】		1年次・前期	【時間】		16時間
			【単位】		1単位
【授業概要】					
現代日本に起こっている環境問題、少子化問題、高齢化社会の問題点などを調べて深く考える力をつける。					
日本の保健と医療の動向を学ぶ。					
歯科衛生士として働くことで社会にどのように貢献できるかを学ぶ					
【実務経験有】					
中野歯科医院開設・院長(歯科医師)					
【到達目標】					
一般目標を学びながらどういった社会人をめざしていくのかを考える。					
歯科衛生士の本分である医療倫理を身に着ける。					
どのような歯科衛生士をめざすかの理想を持つ					
【教科書】					
なし					
【参考図書】					
歯科医療倫理 医歯薬出版株式会社 生活の医療 中央公論社					
新社会歯科学 医歯薬出版株式会社 いのちと食 中央公論社					
国民衛生の動向 厚生労働統計協会					
【授業方法】					
講義 ディスカッションを行い 参加型授業にする					
【評価方法】					
全授業終了後課題を出すのでレポートを提出してもらう					
レポートの内容を採点し60点以上の者を合格とする。					
出席実績 授業態度なども参考とする					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	総論 私達を取り巻く社会と人との関係について		社会とは ①対人関係 ②家族 ③社会集団 変動する社会 ①人口問題 ②環境問題 21世紀の健康と社会 ①医療保健事業		
2	日本の保健・医療		社会保障制度 ①社会保険 ②公的扶助 ③公衆衛生・医療 ④社会福祉 保健行政 衛生行政 保健医療の国際協力		
3	歯科衛生士の社会的役割		歯科衛生士とは 歯科衛生士の仕事 歯科衛生士の社会的役割 歯科衛生士の未来		

回	授業項目	授業内容
4	食育1	食育1 食べることは生きる事 若い女性の痩せすぎ 私達の体 若い女性の危機
5	食育2	食育2 現代社会が抱える若い女性の問題 歯科衛生士が行う食育
6	予防医学 予防歯科1	生活習慣病予防 ①生活習慣病とは ②生活習慣病の種類 ③生活習慣病の原因 ④メタボリックシンドローム ⑤生活習慣病の予防方法 むし歯予防1 ①むし歯の原因 ②むし歯リスク ③むし歯リスク検査 ④むし歯予防の実践
7	予防歯科2	今の社会問題から むし歯予防 0歳からのむし歯予防 歯周病予防
8	歯科医療倫理	禁煙 医療倫理 健康(健全)と病気の基本理念 歯科衛生士の未来

【科目名】 コミュニケーション学		【担当講師】 設楽 雅枝	
【年次・開講期】 1年次・前期	【時間】 16時間	【単位】 1単位	
【授業概要】 医療機関を利用する患者、家族、業者、また医療機関で一緒に働くスタッフとのコミュニケーションについて、その考え方や重要性を学ぶ。 また、社会人として、医療従事者として就業するに当たり、身だしなみや生活態度の基本についてもあわせて学ぶ。			
【到達目標】 挨拶・会話・行動等の基本的生活態度をとれる。 医療人としての身だしなみを整えられる。			
【教科書】			
【参考図書】 新歯科衛生士教本「歯科衛生士概論」医歯薬出版 デンタルハイジーン別冊「診療室のベーシックワーク」医歯薬出版 歯科衛生士vol.33「歯科衛生士の品格」クインテッセンス出版 デンタルハイジーン「歯科衛生士にとっての品格とは」医歯薬出版			
【授業方法】 講義			
【評価方法】 出席実績、授業態度、授業中に出す課題(レポート等)の提出実績、内容等により評価する。			
【授業計画】			
回	授業項目	授業内容	
1	オリエンテーション	入学後の間もない時期、自己紹介カードを用いたレクレーションを通じて学生同士のコミュニケーションを図る。	
2	コミュニケーションとは コミュニケーションの基本知識	コミュニケーションの基本知識として、聴く力、伝える力、人間関係を築く力について理解する。	
3	コミュニケーションのスキルアップ	コミュニケーション能力を高めるための方法を学び、日頃の生活の中での行動や態度について理解する。	
4	基本的生活態度について	社会人、医療人としての挨拶や言葉遣い、表情トレーニングについて学ぶ。また、職場や地域で気持ちよく安心な日々を送るための笑顔や会話のマナーについて学ぶ。	
5	医療人としての身だしなみについて	医療人としての身だしなみについて理解し、世代に関係なく医療人として受け入れられる身だしなみを考え、第一印象の重要性を学ぶ。	
6	会話ポイントについて	話を伝える上でのポイントや動機付けでの会話ポイントについて学ぶ。	
7	会話テクニックの練習	学生コトバと社会人コトバの違いを理解する。また、受付や電話、診療室内での応対について感じの良い言葉遣いと話し方を考え、友達同士実際に会話の練習を行う。	
8	医療機関で働くスタッフとのコミュニケーション	来院する患者やその家族、業者に対する配慮やマナーについて考え、心構えを学ぶ。また、チーム医療に携わった際の情報の共有、「報告・連絡・相談」について理解する。	

【科目名】		音楽		【担当講師】		木村 依子	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
校歌、戴帽式歌の合唱、国歌の斉唱を習得し、合唱を通して豊かな音楽表現につなげることを目的とする。 そのために発声法、呼吸法、姿勢などについても練習し、さまざまな合唱曲等を取り入れながらハーモニーの調和をとるよう演習する。							
【実務経験有】							
ヤマハ音楽教室ピアノ講師							
【到達目標】							
正しい姿勢、呼吸法を習得する。 合唱の響き、ハーモニーを感じられるようにする。 豊かな合唱表現を目指す。							
【教科書】							
校歌、式歌、他の楽譜を含むテキスト							
【参考図書】							
【授業方法】							
ピアノを使用し歌唱							
【評価方法】							
出席状況、歌唱の態度等を考慮							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	・校歌、戴帽式歌について ・姿勢、呼吸法、発声法			・校歌、戴帽式歌の歌詞、内容について理解する ・腹式呼吸の練習、発声練習をする。メロディー歌唱			
2	・校歌、戴帽式歌の斉唱			・腹式呼吸、発声練習、歌唱を通して声を出すことに慣れる ・校歌、戴帽式歌の歌詞やメロディーを把握			
3	・低声部の認識			・腹式呼吸、発声練習 ・歌詞の理解と発音練習			
4	・ハーモニーの認識			・腹式呼吸、発声練習 ・2声部の旋律を知りハーモニーの練習			
5	・合唱練習			・腹式呼吸、発声練習 ・パート分け			
6	・フレージング等内容充実			・腹式呼吸、発声練習 ・曲のフレージングを表現できるようにする			
7	・内容の定着を確認			・腹式呼吸、発声練習 ・歌詞の内容把握を確認			
8	・歌唱の音楽表現の充実			・腹式呼吸、発声練習 ・姿勢、発音、ハーモニーの調和など確認			

【科目名】		解剖学	【担当講師】	谷口 明慧		
【年次・開講期】		1年次・後期	【時間】	30時間	【単位】	2単位
【授業概要】						
歯科衛生士のための学習過程において、そのもっとも基礎となる人体構造の構造と機能について学習することを目的とする。ともすると用語の詰め込みになりやすい科目であるが、できるだけ相互の関連性やイラストを活用して実的な知識の整理をしながら学習することを目指す。 生理学、生化学、病理学などすべての科目の基礎となるが、やや知識が散漫に成りやすいので、各自知識を整理しながら学習にのぞんでほしい。						
【実務経験有】						
群馬大学歯科口腔外科・顎顔面外科：歯科医師						
【到達目標】						
1 人体という完成品の部品として各臓器や筋や神経の基本的な構造について理解する。 2 各臓器や筋と神経の機能と関連性について理解する。						
【教科書】						
歯科衛生士教本 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学						
【参考図書】						
南山堂 高野廣子 解剖生理学, 南山堂 伊藤隆 著 高野廣子 改訂 解剖学講義						
【授業方法】						
Zoomによるオンライン授業						
【評価方法】						
単位取得試験の結果が60%を超えたものを合格とする。 授業態度、授業中で適宜行う小テストの内容、結果によっては減点を課す場合がある。						
【授業計画】						
回	授業項目			授業内容		
1	◎人体の構成 ◎人体の区分、体の方向用語 ◎骨格系 1、概説(骨の機能、構造、形態) 2、骨の連結			・医学の一分野である歯科領域のパラメディカル分野である歯科衛生士にとって、歯科医師との意思疎通を図るための共通用語であるという認識を持つ ・人の運動は支持体である骨が必須であることを知る ・骨の連結様式が説明できるようにする		
2	◎骨格系① 3、骨の発生 4、実際の骨の構造 上肢骨			・骨の発生様式、再構成様式について学ぶ ・脊椎を構成する椎骨、肋骨、胸骨について学ぶ ・上肢の構成が上肢帯と自由上肢からなること、上肢帯とは鎖骨、肩甲骨で構成されていることを知る ・自由上肢が様々な骨で構成されていることを知る		
3	◎骨格系② 下肢骨 下肢帯の骨 自由下肢骨 ◎筋と運動① 1、筋の形状と分類			・下肢帯は骨盤であることを知る ・自由下肢が大腿骨、脛骨、腓骨といくつかの足の骨で構成されていることが説明できるようにする ・筋は骨格筋、平滑筋、心筋の3種類あることを知る ・骨格筋についてその収縮の機構について知る		
4	◎筋と運動② 2、体の各部位の筋系 頭部の筋 頸部の筋 背部の筋			・頭部、頸部、背部の筋について、その名称、機能神経支配について説明できるようにする ・とくに歯科領域に関係の深い頭部、頸部の筋については、口腔領域との関係について説明できるようにする		
5	◎筋と運動③ 胸部の筋 腹部の筋 上肢の筋 下肢の筋			・上肢、下肢の典型的な運動様式(屈曲、伸展、外転、内転、外旋、内旋、回内、回外)について把握し必要な筋の種類と神経支配について知る ・運動に重要な関節の名称、機能が説明できるようにする		

回	授業項目	授業内容
6	◎消化吸収① 消化と吸収の意義 消化器の構造 口腔、咽頭 食道、胃	・内臓がその機能から消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系、内分泌系で構成されていることを知る ・消化器は口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸で構成されてることが説明できるようする ・三大口腔腺について説明できるようする。
7	◎消化吸収② 小腸、大腸 肝臓、胆嚢、膵臓 腹膜 大腸の機能	・消化器の外分泌腺である肝臓と膵臓の形態と機能について説明できるようにする ・消化器のそれぞれの臓器における、腹膜の役割、および大網、腸間膜について説明できるようにする ・膵臓に内分泌部があることを知る
8	◎循環① 血管系の概要 血管の構造 吻合、終動脈 体循環、肺循環	・動脈、静脈の特徴について説明できるようにする ・動静脈吻合、終動脈の特徴や存在部位について説明できるようにする ・体循環・肺循環の重要性について学ぶ
9	◎循環② 心臓の位置と形態 心臓の内部構造 心臓壁の構造	・心臓の位置と形態、内部構造について知る ・刺激伝導系について説明できるようにする ・心臓壁の構造や心膜腔について知る
10	◎循環③ 動脈系 静脈系 静脈確保と静脈注射 胎児循環	・肺循環、体循環を構成する身体各所の血管の名称が説明できるようにする ・胎児循環と出産後の変化について知る ・肝硬変になった時にどのような症状が出るのかを知る(門脈系の役割が重要)
11	◎循環④ 1、リンパ系の概要とその機能 2、リンパ管とリンパ節 3、リンパ系と主なリンパ節 4、リンパ循環、胸腺、脾臓	・リンパ循環の役割と生体防御におけるリンパ系器官の重要性について知る ・リンパ節、リンパ小節の構造と役割、扁桃、胸腺、脾臓の役割について知る
12	脳脊髄膜 脳の血管 脊髄神経系 呼吸 1、外呼吸と内呼吸 2、呼吸器の構成 上気道 下気道 肺と気管、気管支 肺嚢胞と肺泡、肺の血管 3、気管と肺の神経支配	・脳脊髄膜が硬膜、クモ膜、軟膜で構成され、特にくも膜下腔内には脳脊髄液の循環があることを知る ・脊髄神経の走行と上肢・下肢の筋との関係を知る ・内呼吸と外呼吸の概念について理解する ・呼吸器系が鼻腔、咽頭、喉頭、気管、肺で構成されていることを知る ・呼吸は交感神経と副交感神経によって支配されている重要性について知る ・肺泡は単なる袋であること、横隔膜や外肋間筋の役割の重要性について知る
13	内分泌 1、内分泌器官とホルモン 2、内分泌器官の種類 3、内分泌器官の構造と機能 特殊感覚器 視覚器、平衡聴覚器 味覚器、嗅覚器	・内分泌系が下垂体、甲状腺、上皮小体、性腺、副腎で構成されていることを知る ・それぞれの臓器が分泌するホルモンと生理的機能について説明できるようにする ・特殊感覚器の構造と機能に関して理解する
14	生殖器 男性生殖器 女性生殖器 泌尿器 腎臓、尿管、膀胱、尿道	・男性生殖器と女性生殖器の構成、形態と機能、ホルモンとの関係について説明できるようにする ・泌尿器の構成と構造、働きについて知る
15	総括	・今までの講義内容で特に重要な点を再度確認する

【科目名】		組織発生学		【担当講師】		佐川 真実子				
【年次・開講期】			1年次・後期		【時間】		16時間	【単位】		1単位
【授業概要】										
歯科医学を習得するための基礎として人体の構造，機能についてミクロレベルの知識を身に付ける。 近年，バイオテクノロジーの目覚ましい進歩により基礎科目の国家試験出題数の増加がみられており、その重要性が再認識されている。組織・発生学で習得する形態学および機能的知識によって人体の正常構造を統合的に理解し、今後の基礎科目あるいは臨床科目の基礎となる学力を確実に身に付けることが重要である。										
【実務経験有】										
群馬大学歯科口腔外科・顎顔面外科：歯科医師										
【到達目標】										
講義を通して歯科医学の基本となる人体の細胞と構造，機能について理解する。 また，業者模試・国家試験に準じた試験問題を通じて国家試験合格基準レベル以上の解答力を身に付ける。 (1) 人体の正常な細胞および組織の構造を，組織学的用語で正確に述べる事が出来る。 (2) 人体に関連する細胞および組織構造とその肉眼的構造との関連性を述べる事が出来る。 (3) 人体の正常発生過程を理解し，臨床的に重要な先天異常の成り立ちを説明することが出来る。										
【教科書】										
最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能1 医歯薬出版										
【参考図書】										
(1)歯科衛生士教本 人体の構造と機能 医歯薬出版 (2)歯科衛生士教本 口腔解剖学・組織発生理口腔解剖学 医歯薬出版 (3)エッセンシャル口腔組織・発生学 西村書店 (4)Ten Cate口腔組織学 医歯薬出版 (5)デンタルスッフの人体解剖・組織学第 2版 医歯薬出版										
【授業方法】										
講義										
【評価方法】										
定期試験(評価比率100%)：詳細は講義中に説明する。 ※なお，定期試験不合格者については再試験を実施する。										
【授業計画】										
回	授業項目				授業内容					
1	イントロダクション				組織、発生					
2	細胞の構造と機能				細胞膜、オルガネラ(細胞内小器官)、核、細胞					
3	組織				上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織					
4	発生学①				染色体、減数分裂、精子、卵子					
5	発生学②				胚葉、胎児					
6	骨・筋の構造				骨・筋の組織学的構造					
7	神経の構造				神経の組織学的構造					
8	まとめ				まとめ					

【科目名】		生理学		【担当講師】		塩崎 秀一	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16 時間	
【単位】				【単位】		1単位	
【授業概要】							
生理学は解剖学と並んで、医学の基礎をなすものである。							
この授業では、生命活動を支える人体各部の機能を学び、疾患（正常機能が損なわれた状態です）の理解の基礎を作る。							
国家試験によく出る項目についても講義内で触れる。							
【実務経験有】							
生理学、病理学分野の研究者（医学博士）として長年従事							
【到達目標】							
生体機能として、体液の恒常性、循環、呼吸、あるいは、筋、神経、感覚系などの各機能を理解する。							
【教科書】							
新歯科衛生士教本 生理学、医歯薬出版							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
単位認定試験、出席率と授業への取り組み、提出レポートを総合評価する。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	細胞と組織			ガイダンス、生命とは？ 生命の単位である細胞や組織、また生命を支える機能を確認する。			
2	血液			血液の成分、機能 血液の凝固と溶解 血液型			
3	循環			心臓の機能とこれを支える構造や仕組み 心臓の自動性、興奮伝導系 心臓機能の調節			
4	循環			血管の構造と機能 血圧とその調節			
5	呼吸			呼吸器の機能 呼吸機能の調節 呼吸運動、肺活量			
6	消化			消化管（口腔、食道、胃、小腸、大腸）の機能とこれを支える構造や仕組み			
7	消化			肝臓、膵臓、胆のうの機能とこれを支える構造や仕組み			
8	泌尿			腎臓の機能とこれを支える構造や仕組み ネフロン			
9	内分泌			生体の調節系、主要なホルモンとその作用			
10	神経、感覚			神経単位（ニューロン）、神経の興奮の基礎、中枢神経系と末梢神経系 主要な感覚器の働き			

【科目名】		口腔解剖学	【担当講師】		矢内 太郎
【年次・開講期】		1年次・前期	【時間】		30時間
			【単位】		2単位
【授業概要】					
口腔解剖学は、主に人体の頭頸部の構造を理解することを目的とする。					
【実務経験有】					
矢内歯科医院院長：歯科医師					
【到達目標】					
3次元的に骨、筋肉、脈管が絡み合った複雑な構造を理解し、かつそれぞれの組織の名称や役割なども同時に理解する。					
【教科書】					
最新歯科衛生教本「解剖学・組織発生学・口腔解剖学」 医歯薬出版					
【参考図書】					
分担解剖学（金原出版）					
【授業方法】					
講義形式（教科書、パワーポイント）					
【評価方法】					
全授業終了後、マークシート試験を行う。					
60点以上の者を合格とする。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	◎ 口腔 1. 口腔とは 2. 口唇と頬		・口腔の定義について学ぶ。 ・口唇、頬の構造と働きについて知る。		
2	◎ 口腔前庭 1. 口唇と頬の粘膜 2. 移行部 3. 歯肉 4. 口腔前庭にみられるヒダ 5. 口腔前庭にみられる隆起 6. 歯肉の分布する血管 ◎ 固有口腔 1. 口蓋 2. 舌下部		・口腔前庭の部位の確認。 ・口唇や頬、歯肉の解剖学的構造を理解し、その機能についても学ぶ。 ・歯肉を構成する組織についても学ぶ。 ・口蓋と舌下部の場所と構造について知る。		
3	◎ 口峽 ◎ 舌 1. 舌の区分 2. 舌をおおう粘膜 3. 舌筋 4. 舌の動脈、静脈 5. 舌の神経		・口峽に存在する筋肉の名称と役割について学ぶ。 ・舌の解剖 （区分、粘膜の構造、筋肉の走行、動脈・静脈の流れ、神経の走行など）について学ぶ。		
4	◎ 唾液腺 1. 小唾液腺 2. 大唾液腺		・唾液腺の種類や分泌される唾液の性状について。 ・唾液腺の導管の走行について理解する。		
5	◎ 咽頭 1. 咽頭の区分 2. 咽頭の筋		・咽頭の定義について学ぶ。 ・咽頭部に存在する筋の名称、走行、働きについて理解する。		

回	授業項目	授業内容
6	◎ 頭蓋骨 1. 頭蓋の前面 2. 頭蓋の上面 3. 頭蓋の側面 4. 頭蓋の下面 5. 頭蓋の内面 ◎ 上顎骨 1. 上顎体 2. 上顎骨の突起 3. 歯槽管	・頭蓋骨は15種、23個の骨から構成されている。 それぞれの構造や神経、血管などが通る経路なども理解する。 ・上顎体を中心に上顎骨を構成する突起について学ぶ。 ・歯槽管を通る神経、動脈の分布を学ぶ。
7	◎ 口蓋骨 1. 鉛直板 2. 水平板 3. 翼口蓋窩 ◎ 下顎骨 1. 下顎体 2. 下顎枝	・口蓋骨の構造と口蓋骨内を通る神経、脈管について学ぶ。 ・下顎骨の構造の理解。下顎骨を通る神経、脈管や下顎骨に付着する筋肉についても学ぶ。 ・下顎骨は口腔解剖のなかでも特に重要であるためより深く理解する必要がある。
8	◎ 舌骨 ◎ 顎関節 1. 骨部 2. 被覆部 3. 関節円板 4. 関節包 5. 靱帯 6. 顎関節の機能	・舌骨の構造や付着する筋肉について学ぶ。 ・顎関節は複雑な構造を呈しており、下顎骨に付着する筋肉とともに下顎の運動を制御している。その複雑な構造と運動を理解する。
9	◎ 表情筋 1. 口裂周囲の筋 ◎ 舌骨上筋 1. 舌骨上筋群 2. 顎下三角とオトガイ三角	・表情筋の種類と走行について学ぶ。 ・舌骨上筋群の種類と付着部位、走行について学ぶ。 ・顎下三角とオトガイ下三角の部位について。そこに存在するリンパ節について学ぶ。
10	◎ 咀嚼筋	・咀嚼筋(咬筋、側頭筋、内側翼突筋、外側翼突筋)の走行と運動について。
11	◎ 口腔付近に分布する動脈 1. 総頸動脈 2. 外頸動脈 ◎ 口腔付近に分布する静脈 1. 内頸静脈 2. 頭頸部の動脈と静脈の差異	・頭頸部から口腔にかけて分布する動脈の走行について理解する。 ・頭頸部から口腔にかけて分布する静脈の走行について理解する。
12	◎ 頭頸部のリンパ系 1. 下顎底にあるリンパ節 2. 側頸部にあるリンパ節	・頭頸部のリンパ節の位置について学ぶ。
13	◎ 神経 脳神経 1. 三叉神経 2. 顔面神経 3. 舌咽神経 4. 迷走神経 5. 舌下神経 脊髄神経 1. 脊髄神経と脊髄神経叢の区分 2. 頭頸部に分布する脊髄神経 自律神経	・神経の種類について。 ・特に脳神経のうち、顎顔面周囲を支配する神経については深く理解する必要がある。 ・脊髄神経や自律神経の区分について学ぶ。
14・15	◎ 試験対策	・これまで学んだ授業の復習と試験直前のまとめを行う。

【科目名】		歯牙解剖学		【担当講師】		高松 透浩	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
【単位】		1単位					
【授業概要】							
歯牙解剖学は人間の歯根を含む歯牙の特徴や形態を学習し、その知識を臨床で活かして診療を行えるための基礎知識をつけることを目的とする。 特に歯根の形態を知ることが、歯科衛生士として効果的なスケーリング処置を行う上で必要なため、歯種に特徴的な歯根形態を知り、臨床に役立てられるようにする。							
【実務経験有】							
高松歯科医院院長（歯科医師）							
【到達目標】							
歯の表示法や記号について説明でき、歯の形態を歯種別に説明でき、歯種を鑑別できるようになる。 また、歯の形態異常について説明できる。							
【教科書】							
「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」							
【参考図書】							
「日本人 永久歯解剖学」上條雍彦 著							
【授業方法】							
講義形式および実習形式							
【評価方法】							
授業態度等で増減点する場合がある。 授業のあと筆記方式のテストを行う場合がある。60点以上の者を合格とする。 実習での歯牙彫刻の提出を行い、それによって増減点する場合がある。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	歯の機能・形態・種類・表示法			歯の機能・交換・植立について理解する。歯の各部の名称について理解する。永久歯と乳歯の種類と数および表示方法について理解する。			
2	歯の位置による名称、左右識別			歯の位置による名称について理解する。 ミュルラーターの三徴候について理解する。			
3	上顎中切歯・側切歯・犬歯 下顎中切歯・側切歯・犬歯			上下顎中切歯・側切歯・犬歯の特徴について理解する。			
4	上下顎小臼歯			上下顎第一・第二小臼歯の特徴について理解する。			
5	上下顎大臼歯			上下顎第一・第二大臼歯の特徴について理解する。			
6	乳歯の特徴と永久歯との比較			乳歯の特徴について理解し、永久歯との違いを理解する。 乳中切歯・乳側切歯・乳犬歯・乳臼歯の形態と特徴について理解する。			
7	特色のある歯の形態			典型的な歯の形態とは異なる歯の状態について理解する。			
8	歯形彫刻実習			代表的な歯牙の形態を立体的に理解する。 ワックス棒を使いノギスとエヴァンスの使用法になれる。			

【科目名】		口腔組織発生学		【担当講師】		藤田 慶恵	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16 時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
歯科医学を習得するための基礎として人体の細胞と構造，機能についてミクロレベルの知識を身に付ける。近年，バイオテクノロジーの目覚ましい進歩により基礎科目の国家試験出題数の増加がみられており，その重要性が再認識されている。口腔組織・発生学で習得する形態学および機能的知識によって口腔の正常構造を統合的に理解し，向後の基礎科目あるいは臨床科目学習の基礎となる学力を確実に身につけることが肝要である。							
【実務経験有】							
歯科医師として実務経験あり							
【到達目標】							
講義を通して歯科医学の基本となる人体の細胞と構造，機能について理解する。また，業者模試・国家試験に準じた試験問題を通じて国家試験合格基準レベル以上の解答力を身に付ける。 (1) 口腔の正常な細胞および組織の構造を，組織学的用語で正確に述べる事が出来る。 (2) 口腔に関連する細胞および組織構造を述べる事が出来る。 (3) 口腔の正常発生過程を理解し，臨床的に重要な先天異常の成り立ちを説明することが出来る。							
【教科書】							
(1)歯科衛生士教本 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 医歯薬出版							
【参考図書】							
(1)口腔の発生と組織改訂4版 南山堂							
【授業方法】							
授業							
【評価方法】							
定期試験（評価比率100%）：国家試験に準ずるマークシート形式の試験にて評価を行う。 ※なお，定期試験不合格者については猛省と再度の学習・理解を促すため，再試験を実施する。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	顔面と口腔の発生			鰓弓や突起，口蓋と鼻腔などのポイントを理解し，顔面と口腔の発生について理解できるようにする。			
2	歯と歯周組織の発生			歯胚の形成や発生，歯牙の交換について理解できるようにする。			
3	エナメル質			エナメル質の正常組織構造を理解する。			
4	象牙質・歯髄			象牙質・歯髄の正常組織構造を理解する。			
5	セメント質・歯根膜			セメント質・歯根膜の正常組織構造を理解する。			
6	歯槽骨・歯肉			歯槽骨・歯肉の正常組織構造を理解する。			
7	総復習			講義内容の総復習を行い，定期試験・国家試験における口腔組織発生学分野の出題ポイントと解法を学ぶ。			
8	総復習			講義内容の総復習を行い，定期試験・国家試験における口腔組織発生学分野の出題ポイントと解法を学ぶ。			

【科目名】		口腔生理学		【担当講師】		塩崎 秀一	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
生理学は人体各部の働きを学ぶ学問であり、解剖学と並んで、医学の基礎をなすものである。 口腔生理学の授業では、口腔の機能と野の背景にある仕組みを学び、 疾患（正常機能が損なわれた状態です）の理解の基礎を作る。 国家試験によく出る項目についても講義内で触れる。							
【実務経験有】							
【到達目標】							
口腔に関する基本構造と機能を理解する。							
【教科書】							
新歯科衛生士教本 口腔生理学、医歯薬出版							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
単位認定試験、出席率と授業への取り組み、提出レポートを総合評価する。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	口腔生理の基礎			ガイダンス、口腔の様々な機能 口腔やその周辺器官のさまざまな機能を確認する。 口腔機能を支える神経や筋などの基本構造を確認する。			
2	咬合、下顎の働き、咀嚼			下顎位、下顎の運動、咀嚼筋 顎反射 咀嚼とは、その役割を確認			
3	咀嚼と嚥下			嚥下の3相 嚥下障害			
4	舌			舌のさまざまな機能を確認 舌の機能を支える基本的な構造を確認			
5	舌			おもな舌筋、舌の支配神経などを確認			
6	唾液			唾液の性状と成分、唾液のもつ機能、主な唾液腺 唾液分泌の調節			
7	味覚、口腔内の感覚			味覚の役割、味覚の器官の確認 味覚障害とその原因 口腔内の感覚とその役割			
8	感覚と神経			口腔のおもな感覚とその支配神経を確認			
9	発声			発声機構の概要 声の生成 言語音の形成			
10	発声			構音障害、歯や口腔病態と発音 全体のまとめ			

【科目名】		病理学Ⅰ	【担当講師】		天笠 稔
【年次・開講期】		1年次・前期	【時間】		16時間
			【単位】		1単位
【授業概要】					
病理学は、病気の原因、発症の機序、進展、および転帰を明らかにし、病気の予防や治療の基礎となる知見を統合する学問である。					
総論で述べられている病理学的な考え方は医学の基礎であり、医療に携わる者が共通に身につけなければならない基本です。					
職業として患者に直接接したり保健活動を行う歯科衛生士にとってとても重要な学科である。					
【実務経験有】					
天笠歯科医院開設・院長（歯科医師）					
【到達目標】					
疾患の多様性と共通性について説明できる。					
炎症とは何かを説明できる。					
良性腫瘍と悪性腫瘍について説明できる。					
【教科書】					
最新歯科衛生士教本 病理学・口腔病理学 医歯薬出版					
【参考図書】					
【授業方法】					
講義形式は、パワーポイントを使い教科書に沿って授業を進めます。					
授業中に随時質問を投げかけます。					
【評価方法】					
全授業の終了後、記述式試験を行う。合計得点（100点満点）の60点以上の者を合格とする。					
出席実績、授業態度、授業中に出す課題（レポート等）の提出実績・内容により減点を科す場合がある。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	病理学序論と病因論		疾病の多様性と共通性について説明できる。 疾病の経過と転帰について説明できる。 疾病の原因である病因と疾病の成り立ちについて説明できる。 内因について説明し、具体例を列挙できる。 外因について説明し、具体例を列挙できる。		
2	遺伝性疾患と奇形		遺伝子の働きについて説明できる。 遺伝性疾患を概説できる。 先天異常について概説できる。 奇形の成因について説明できる。		
3	循環障害		体液の循環について概説できる。 虚血を説明できる。 うっ血と充血を説明できる。 浮腫を説明できる。 ショックについて概説できる。 閉塞性循環障害について概説できる。 血栓症を説明できる。 梗塞を説明できる。 粥状動脈硬化症を説明できる。 側副循環を説明できる。		

回	授業項目	授業内容
4	代謝障害と退行性病変	細胞障害による変化を列挙できる。 変性の種類を列挙できる。 代謝障害の種類を列挙できる。 壊死と壊疽、壊死とアポトーシスの違いを説明できる。
5	増殖と修復	刺激や傷害に対する能動的な反応の種類と意義を説明できる。 創傷治癒や再生の基本的な考え方を概説できる。 さまざまな異物に対する生体の処理法について説明できる。 進行性病変において重要な役割を果たす肉芽組織の構成と機能について説明できる。
6	炎症	炎症とは何かを説明できる。 炎症の臨床症状を説明できる。 炎症の原因と機序を説明できる。 炎症の経時的変化を説明できる。 炎症の分類と各炎症の特徴を説明できる。
7	免疫応答異常	免疫応答を説明できる。 液性免疫と細胞性免疫の特徴を説明できる。 アレルギー・自己免疫疾患・免疫不全症・移植免疫を概説できる。
8	腫瘍	腫瘍の定義を説明できる。 腫瘍の原因と発生機序を説明できる。 がん遺伝子とがん抑制遺伝子について説明できる。 腫瘍の組織学的特徴を説明できる。 上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の代表的なものを列挙できる。 良性腫瘍と悪性腫瘍について説明できる。 前がん病変について説明できる。

【科目名】		病理学Ⅱ		【担当講師】		鈴木 啓佑	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
病理学は病気がどのように発生するかを明らかにする学問です。その研究により病気の予防や治療につながることを目標としています。様々な病気の基礎として病理学Ⅰで学び、口腔領域の各論について病理学Ⅱで学習を行います。歯のう蝕や歯周組織の病変について学習から口腔粘膜や顎骨に生じる病変まで多岐にわたる疾患を取り扱います。各分野の学習の礎となるよう、口腔歯科疾患の学問の見地を広げる科目となっています。							
【実務経験有】							
群馬大学大学院医学系研究科 口腔顎顔面外科学講座・形成外科学講座 助教 歯科医師							
【到達目標】							
・口腔歯科疾患の主体となる、「う蝕」と「歯周病」の成り立ちについて理解する。 ・口腔粘膜疾患や顎骨病変などの臨床業務で比較的遭遇頻度が高い疾病について理解する。 ・上記を含む、口腔内に発症する多様な疾病について理解する。							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学 医歯薬出版株式会社							
【参考図書】							
なし							
【授業方法】							
講義資料(プリント)を配布し、教科書の内容を盛り込んだ、写真やシェーマ付きのスライドを利用した講義を行います。							
【評価方法】							
・単位取得試験を行う(形式は選択解答問題と記述解答問題のいずれも含む) ・試験に得点に加えて授業態度を考慮して総合評価を行う。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	・口腔病理各論①			第1章 歯の発育異常 第2章 歯の損傷と付着物			
2	・口腔病理各論②			第3章 う蝕			
3	・口腔病理各論③			第4章 象牙質・歯髄複合体の病態 第5章 歯周組織の病態①			
4	・口腔病理各論④			第5章 歯周組織の病態② 第6章 口腔粘膜の病変			
5	・口腔病理各論⑤			第7章 口腔領域の嚢胞と腫瘍 第8章 口腔癌			
6	・口腔病理各論⑥			第9章 顎骨の病変 第10章 唾液腺の病変			
7	・口腔病理各論⑦			第11章 口腔領域の奇形 第12章 口腔組織の加齢変化			
8	・口腔病理学のまとめ			第1～12章のまとめ			

【科目名】		微生物学Ⅰ	【担当講師】		白土 佳子
【年次・開講期】		1年次・前期	【時間】		16時間
			【単位】		1単位
【授業概要】					
歯科領域の疾患では微生物による感染症が最も多いことから、疾患の原因となる種々の病原微生物の特徴(性状)とその病原性について学習する。とくに、細菌やウイルスなどの病原微生物による感染症とその感染経路や検査法について学習する。また、この病原微生物に対して、感染防御のために備わっている生体の免疫機構について学習する。					
【実務経験有】					
埼玉県立大学教員、臨床検査技師として微生物、免疫分野の教育や検査の実務経験有り					
【到達目標】					
病原微生物の種類とその性状、病原性を理解する。病原微生物が原因となって発症する感染症とその感染経路を理解する。これら病原微生物の攻撃を防御するため生体に備わっている免疫機構である自然免疫と獲得免疫について学び、これらの免疫機構を担う細胞の種類とその役割について理解する。さらに、獲得免疫については細胞性免疫と液性免疫について学び、病原微生物に対する生体(宿主)の免疫機構(宿主防御機構)を理解する。					
【教科書】					
最新 歯科衛生士教本 微生物学（医歯薬出版）					
【参考図書】					
【授業方法】					
配布資料					
【評価方法】					
試験により評価を行い、60点以上を合格とする。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	疾病と微生物		微生物について、生物界における位置づけと分類を学習する。また、病原微生物から身を守るために発展してきた微生物学の歴史について学習する。		
2	病原微生物の検査法 (顕微鏡による形態観察と細菌培養)		病原微生物の検査法である顕微鏡観察を行うための染色法と、細菌を集落として目視できるようにするための培養法についてその方法と種類を学習する。染色性状の違いによる分類について学習する。		
3	細菌各論Ⅰ(グラム陽性菌)		グラム陽性球菌およびグラム陽性桿菌の代表的な菌種を取り上げ、その特徴(性状、病原性、感染症とその感染経路等)やについて学習する。		
4	細菌各論Ⅱ(グラム陰性菌)		グラム陰性球菌およびグラム陰性桿菌の代表的な菌種を取り上げ、その特徴(性状、病原性、感染症とその感染経路等)について学習する。		
5	ウイルス		ウイルスの特徴や構造、感染増殖様式について解説するとともに、医療従事者として知っておくべきウイルス感染症とその感染経路について学習する。		
6	真菌、原虫、プリオン		真菌、原虫、プリオンの特徴や構造、感染増殖様式、それらが引き起こす感染症その感染経路について学習する。		
7	宿主防御機構と免疫Ⅰ		外界から侵入する病原体などに対する生体防御機構には先天的に備わっている自然免疫と後天的に得られる獲得免疫について学習する。		
8	宿主防御機構と免疫Ⅱ		抗原抗体反応の種類とこれらを利用した検査法、獲得免疫を利用した感染症の予防法であるワクチン、免疫系の過剰反応の結果起こるアレルギーについて学習する。		

【科目名】		微生物学Ⅱ		【担当講師】		杉山 達也	
【年次・開講期】		1年次・後期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
本講義では、口腔内疾患の原因菌とその性状、またこれら病原微生物に対する抗菌薬、消毒・滅菌について解説する							
【実務経験有】							
医療法人杉山歯科医院院長（歯科医師）							
【到達目標】							
歯科疾患とその原因菌の関係について理解する							
【教科書】							
新歯科衛生士教本 微生物学（全国歯科衛生士教育協議会 編集：医歯薬出版）							
【参考図書】							
配布資料							
【授業方法】							
下記の授業計画に従って、教科書の内容を網羅した配布資料とスライドで講義を行なっていく							
【評価方法】							
試験による。60点以上を合格とする。60点未満の者は再試験を行い判定する。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	歯科疾患と微生物学			歯科衛生士としてなぜ微生物学を学ばなければならないのかを理解してもらうため、歯科疾患と微生物の関わりについて講義する。			
2	口腔内微生物（Ⅰ）			口腔内に微生物が定着する機構並びに細菌叢について講義する。			
3	口腔内微生物（Ⅱ）			口腔内に常在する微生物の種類並びにバイオフィルム形成について講義する。			
4	齲蝕症			齲蝕症と微生物の関係並びにその発症機構を概説する。			
5	歯周病			歯周病と微生物の関係並びにその発症機構を概説する。			
6	口腔内感染症			口腔内に症状が認められる各種感染症について講義する。			
7	化学療法			口腔内微生物に対する化学療法について概説する。			
8	消毒・滅菌			口腔内微生物に対して臨床上行われている消毒・滅菌について講義する。			

【科目名】		薬理学Ⅰ		【担当講師】		島村 好則	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
【単位】				【単位】		1単位	
【授業概要】							
薬理学は、薬物を生体に与えた場合に生体が表す反応を考究したり、疾病の治療、予防、診断における薬物療法基礎となる研究を行い、その知識を与えるのが薬理学です。新薬を開発して克服してきました。しかしその道程は時間がかかったり多くの犠牲を払うこともあります。一方で薬には、意に反して起こり人体に害を及ぼす薬害と言う健康被害がもたらされる事があり、この歴史と概要も学び、この対処機構についても学びます。							
【実務経験有】							
実務経験数28年 しまむら歯科医院開設・院長（歯科医師）							
【到達目標】							
薬理作用の基本原理を理解する。薬物の生体内の動態について理解する。							
様々な薬品の特性、薬事法、薬物の保管方法を習得する。							
薬物の作用に影響する因子、薬物を適用する際の注意事項注意事項、副作用について学ぶ。							
【教科書】							
歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学							
【参考図書】							
【授業方法】							
教科書の解説をし、重要な箇所や国家試験に過去に出題された問題を解説します。							
まとめたスライドで解説します。							
【評価方法】							
6月末に講義8回分の範囲の試験を行います。その点数と、薬害についてのレポートを提出して頂きます。							
試験とレポートの合計の60点以上を合格とします。							
【授業計画】							
回	授業項目	授業内容					
1	薬物の作用	薬物療法の種類、薬理作用の様式、薬理作用の基本形式、薬理作用分類、用量反応関係と薬用量の用語、薬理作用機序					
2	薬物動態	薬物の生体膜通過様式と通過に影響する因子、薬物の吸収分布代謝排泄、薬物動態のパラメーター					
3	薬物の作用適用方法の種類と特感染症の歴史と薬物	薬物の適用方法の種類、適用方法の違いによる血中濃度の推移、生物学的利用能、感染症の種類と時代的变化、抗生物質とワクチンの開発					
4	薬物の作用に影響を与える要因	薬効に影響する因子・生体の感受性、薬物の連用併用、薬物相互作用					
5	薬物の副作用、有害作用薬害	薬物の有害作用の分類と原因、有害作用の予知と回避					
6	医薬品を適用する際の注意	ライフステージと薬物、服薬指導					
7	薬物の取り扱い	医薬品の財形、処方箋、調剤と配合変化、薬物の保存方法					
8	薬物と法律・薬物と医薬品	医薬品医療機器等法、日本薬局方、毒薬劇薬の表示と保存方法 麻薬及び覚醒剤取締法					

【科目名】		薬理学Ⅱ		【担当講師】		鈴木 君弘	
【年次・開講期】		1年次・後期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
薬理学とは、薬物を生体に与えて場合に生体が現す反応を研究する学問である。 各論では、中枢神経系、抹消神経系、呼吸器系、循環器系及び消化器系に作用する薬物についての作用機序、特徴、副作用について理解する。さらに、歯科疾患に対して臨床で使用される使用薬についても理解し、患者様に説明できる。							
【実務経験有】							
歯科医師 医療法人 弘誠会 すずき歯科医院 理事長							
【到達目標】							
薬理学の意義、薬理作用と薬物の作用機序を理解する。薬物の副作用、有害事象について理解する。 疾患に応じた薬物療法について代表的な薬物について理解する。 結果、国家試験に合格できる薬理学の知識の習得を目標とする。							
【教科書】							
疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学 第2版 II編 各論(P66～205)							
【参考図書】							
教科書の内容に沿った講師作成プリント							
【授業方法】							
プリント内の空欄を埋めながら説明・解説							
【評価方法】							
授業態度・試験・レポートの総合で判断。 出席状況4/8以上で試験受験可。 全授業終了後、国家試験形式の問題28問、空欄記入問題12問の計50問の試験を実施。 授業中に紹介した書籍についてのレポートを希望者は提出(最大6点まで加算)。 総合計得点60点以上で科目単位所得。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	12章 炎症と薬 15章 抗感染症薬			アラキドン酸カスケードを理解し、炎症のケミカルメディエーターを介してステロイド及び非ステロイド性抗炎症薬の代表的な作用機序と薬物・薬理作用を説明。			
2	15章 抗感染症薬 16章 消毒に使用する薬物			一般臨床において多く処方される抗感染症薬の種類を覚え、その作用、作用機序及び副作用について説明。			
3	4章 循環器に作用する薬物 5章 腎臓に作用する薬物			1～2回の空欄記述小テスト 循環系特に高血圧症に使用する薬物について説明			
4	6章 呼吸器系に作用する薬物 8章 血液に作用する薬物			呼吸器系特に喘息に使用する薬物について説明。非ステロイド性抗炎症薬のと危険性を説明			
5	17章ウ蝕予防薬 18章 歯内療法 19章 歯周疾患治療薬 20章 顎口腔粘膜疾患と薬			1～4回の小テスト 齲蝕の発生メカニズム、歯周組織をを理解した上で、齲蝕予防薬、歯内治療薬、歯周治療薬、口腔薬について説明。			
6	13章 痛みと薬 14章 局所麻酔薬			痛みのしくみ及び歯科臨床で使用する局所麻酔薬を説明			
7	2章 抹消神経系に作用する薬物 3章 中枢神経に作用する薬物			1～6回までの小テスト。神経の分類を理解し、中枢神経系・抹消神経系、自律神経系・体性神経系の伝達物質を説明。			
8	これまでの授業の総復習 定期テスト対策授業			これまでの授業の総復習			

【科目名】		栄養と代謝Ⅰ		【担当講師】		倉知 正	
【年次・開講期】		1年次・ 前期		【時間】		16 時間	
【単位】				【単位】		1 単位	
【授業概要】							
栄養と代謝Ⅰ(基礎生化学)は生物を構成する物質の化学であり、生命・病気の理解に必須の学問である。 生命には、糖質、脂質、タンパク質、補酵素、ビタミン、ホルモンなどの生体分子の質的・量的バランスの上に成り立っており、これらの生体分子の質的・量的バランスは生合成系と代謝系により決定される。本教科では、生命の基本単位である細胞の構造、生体分子の構造・性質、細胞内の遺伝情報の流							
【実務経験有】							
群馬医療福祉大学 医療技術学部							
【到達目標】							
(1)細胞の基本構造と細胞小器官の働きを理解する。(2)生体高分子の基本的な構造と機能を理解する。(3)糖質・脂質・タンパク質の代謝の基礎について理解する。(4)遺伝情報の流れを理解する。(5)恒常性を保つ仕組みを理解する。							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
全授業終了後に講義内容の理解度を試験(マークシート形式・記述形式)により評価し、60点以上の者を合格とする。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	生体の構成要素			細胞の構造と細胞小器官、生体における水、生体構成要素と栄養素			
2	生体における化学反応			消化と吸収、酸素の運搬と二酸化炭素の排出、酵素			
3	糖質の構造と代謝(1)			エネルギー代謝、解糖、グリコーゲン			
4	糖質の構造と代謝(2)			クエン酸回路、電子伝達系			
5	脂質の構造と代謝			脂肪酸の酸化(β酸化)、脂肪の合成			
6	タンパク質とアミノ酸の代謝(1)			アミノ酸の代謝分解			
7	タンパク質とアミノ酸の代謝(2)			DNAと遺伝子、タンパク質の合成			
8	生体における恒常性の維持			恒常性(ホメオスタシス)、血液の緩衝能と血糖値、ホルモン			

【科目名】		栄養と代謝Ⅱ		【担当講師】		石原 宏一	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
口腔組織の構成成分、唾液、歯垢の構成成分を学ぶ。							
【実務経験有】							
歯科医師、医学博士:臨床経験21年							
【到達目標】							
1 食生活と咀嚼、食品とう蝕誘発性の相関性について理解する。							
2 結合組織、歯の構成成分、石灰化の仕組みについて理解する。							
3 唾液、歯の堆積物、う蝕と歯周疾患の免疫学の基本知識を習得する。							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝 医歯薬出版株式会社							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
全授業の終了後、マークシート試験を行う。合計得点(100点満点)の60点以上の者を合格とする。							
出席実績、授業態度、授業中に出す課題(レポート等)の提出実績・内容により減点を科す場合がある。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	1章 歯と歯周組織の生化学 1、歯と歯周組織の生化学 2、結合組織の生化学			① 結合組織の組成と機能を学ぶ ② 繊維状タンパク質(コラーゲン)とは何かを理解する ③ プロテオグリカンの化学的性質・生理的機能及び ④ 代謝について学ぶ ⑤ 接着性タンパク質とは何か理解する ⑥ コラーゲンの合成過程を理解する ⑦ 細胞外マトリックスの分解過程を理解する			
2	3、歯の生化学 2章 硬組織の生化学 1、血清中のカルシウムとリン酸			⑧ 歯の組成、歯の無機成分、有機成分の特徴について学ぶ ① 血清中のカルシウムとリン酸濃度と、その活動度積について理解する			
3	2、石灰化の仕組み			② 基質小胞説を理解する ③ 押し上げ説と核形成説を理解する			
4	3、骨の生成と吸収 4、歯の脱灰と再石灰化			④ 骨芽細胞と破骨細胞の特徴を学ぶ ⑤ 血清カルシウム調節ホルモン(副甲状腺ホルモン・カルシトニン・ビタミンD)を理解する ⑥ 歯の脱灰とキレート作用の相関性について理解する			

回	授業項目	授業内容
5	3章 唾液の生化学 1、唾液の組成と機能	① 唾液の無機質について学ぶ ② 唾液の有機質について学ぶ ③ 唾液の低分子量成分について学ぶ
6	4章 プラークの生化学 1、プラークの生物活性	① プラークの種類・組成について理解する ② プラークの形成について理解する ③ プラークによる糖からの酸産生過程について理解する
7	2、プラークによるう蝕発症機構 ー多因子性疾患としてのう蝕ー	④ 糖とう蝕との関連性を学ぶ ⑤ プラークとう蝕との関連性を学ぶ ⑥ 歯とう蝕との関連性を学ぶ ⑦ 唾液とう蝕との関連性を学ぶ ⑧ 食生活とう蝕との関連性を学ぶ ⑨ う蝕予防法(フッ化物・代用甘味料)について学ぶ
8	3、プラークによる口臭発症機構 4、プラークによる歯周疾患発症機構	⑩ 細菌活性について学ぶ ⑪ 生体防御機構と炎症反応について学ぶ ⑫ リポ多糖(LPS)とは何かを学ぶ

【科目名】		栄養と代謝Ⅲ		【担当講師】		大美賀 由美子	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
各栄養素の種類と、その特徴や働きについて学び、消化・吸収の仕組みを知る。 また、現在の日本人の栄養素摂取状況についても学ぶ。							
【実務経験有】							
管理栄養士 足利市において、特定保健指導、糖尿病性腎症重症化予防保健指導、地域ケア会議の助言者など							
【到達目標】							
国家試験合格のための知識に留まらず、自分自身や家族、患者さんの健康管理に役立てるようになる。							
【教科書】							
人体の構造と機能2 栄養と代謝							
【参考図書】							
日本人の食事摂取基準 基礎栄養学							
【授業方法】							
講義 1回毎に「復習シート」を配布し各自の学習に役立てる。							
【評価方法】							
マークシート式の試験を行い、100点満点中60点以上を合格とする。不合格者は再試験。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	糖質の栄養的意味 p140～p145			糖質の種類 生体での役割 糖質の必要量・給源 単糖類 二糖類 多糖類			
2	タンパク質の栄養的意味 p145～p152			タンパク質の種類 生体での役割 タンパク質の必要量・給源 必須アミノ酸 非必須アミノ酸			
3	脂質の栄養的意味 p152～p157			脂質の種類 生体での役割 脂質の必要量・給源 飽和脂肪酸 不飽和脂肪酸 必須脂肪酸			
4	ビタミンの栄養的意味 p157～p162			ビタミンの種類 生体での役割 ビタミンの必要量・給源 水溶性ビタミン 脂溶性ビタミン			
5	ミネラルの栄養的意味 p162～p170			ミネラルの種類 生体での役割 ミネラルの必要量・給源 多量元素 微量元素			
6	水 食物繊維の栄養的意味 p170～p174			水の働き・代謝 水の必要量・給源 食物繊維の働き 食物繊維の必要量・給源			
7	食生活と栄養 p116～p119			日本人の栄養素摂取状況			
8	栄養素の消化・吸収 p120～p126			消化作用の種類 栄養素ごとの吸収率			

【科目名】		保健生態学Ⅰ		【担当講師】		松本 光史	
【年次・開講期】		1年次・後期		【時間】		30時間	
【単位】		2単位					
【授業概要】							
公衆衛生学は、人間の健康問題を様々な要因の相互関係で考えていくことを目的とする。 そのためには、地球、国、地域、集団における現状を正確に把握し、それを解析する能力が必要となってくる。本教科では、この力を養うために、周囲の環境、疾病の予防方法、さらには地域・国家・世界におけ保健機構について学習する。ここから健康を阻害する要因を多方向から観察し、集団に対する予防方法を実施するための基礎的能力を習得することを目的とする。							
【実務経験有】							
阪東歯科クリニック: 歯科医師							
【到達目標】							
1 わが国の健康水準の現況を理解する。 2 公衆衛生のための制度・対策の概要を理解する。 3 生活環境と疾病との関係、環境汚染の防止に関する基本的知識を習得する。							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 保健生態学 医歯薬出版株式会社							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義形式(教科書, プリント, スライド)および問題解決型授業の形式を適宜取り入れる							
【評価方法】							
全授業の終了後、マークシート試験及び記述試験を行う。60点以上の者を合格とする。 出席実績、授業態度により減点を科す場合がある。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1・2	総論 1. 健康とは何か 2. 障害に対する接近法 3. 健康づくり運動の変遷 4. 広義の予防とは 5. 国際保健 6. プライマリーヘルスケア 7. ヘルスプロモーション 8. 医療の倫理			1. 世界保健機構(WHO)の健康の定義を言えるようにする 2. ICFを理解し、ICIDHとの違いを説明できるようにする 3. 健康日本21を知り、その概略を説明できるようにする 4. LeavellとClarkの1次予防、2次予防、3次予防を理解し、具体例をあげて説明できるようにする 5. プライマリーヘルスケアについて説明できるようにする 6. ヘルスプロモーションについて説明できるようにする 7. ニュルンベルグ綱領、リスボン宣言、ヘルシンキ宣言、ジュネーブ宣言について説明できるようにする			
3・4	疫学 1. 有病率、罹患率 2. 疫学研究の概念 3. 疫学の実際 4. コホート研究 5. 患者対照研究			1. 罹患率と有病率の違いを説明できるようにする 2. 記述疫学の目的と方法を説明できるようにする 3. 分析疫学の目的と方法を説明できるようにする 4. 横断研究と縦断研究の違いを説明できるようにする 5. 患者対照研究について具体例をあげて説明できるようにする 6. コホート研究について具体例をあげて説明できるようにする 7. 相対危険度について説明できるようにする 8. 寄与危険度について説明できるようにする 9. オッズ比について説明できるようにする			

回	授業項目	授業内容
5・6	人口Ⅰ 1. 人口静態統計 2. 人口動態統計 3. 国勢調査 4. 我が国の人口構造の推移 5. 人口ピラミッドとは何か 6. 人口指標とは何か 7. 世界人口とは何か 8. 出生率について	1. 人口動態統計と人口静態統計の違いを説明できるようにする 2. 国勢調査について説明できるようにする 3. 静態統計、動態統計から分かるものを説明できるようにする 4. 人口ピラミッドの形を分類し、それぞれの形の特徴、兆候について我が国の状況も含め説明できるようにする 5. 年齢別人口構造と計算式を理解し、それを使って我が国の人口構造推移(高齢化)を説明できるようにする 6. 世界人口の推移を説明できるようにする 7. 再生産率について説明できるようにする 8. 合計特殊出生率について、我が国の状況を含め説明できるようにする 9. 総再生産率について、我が国の状況を含め説明できるようにする 10. 純再生産率について、我が国の状況を含め説明できるようにする 11. 将来的な我が国の人口状態の予想と、少子化の要因について説明できるようにする
7・8	人口Ⅱ 1. 死亡率 2. 死因分類 3. 疾病構造の変化 4. 死産、乳児死亡、周産期死亡、妊産婦死亡 5. 生命表の見方 6. 健康寿命	1. 国民死因の推移を説明できるようにする 2. 生活習慣病についてそれぞれの原因、状態を説明できるようにする 3. 各動態統計指標と定義を説明できるようにする(死亡率、PMI、早期新生児死亡率、新生児死亡率、乳児死亡率、周産期死亡率、死産率、死産比) 4. 生命表とは何かを説明できるようにする 5. 健康寿命とは何かを説明できるようにする 6. 前半の講義内容についての復習問題演習、解説
9・10	感染症 1. 感染の原因、経路 2. 感染予防について 3. 感染症の分類	1. 感染源について例を挙げて説明できるようにする 2. 感染経路について分類が出来、例を挙げて説明できるようにする 3. 免疫について説明できるようにする 4. 感染経路対策について例を挙げて説明出来るようにする 5. 感染源対策について例を挙げて説明できるようにする 6. 宿主の感受性対策について例を挙げて説明できるようにする 7. 予防接種(ワクチン)を分類できるようにする 8. 新興感染症、再興感染症を例をあげて説明できるようにする 9. A型B型C型肝炎を説明できるようにする 10. 指定感染症について例を挙げて説明できるようにする
11・12	食品と健康 1. 栄養所要量 2. 国民健康・栄養調査 3. 食中毒 4. 食品保健	1. 栄養所要量について説明できるようにする。 2. 推奨平均必要量、推奨量、目安量、許容上限摂取量を習慣的な摂取量のグラフを用いて説明出来るようにする 3. 我が国の栄養摂取状況について説明できるようにする 4. 各種の目標摂取量について説明出来るようにする 5. 細菌性食中毒を分類し、その種類、違いについて説明できるようにする 6. ウィルス性食中毒を分類し、その種類、違いについて説明できるようにする 7. 特別用途食品、保健機能食品の種類や違いについて説明できるようにする

回	授業項目	授業内容
13・14	健康と環境Ⅰ 1. 生活環境 2. 物理環境 3. 科学環境	1. ホメオスタシスを説明できるようにする 2. 正常空気成分について説明できるようにする 3. 空気の異常成分と健康被害を説明できるようにする 4. 感熱環境の測定器具と評価指数についてする (アスマン通風乾湿計、カタ寒暖計、黒球寒暖計) 5. 不快指数とは何かを説明できるようにする 6. 感覚温度とは何かを説明できるようにする 7. 飲料水に求められる要件を言えるようにする 8. 浄水法を分類し説明できるようにする 9. 下水の水質基準と処理法を分類し説明できるようにする
15	健康と環境Ⅱ 1. 地球環境 2. 廃棄物 3. 環境リスクと事故	1. 気候型を分類できるようにする 2. オゾン層破壊、温暖化など地球環境について説明できるようにする 3. 公害事件の原因物質と症状を説明できるようにする 4. 大気汚染物質と症状を説明出来るようにする 5. 廃棄物処理とくに医療廃棄物の分別処理を説明できるようにする

【科目名】		保健生態学Ⅱ		【担当講師】		外丸 雅晴	
【年次・開講期】		1年次・前期		【時間】		30時間	
				【単位】		2単位	
【授業概要】							
口腔疾患を予防し、口腔の健康を保持増進するための知識と技術を習得する							
口腔疾患予防のために歯科衛生士として重要とされる判断能力、問題解決能力を習得する							
医療人としての医療哲学の形成に努め、歯科衛生士というプロフェッションとしての自覚を持つ							
【実務経験有】 有 歯科医師として歯科診療業務に従事。学校歯科医として学校歯科保健活動に従事 労働衛生コンサルタントとして労働衛生活動に従事（企業歯科健診などを含む）							
【到達目標】							
口腔衛生学を学ぶ上で必要とされる自然科学、基礎医学、基礎歯学の知識を十分に体得する							
う蝕と歯周病を中心に、歯科疾患の予防法についてその基礎と理論を理解する							
う蝕と歯周病を中心に、その予防を公衆衛生および個人管理の中で実施する方法について							
理解する年齢に応じたターゲット疾患を理解し、ライフステージ別の口腔保健対策を理解する							
【教科書】							
全国歯科衛生士教育協議会監修 保健生態学 第3版 医歯薬出版							
【参考図書】							
安井利一・宮崎秀夫他編集 口腔保健・予防歯科学 医歯薬出版							
花田信弘著 オトナこそ歯が命 小学館文庫							
上野千鶴子著 女の子はどう生きるか 教えて、上野先生！ 岩波ジュニア新書							
エーヴ・キュリー キュリー夫人伝 白水社							
日野原重明著 医学するところ——オスラー博士の生涯 岩波現代文庫							
【授業方法】							
教科書、配布資料、スライドおよびDVDを使用する							
【評価方法】							
定期試験を実施する。100点満点とし、60%以上の得点のものを合格とする。							
問題形式は選択形式と記述形式を併用する							
不合格者には追試験を実施する。追試験は記述形式のみとする							
レポート、豆テストの結果は成績評価に含めない（原則として定期試験のみで評価する）							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1・2	総論			・口腔の健康の定義 ・歯、口腔の健康保持・増進の手段 ・歯と歯周組織の構造と働き ・口腔粘膜、舌、顎関節などの構造と働き ・唾液腺の種類と唾液の働き ・歯、口腔の形成及び発育と発達 ・歯、口腔の形成異常 ・歯、口腔の機能 ・口腔と全身の健康の関連 ・歯・口腔の付着物と沈着物			
3・4	口腔清掃			・口腔清掃の意義 ・口腔清掃法の種類 ・人工的清掃法の分類と用具 ・不適切な口腔清掃法 ・歯磨剤および洗口剤の種類 ・歯磨剤および洗口剤の組成			
5	歯科疾患の疫学			・う蝕の疫学 ・歯周疾患の疫学 ・その他の歯科疾患の疫学			

回	授業項目	授業内容
6・7	う蝕の予防	・う蝕発生のメカニズム ・う蝕の発生要因 ・う蝕活動性試験 ・リスクに応じたう蝕予防 ・う蝕発生の1次、2次、3次予防 ・Minimal Intervention Dentistry ・発生要因に対するう蝕予防法
8～10	フッ化物によるう蝕予防	・人体へのフッ化物の作用 ・生体におけるフッ化物の代謝 ・フッ化物の毒性と正しい対処法 ・フッ化物応用によるう蝕予防法 ・フッ化物のう蝕予防メカニズム ・ライフステージに応じたフッ化物応用
11・12	歯周疾患の予防	・健康な歯周組織の構造 ・歯周疾患の炎症の広がりと症状 ・歯周疾患の種類と原因 ・歯周疾患のリスクファクター ・歯周疾患の全身への影響 ・歯周疾患の予防法 ・歯周疾患の治療法 ・定期的な歯周疾患予防処置
13	その他の疾患と異常の予防	・口内炎 ・口腔癌 ・不正咬合 ・顎関節症 ・歯の形成不全 ・口臭症 ・口腔乾燥症
14・15	ライフステージごとの口腔保健管理	・母子口腔保健 ・小児期の口腔保健 ・成人期・老年期の口腔保健 ・健康日本21と歯と口の健康 ・タバコと歯と口の健康 ・講義のまとめ

【科目名】		保健生態学Ⅲ		【担当講師】		野中 幸治	
【年次・開講期】		1年次・後期		【時間】		16時間	
【単位】				【単位】		1単位	
【授業概要】							
健康に関わる地域の役割、ヘルスプロモーションの概念、母子保健や学校保健などの保健制度について学ぶ							
【実務経験有】							
臨床にて歯科医業を行いつつ、地域保健活動(学校医、1.6健診、3歳児健診)などに従事 歯科医師							
【到達目標】							
1 地域社会と健康との関わり的重要性、地域保健の考え方と制度を理解する							
2 新しい健康観であるヘルスプロモーションの考え方と歯科における取組みを理解する							
3 年代や職業ごとの保健制度と歯科保健について理解する							
【教科書】							
歯科衛生士教本 保健生態学							
【参考図書】							
衛生学 公衆衛生学							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
全講義終了後、試験を行う。合計得点(100点満点)の60点以上の者を合格とする。							
出席実績、授業態度、授業中に出す課題(レポート等)の提出実績・内容も成績に含む。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	地域社会と地域保健 地域社会と健康対策の考え方を学ぶ 地域保健を担う組織の仕組みを学ぶ			地域と健康との関連性について ライフスタイルと歯科疾患との関連性について 保健所、市町村保健センターについて			
2	地域社会の新たな概念 新しい健康観であるヘルスプロモーションについて理解する			ヘルスプロモーションとは ノーマライゼーションとは 歯科口腔保健法について			
3	母子保健 母子保健の意義と概念を知り母子 歯科健診について理解する			母子保健制度と母子健康手帳について 3歳児歯科健康診査について 1歳6か月歯科健康診査について			
4	学校保健 学校保健の活動と組織について理解する			学校における歯科保健問題について 学校保健職員と役割について 学校保健の3領域について			
5	成人保健 成人歯科保健の現状と保健事業について学ぶ			生活習慣病と特定健康診査について 高齢者医療確保法、健康増進法の保健事業について			
6	産業保健 老化と健康との関わりについて学ぶ			労働基準法、労働安全保障保健法、労働者災害補償保険法について 職業性歯科疾患について 歯科健康診断について			
7	老人保健 産業保健の概念と職業性疾病について学ぶ			老化と健康について 成人・老人保健関係法規について 介護と口腔ケアについて			
8	精神保健 精神障害者の医療について学ぶ 国際保健 世界の歯科疾患の状況について理解する			精神保健について 精神障害者の医療制度について 世界の国々における保健医療の考え方と歯科疾患状況について			

【科目名】		保健情報統計学		【担当講師】		齋藤晃一				
【年次・開講期】			1年次・後期		【時間】		16 時間	【単位】		1単位
【授業概要】										
保健情報統計学は各種指標について理解し、収集、選択、評価を把握し、 歯科衛生士としての必要な知識を講義などによって学ぶ。										
【実務経験有】										
齋藤歯科医院院長(歯科医師)										
【到達目標】										
1. 保健情報統計の各種指標について理解し、説明ができる。 2. 歯科衛生統計を理解し、説明ができる。 3. 保健情報統計の収集、選択、評価が説明できる。										
【教科書】										
医歯薬出版株式会社「保健情報統計学」										
【参考図書】										
【授業方法】										
授業は教科書の内容を集約した資料のもとで進める。										
【評価方法】										
全授業の終了後の試験結果で60点以上の者を合格とする。さらに、授業態度、レポート、 出席などで総合的に評価する。原則として、再々試験は行わないものとする。										
【授業計画】										
回	授業項目				授業内容					
1	保健情報の概論				データや情報などのもつメッセージを理解する。 保健情報の目的を学ぶ。 EBMとは何かを学ぶ。					
2	統計学の基礎				統計学に必要な数学、関数、公式を学ぶ。 ギリシャ文字、 $\sqrt{\quad}$ 、 Σ などの関数を学ぶ。					
3	口腔情報と疫学				口腔保健に関する主な国家統計を学ぶ。 学校保健統計調査を学ぶ。 疫学分析を学ぶ。					
4	歯科疾患の指数				う蝕の指数を学ぶ。 DMF、dmfを学ぶ。 PMA、GI、PI、PDI、GBcout、GPI、CPIなどの歯周疾患の指標を学ぶ。					
5	歯科疾患の指数				OHI、PI、PHI、CPRなどの口腔清掃状態の指数を学ぶ。 Angleの分類を学ぶ。 咀嚼能率、摂食嚥下のスクリーニングテストを学ぶ。					
6	保健統計の方法				母集団と標本について学ぶ。 データの特性について学ぶ。					
7	保健情報の分析				t検定、カイニ乗検定などについて学ぶ。					
8	情報の保護と倫理				データの表現について学ぶ。 情報開示と保護について学ぶ。 情報倫理の問題点について学ぶ。					

【科目名】		衛生行政・社会福祉学		【担当講師】		内山 康久	
【年次・開講期】		1年次・後期		【時間】		16時間	
【単位】				【単位】		1単位	
【授業概要】							
講義を通して歯科衛生士となるべく知識を身に付け、正確に制度、沿革、法規を学び基礎的知識を身に付ける。 高齢化社会に鑑み、近年の試験には介護保険の中身に焦点を当てる内容も重視する。 現在の法規、制度を理解したうえで各テーマの内容を正確に把握する。 今後の基礎科目あるいは臨床科目の基礎となる学力を確実に身に付けることが、とても重要である。							
【実務経験有】							
医療ソーシャルワーカー、介護支援専門員 社会福祉士、 成年後見人							
【到達目標】							
1.各法律、制度について理解し、正確に述べることができる。 2.各テーマの沿革、目的、組織等正確に把握、理解し、正確に述べることができる。 3.衛生行政、社会福祉、社会保険の意味を正確に理解し、述べることができる。							
【教科書】							
衛生行政、社会福祉、社会保険 医歯薬出版株式会社							
【参考図書】							
国家試験対策、歯科衛生士国試問題研究会							
【授業方法】							
配布資料 講義スライドのハンドアウト							
【評価方法】							
講義を通して基本となる衛生行政、社会福祉、社会保険について理解する。 また、国家試験に準じた試験問題を通じて国家試験合格基準レベル以上の知識を身に付ける。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	イントロダクション、社会福祉について			福祉の沿革と行政組織、担い手、生活保護制度と法、児童福祉制度と法、障害者福祉制度と法、高齢者の福祉制度について			
2	社会保険について			社会保険の沿革、行政の組織、医療保険制度と法、年金制度と法、雇用保険・労働者災害保険制度と法、介護保険制度と法			
3	社会保障制度について			社会保障制度、目標及び機能、社会保障給付と国民負担、ライフステージ別の社会保障制度、世界の社会保障制度について			
4	衛生行政について			衛生行政の目的、沿革、組織について			
5	衛生関係法について			法の意義、医師法、歯科医師法、歯科衛生士法、医療に関する法、薬時に関する法、地域保健に関する法、感染症に関する法、食品・食育に関する法について			
6	保健医療の動向について			厚生関係統計調査、国民の健康状態と受療状況、医療施設、医療関係者、国民医療費についてについて			
7	保険医療の実務について			医療保険の仕組み、保健医療機関での実務について			
8	総復習			講義内容の総復習を行い、定期試験・国会試験における出題ポイントについての確認			

【科目名】		歯科衛生士概論Ⅰ		【担当講師】		高橋 邦夫	
【年次・開講期】		1年次・後期		【時間】		16時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
歯科疾患および歯科医療の概要を解説し、今後開始される歯科専門科目に対する動機づけを図る。							
【到達目標】							
・医療と歯科医療に共通する倫理や歯科医療独特の問題を理解する。 ・歯科医療従事者の役割と現状を理解する。 ・患者心理を理解し患者対応の方法を考える。 ・歯科診療所の概要と歯科診療の流れを理解する。 ・歯および口腔の基礎知識を学び、歯科疾患の概要を理解する。 ・歯科治療の一般的な流れを理解する。 ・歯科臨床(保存・歯周・補綴・口外・小児・矯正・高齢者)における治療の概要を理解する。							
【実務経験有】							
みやこ歯科医院開設・院長(歯科医師)							
【教科書】							
新歯科衛生士教本「歯科臨床概論」医歯薬出版							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義・実習							
【評価方法】							
学院規定による定期試験受験資格の出席率を満たすこと。 各テーマごとの課題(レポート等)の提出状況とその内容と、受講態度を総括的評価とする。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	歯科診療と歯科診療所 ・歯科診療とは ・歯科診療所 ・歯科診療所における業務 歯科診療の流れ			・歯科臨床の場について理解する ・歯科診療所における業務について理解する ・診査、検査、前処置について理解する			
2	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 小児歯科			・hellmanの歯齢 ・先天異常について理解する ・う蝕予防 小窩裂溝填塞について理解する フッ化物歯面塗布について理解する			
3	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 口腔外科			・口腔外科の概要を理解する ・口腔外科診療の流れを理解する ・外傷と抜歯の流れについて理解する ・口腔粘膜疾患について理解する ・腫瘍性疾患を理解する ・その他の疾患を理解する			
4	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 歯科保存			・う蝕について理解する ・形成修復を理解する ・インレー修復を理解する ・歯髄保存、歯髄除去法について理解する ・感染根管治療について理解する ・ホワイトニングについて理解する			
5	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 歯科補綴			・歯冠修復と歯冠補綴の違いについて理解する ・クラウン、ブリッジ作製の流れについて理解する ・義歯の流れについて理解する			

回	授業項目	授業内容
6	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 歯科矯正	・矯正の概要を理解する ・不正咬合とその治療方法について理解する ・矯正治療と歯科衛生士の役割を理解する
7	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 歯周治療	・歯周治療の流れについて理解する ・歯周病と全身疾患について理解する ・歯周う基本治療とその流れについて理解する ・歯周外科手術について理解する ・歯周治療におけるメンテナンスについて理解する
8	歯科診療で行うこと 主な診療の流れ 障害者高齢者歯科	・障害者、高齢者について理解する ・摂食嚥下障害への対応、治療について理解する ・全身疾患、周術期の対応について理解する ・歯科訪問診療について理解する

【科目名】		歯科衛生士概論Ⅱ		【担当講師】		一場 香奈	
【年次・開講期】		2年次・後期		【時間】		16時間	
【単位】				【単位】		1単位	
【授業概要】							
歯科衛生士としての仕事の場を理解するとともに、必要な知識や心構えについて学ぶ							
【到達目標】							
歯科医療について理解する							
歯科衛生士に必要な知識や技能について理解する							
歯科衛生士の業務について理解する							
【教科書】							
新歯科衛生士教本「歯科衛生士概論」医歯薬出版							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
出席実績および授業態度、また課題に対するレポートにより、評価する							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	歯科衛生士とは			歯科衛生士の法的性格と業務内容の要点を理解する			
2	歯科医療保健にたずさわる人			歯科に関連する職種を学ぶ。また、それぞれの法律や業務、資格について理解する			
3	歯科衛生士の業務			歯科衛生士の業務である、歯科予防処置・歯科診療補助論・歯科保健指導論を理解し、その業務を円滑に行うために必要なことを学ぶ			
4	歯科衛生士の役割			歯科衛生士の活動場面は、歯科診療所や病院が多く占めているが、現在は訪問診療や福祉施設など地域歯科保健現場での活躍の場があることを学び、それを視野に入れた知識や手技を学ぶ			
5	歯科衛生士に必要な心構え			業務を円滑に進めていくために、人間への理解・良識のある社会人としての自覚を身につけることを理解する			
6	歯科衛生士に必要な知識と技能			特に必要な「全身および歯・口の健康」「疾病についての知識」「歯科臨床の知識」「歯科予防処置」「歯科診療補助」「歯科保健指導」の知識を理解し、十分な技能をもつことを学ぶ			
7	歯科衛生士の業務の展開①			歯科衛生士の仕事の場を理解し、仕事での心構えや職業人としての心構えを理解する			
8	歯科衛生士の業務の展開②			歯科衛生士として患者との応対について学ぶ			

【科目名】		歯科保存学Ⅰ		【担当講師】		森田 正彦	
【年次・開講期】		2年次・前期		【時間】		26時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
歯科学における歯科保存学について教授する。							
歯科の臨床科目との関わりを重視し、疾病の原因、治療法、予防法について学ぶ。							
歯科医療の本質について理解する。							
医療スタッフとしての自覚を持ち、パラデンタルとの関わりについて学ぶ。							
【実務経験有】							
森田歯科医院院長（歯科医師）							
【到達目標】							
1、保存修復学で扱う疾患を理解する							
2、う蝕の発症要因と進行を理解する							
3、歯の欠損の修復方法を理解する							
4、歯の修復に用いる器材を理解する							
5、歯に硬組織疾患の予防、検査、診断、治療を体系的に理解する							
6、口腔の健康と審美について総合的に理解する							
【教科書】							
医歯薬出版株式会社 保存修復・歯内療法							
【参考図書】							
クインテッセンス出版 歯科衛生士							
【授業方法】							
授業・実習・口頭試問を体系的に実施する。							
【評価方法】							
定期テスト60点以上で総合的に評価する。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	歯科保存学の概要			歯科保存学の知識・技術体系を理解する。			
2	医療面接 口腔診査 現症の検査			相互実習により口腔内を観察する。 患者に接する心構えを体得する。 現症と疾患の関係を理解する。			
3	歯の硬組織疾患と発育異常			保存修復学の治療対象となる疾患を学ぶ。 疾患の原因や症状について理解する。			
4	う蝕と形成形態			う蝕の発生から経過について学ぶ。 適切な形成形態について理解する。			
5	歯髄とう蝕の病態			う蝕の進行と組織への波及について学ぶ。 歯髄保護の目的・方法について学ぶ。			
6	アマルガム修復 グラスアイオノマーセメント修復			歯科用アマルガムの組成と種類を理解する。 長所・短所・適応症について学ぶ。 修復のデモを実施する。			
7	コンポジットレジン修復			コンポジットレジンの組成と種類を理解する。 長所・短所・適応症について学ぶ。 歯牙模型にて実習し、体系を把握する。			
8	鑄造修復 ラミネートベニア修復 歯牙漂白			具体的術式について習熟する。 長所・短所・適応症について学ぶ。			

回	授業項目	授業内容
9	口腔組織のライフステージ	口腔組織のライフステージを認識する。 歯科的健康を阻害する原因について学ぶ。 予防について検討する。
10	歯科保存学と解剖学	歯牙の解剖学的形態を習得する。
11	歯科保存学と歯内療法学	臨床上の関わりを学ぶ。
12	歯科保存学と歯科補綴学	臨床上の関わりについて学ぶ。
13	歯科保存学と臨床	臨床上の病態について学ぶ。
14	う蝕についての総括	う蝕についての最新知見
15	診療補助学と歯科保存学	健康観を育成する。 臨床と歯科衛生士の関わりについて学ぶ。 歯科衛生士の理想像について検討する。

【科目名】		歯科保存学Ⅱ		【担当講師】		高橋 智幸	
【年次・開講期】		2年次・前期		【時間】		26時間	
【単位】				【単位】		1単位	
【授業概要】							
歯の硬組織疾患から継発して起こる歯髄疾患および根尖性歯周組織疾患を対象としてその予防と治療を学び、各疾患の原因、分類を把握し、疾患と治療法を学ぶ。							
【実務経験有】							
高橋歯科医院開設・院長(歯科医師)							
【到達目標】							
歯髄疾患および根尖性歯周組織疾患の原因、分類を把握し、疾患と治療法を関連づけて理解する							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本「保存修復・歯内療法」 （医歯薬出版）							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義形式(教科書、プリント、スライド)および問題解決型授業の形式を適宜取り入れる							
【評価方法】							
全講義の終了後、試験を行う。60点以上の者を合格とする。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	歯内療法の概要 1. 歯内療法学の目的 2. 歯内疾患の概要と原因			1. 象牙質知覚過敏症の原因と症状を学ぶ 2. 歯髄炎の概要と原因を学ぶ 3. 根尖性歯周炎の概要と原因を学ぶ			
2	歯髄疾患、根尖性歯周組織疾患の分類			歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の分類と症状を学ぶ			
3	歯髄疾患・根尖性歯周組織疾患の処置			1. 歯髄疾患の処置方針を学ぶ 2. 根尖性歯周組織疾患の処置方針と治療の概要を学ぶ 3. 歯内療法特有の検査と診断を学ぶ			
4	歯髄保存療法 1. 歯髄鎮痛消炎療法と歯髄鎮痛消炎薬 2. 覆髄法			1. 歯髄鎮痛消炎療法の概略と歯髄鎮痛消炎薬を学ぶ 2. 間接覆髄法 直接覆髄法 暫間的間接覆髄法(IPC法)の概略と治療薬を学ぶ			
5	歯髄の除去療法 1. 歯髄切断法 2. 抜髄法			1. 生活断髄法の概要・適応症・術式を学ぶ 2. 直接抜髄法の概要・適応症・使用器材・術式を学ぶ			
6	根管治療			1. 根管治療におけるエックス線写真撮影の意義と使用器材の種類と準備を学ぶ 2. ラバーダム防湿に使用する器材と術式・特徴を学ぶ			
7	根管治療			1. 髄室開拓と根管口の漏斗状拡大に使用する器材と術式を学ぶ 2. 根管長測定の意義と測定法を学ぶ 3. 根管の拡大形成・根管消毒・仮封に使用する器材・薬剤と術式・特徴を学ぶ			
8	根管充填			1. 根管充填の目的・時期を知る 2. 根管充填材の所要性質と種類を学ぶ 3. 根管充填用器具の種類と特徴を学ぶ			

回	授業項目	授業内容
9	根管充填 根未完成歯の根管処置	1. 根管充填の種類・術式・特徴を学ぶ 2. 根未完成歯の治療法を学ぶ
10	外科的歯内療法	1. 膿瘍切開法・根尖搔爬法・根尖切断法・歯根切断法・ 歯根分離法・ヘミセクションについて学ぶ 2. 歯の再植法・移植法を学ぶ
11	歯の外傷	1. 歯の外傷の分類と処置を学ぶ 2. 完全脱臼歯の保存方法を学ぶ
12	歯内療法における安全対策	1. 治療用器具の根管破折を学ぶ 2. 根管治療時の根管壁穿孔を学ぶ 3. 皮下気腫を学ぶ 4. 歯内治療用器具の誤嚥と気管内吸引を学ぶ 5. 薬剤による皮膚・衣類汚染の対処法を学ぶ
13	歯内療法における歯科衛生士の役割 歯のホワイトニング	1. 歯内療法の手順を列挙する 2. 歯内療法処置の準備と診療補助を学ぶ 3. 歯のホワイトニングの種類・手順を学ぶ

【科目名】		歯周治療学		【担当講師】		高井 靖子		
【年次・開講期】			2年次・前期		【時間】		26時間	
					【単位】		1単位	
【授業概要】								
歯科衛生士として必要な歯周病学・歯周治療学についての知識を習得します。 歯周組織の解剖・歯周疾患の原因や、検査法や分類、診断法・処置法について講義を通じて、 歯周疾患に対する歯科衛生士の関わりについて理解できることを目標とします。								
【到達目標】								
1、歯周病の原因、病態を理解できる。 2、歯周病に関わる検査法を理解したうえで、正しく行うことができる。 3、歯周治療の流れを説明でき、その上でスケーリング・SRP等の治療技術を習得する。 また歯周外科手術の介助ができる。								
【実務経験有】								
高井歯科クリニック: 歯科医師(歯周病専門医)								
【教科書】								
最新歯科衛生士教本 歯周病学 (医歯薬出版)								
【参考図書】								
特になし								
【授業方法】								
スライド・板書と書き込み式ワークシートの併用								
【評価方法】								
講義終了時の筆記試験 出席率・授業態度が著しく悪い場合は個別対応								
【授業計画】								
回	授業項目			授業内容				
1	歯周病学とは			歯周病とは 歯周病の有病率 歯周治療における歯科衛生士の役割				
2	歯周組織の正常解剖			歯周組織とは 歯肉の分類・付着様式 歯周組織の加齢現象				
3	歯周病の分類			歯周病の定義 歯肉炎と歯周炎 咬合性外傷とは				
4	歯周病の原因			歯周病原性細菌 リスクファクターとは 歯周病における最近の病因論				
5	歯周治療の流れ・歯周病の検査①			歯周治療における4つのフェーズ 歯肉の視診				
6	歯周病の検査②			プロービングポケットデプス・アタッチメントレベルとは 歯の動揺度、角化歯肉幅・付着歯肉幅 検査の値が示すこと				
7	歯周病の検査③			エックス線写真の種類 デンタルエックス線写真とは デンタルエックス線写真上での歯周病の変化(読影)				
8	歯周基本治療①			歯周基本治療とは何か 咬合調整・暫間固定・応急処置 基本治療でどこまで治るのか				

回	授業項目	授業内容
9	歯周基本治療②	スケーリング・ルートプレーニングとは 使用器具・方法 スケーリング・ルートプレーニングの実際
10	歯周外科手術①	歯周外科治療とは何か 歯周外科治療を理解するための専門用語の理解 歯周外科治療の流れ
11	歯周外科手術②	歯周外科治療の個々の術式について理解 切除療法・組織付着療法・歯周組織再生療法 歯周外科手術実習の説明
12	SPT・メインテナンス	SPTとメインテナンスの定義の違い SPT・メインテナンスの実際 SPT・メインテナンスの効果
13	まとめ(予備日)	インプラント周囲炎 全身疾患と歯周病の関連(ペリオドンタルメディスン) 総復習・質問等

【科目名】		口 腔 外 科 学		【担当講師】		大竹 克也	
【年次・開講期】		2年次・前期		【時間】		26 時間	
【単位】		1単位					
【授業概要】							
口腔外科に関する知識を修得し、単に歯の健康管理だけではなく、より広く口腔全体の健康管理ができるようになることを目的とする。							
【実務経験有】							
1983年 新潟大学歯学部第一口腔外科勤務							
1992年 群馬大学医学部口腔外科講師							
1997年 群馬大学医学部口腔外科助教授							
2000年 大竹歯科口腔外科クリニック院長							
2019年 医療法人大竹歯科口腔外科クリニック おおたけ矯正歯科・小児歯科クリニック理事長							
【到達目標】							
口腔領域の奇形や変形症、外傷、口腔粘膜疾患、歯に起因する化膿性炎症、顎関節疾患、顎骨の内外に形成される嚢胞や腫瘍、唾液腺疾患、血液疾患、口腔・顎顔面領域に症状を現す症候群などに関する基礎知識を習得し、口腔外科臨床における歯科衛生士の役割を理解する。							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」医歯薬出版							
【参考図書】							
医療従事者のためのカラーアトラス「口腔外科疾患」永末書店							
【授業方法】							
教科書、パワーポイント、プリントによる講義形式							
【評価方法】							
全授業終了後、記述及び国家試験と同じ形式で試験を行う。 60点以上の者を合格とする。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	口腔外科の概要 顎・口腔領域の先天異常と発育異常①			・顎、口腔の役割を説明できるようにする ・顎、口腔領域の疾患を知る ・歯の異常の種類について説明できるようにする ・小帯の異常による障害を説明できるようにする			
2	顎・口腔領域の先天異常と発育異常②			・口唇裂、口蓋裂の発生頻度、発生原因について説明できるようにする ・口唇裂、口蓋裂における歯科の役割について説明できるようにする ・顎の変形の種類を列挙できるようにする			
3	顎・口腔領域の損傷および機能障害			・歯の損傷を分類し、それぞれの原因、症状、治療法を説明できるようにする ・顎骨骨折を分類し、それぞれの症状、治療法を説明できるようにする ・顎関節症を概説できるようにする ・顎関節脱臼を概説できるようにする			
4	口腔粘膜の病変①			・口腔粘膜にみられる病的所見を説明できるようにする ・口腔に原発する粘膜疾患を列挙できるようにする ・皮膚科疾患や内科疾患に伴う口腔粘膜疾患を列挙できるようにする			

回	授業項目	授業内容
5	口腔粘膜の病変②	・口腔粘膜疾患の病態を理解し、類似疾患との鑑別要点を列挙できるようにする ・歯科衛生士としてかわる口腔粘膜疾患の診断と治療を説明できるようにする
6	顎・口腔領域の化膿性炎症疾患 顎・口腔領域の嚢胞性疾患	・炎症性疾患の臨床症状を説明できるようにする ・消炎処置の内容を説明できるようにする ・原因および感染経路を説明できるようにする ・嚢胞の定義を説明できるようにする ・菌原性嚢胞と非菌原性嚢胞の分類を説明できるようにする ・嚢胞の好発部位および年齢、症状を説明できるようにする ・嚢胞のおおまかな治療法を説明できるようにする
7	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患①	・腫瘍とは何かを説明できるようにする ・良性とは何か、悪性とは何か説明できるようにする ・腫瘍の発生部位を説明できるようにする
8	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患②	・腫瘍の分類を説明できるようにする。特に菌原性腫瘍あるいは非菌原性腫瘍とは何かを説明できるようにする ・腫瘍類似疾患について説明できるようにする
9	唾液腺疾患	・唾液腺の炎症性疾患の種類を説明できるようにする ・唾石症について説明できるようにする ・唾液腺腫瘍の主なものを説明できるようにする ・唾液腺腫瘍の好発部位を説明できるようにする
10	口腔領域の神経疾患	・三叉神経痛の臨床症状を説明できるようにする ・三叉神経麻痺の臨床症状を説明できるようにする ・顔面神経麻痺の臨床症状を説明できるようにする
11	口腔外科診療の実際①	・診察および検査の目的を理解し、基本、順序、記録法を説明できるようにする ・清潔と不潔を理解し、院内感染防止対策を説明できるようにする ・創傷の治癒過程を理解し、必要な器材と薬剤の準備および処置法を説明できるようにする
12	口腔外科診療の実際②	・口腔外科小手術を理解し、必要な器材の準備と手術手順を説明できるようにする ・口腔インプラント手術を理解し説明できるようにする ・止血法を理解し、止血処置法を説明できるようにする ・縫合の目的を理解し、必要な器材の準備と縫合法および抜糸法を説明できるようにする
13	口腔外科の臨床における歯科衛生士のかかわり	・問診から患者の情報を収集できるようになる ・術前、術後管理の意義と内容を理解する ・口腔外科手術時の業務を説明できるようにする ・手術患者へのプロフェッショナルケアの必要性を説明できるようにする ・診療室の環境整備を説明できるようにする

【科目名】		歯科補綴学		【担当講師】		伏嶋 陽一	
【年次・開講期】		2年次・前期		【時間】		26時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
歯科補綴学は、顎口腔機能について理解するとともに、障害がある場合に補綴装置によって機能、形態、審美を回復し維持するための診断、治療、術後管理法を学ぶことを目的とする。そのためには、チームアプローチによる歯科補綴治療が顎口腔系の形態と機能を回復することを理解し、口腔内に装着される補綴装置の種類と適応、口腔の衛生指導法を学ぶ。							
【実務経験有】							
ふせじま歯科医院開設・院長（歯科医師）							
【到達目標】							
1、歯科補綴学の意義、目的および歯科補綴治療の特徴について説明できるようにする。							
2、歯科補綴治療に必要な用語を理解し、顎口腔系の機能を説明できるようにする。							
3、クラウン、ブリッジ、全部床義歯、部分床義歯などの補綴装置の種類、特徴と適応について説明できるようにする。							
【教科書】							
歯科衛生士教本 歯科補綴 第2版 医歯薬出版							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
全授業の終了後、記述式試験を行う。授業中に課す課題(レポート等)を全て提出していることを合否判定の条件とする。出席実績、授業態度、課題の評価により減点を科す場合もある。							
合計得点(100点満点)の60点以上の者を合格とする。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1～2	I 編 補綴歯科治療の基礎						
	1章 歯科補綴学の意義と種類と適応						
	1. 補綴とは何かを知る			・補綴歯科治療の目的を表現できるようにする			
	2. 補綴歯科治療の意義と目的			・歯列、咬合、口腔の変化が説明できるように			
	3. 歯の欠損に伴う生理的変化の影響			・咀嚼障害、嚥下障害、栄養障害、審美障害について説明できるようにする			
	4. 心理・社会的問題						
	5. クラウンを知る			・顔貌の変化の説明			
	6. ブリッジを知る			・ADLやQOLへの影響を説明できる			
	7. 全部床義歯を知る			・フレイル・オーラルフレイルと歯科補綴の関連を知る			
	8. 部分床義歯を知る			・被覆冠の種類を列挙できるようにする			
	9. インプラントを知る			・ブリッジの構成要素と特徴を説明できるようにする			
	10. 特殊な口腔装置の治療を知る			・全部床義歯の構成要素を覚える			
	11. 補綴歯科治療時の歯科衛生士の役割を知る			・部分床義歯の構成要素を覚える			
				・補綴装置を固定性と可撤性に分類できるようにする			
				・補綴装置を咬合圧の負担の様子で分類できるようにする			
				・インプラント治療について簡単に説明できるようにする			
				・特殊な口腔装置とそれを用いる治療を知る			
				・補綴歯科治療において歯科医師から依頼される仕事を理解する			
				・補綴歯科治療時の患者指導の概略を知る			

回	授業項目	授業内容
2～3	2章 補綴歯科治療の基礎知識 1. 歯列とその咬合関係 2. 補綴歯科治療で重要な基準平面 3. 顎口腔系の機能 4. 顎関節の構造・機能と顎関節症	・歯列、歯列弓とは何か説明できるようにする ・咬合彎曲について説明できるようにする スピーの彎曲 ウィルソンの彎曲 ・顎運動と咬合様式を理解し覚える ・偏心位について説明できるようにし、作業側平衡側（非作業側）を理解する ・下顎位について知る ・咬頭嵌合位について説明できるようにする ・下顎安静位について説明できるようにする ・咬合様式について説明できるようにする （フル）バランスドオクルージョン 犬歯誘導咬合 グループファンクション ・下顎の限界運動路を説明できるようにする ボッセルトの図 蝶番運動 ゴシックアーチ ・基準平面について説明できるようにする 咬合平面 フランクフルト平面 カンペル平面 ・咀嚼、嚥下、発音機能について説明できるようにする ・顎関節について説明できるようにする ・顎関節症について説明できるようにする
4～5	Ⅱ編 補綴歯科治療の実際と歯科衛生士の役割 1章 補綴歯科治療における検査 1. 医療面接 2. 口腔内の検査 3. 画像検査 4. 咬合と顎口腔機能の検査	・医療面接と検査についてを覚える ・口腔内、スタディモデル、顎関節、咬合検査を知る 咬合器とスタディモデルを用いた検査を知る ・様々な計測機器や器材・材料を用いた検査を知る ゴシックアーチ・チェックバイト パラトグラム 口腔内スキャナー
6～7	2章 クラウン・ブリッジ治療 1. クラウン治療の概要 2. ブリッジ治療の概要 3. CAD/CAMクラウン・ブリッジ治療の概要	・クラウンの目的を説明できるようにする ・クラウンの適応症について説明できるようにする ・クラウンの分類を確実に理解する 全部金属冠 前装金属冠 材質の特徴を知る セラミック/レジンの違いについて ジャケット冠 部分被覆冠 前歯部と臼歯部での相違について理解、説明できるようにする ・ブリッジの構成を説明できるようにする ・ブリッジを分類できるようにする ・ポンティックを理解し適応症の分類ができるように ・ポンティックの形態と名称を説明できるように ・CAD/CAMクラウン・ブリッジを理解し覚える ・CAD/CAMシステムを理解する

回	授業項目	授業内容
7	クラウン・ブリッジ治療の流れと診療補助 1. クラウン・ブリッジ治療(金属を用いた修復) 2. CAD/CAMクラウン・ブリッジ治療(CAD/CAMシステムを用いた修復) 3. 患者への説明と指導 4. クラウン・ブリッジ治療に伴うトラブルとその対応	・クラウンの診査診断から装着、術後管理までの概要を覚える - 支台築造の種類と目的 - 支台歯辺縁形態 - 印象材の種類と印象法 ・テンポラリークラウンの目的について説明できるようにする ・咬合記録材について説明できるようにする ・クラウンの試適時に必要なものを言えるようにする ・合着用セメントを分類し説明できるようにする ・クラウンの技工について知る ・ブリッジとクラウンの支台歯形成の違いを説明できるようにする ・ろう着について理解する ・ポンティック部の清掃用具を挙げられるようにする ・プロヴィジョナルレストレーション仮着時の患者指導を理解する ・クラウン・ブリッジ装着時の患者指導を理解する ・クラウンブリッジ治療のメンテナンスを理解する ・支台歯に関わるトラブルと対応を理解する ・クラウンやブリッジに関わるトラブルと対応を理解する ・補修と除去、誤飲・誤嚥、金属アレルギーを理解する
8～9	3章 有床義歯治療 1. 全部床義歯治療の概要 2. 全部床義歯治療の流れと診療補助 3. 全部床義歯治療に伴うトラブルと対応	・全部床義歯の分類と構成要素を理解する ・治療の流れの詳細を理解し説明できる - 医療面接・検査、治療計画、前処置 - 概形印象採得 - 精密印象採得 - 咬合採得(顎間関係の記録)、ゴシックアーチ描記法 - 人工歯の選択 - ろう義歯の試適、目的と意義 - 義歯装着、調整 - 患者への説明と指導 ・無歯顎顎堤の各部の名称を説明できる ・概形印象とその印象材について説明できる ・精密印象とその印象材について説明できる ・顎間関係の記録について概略を知る - フェイスボウトランスファー・ゴシックアーチ ・咬合採得を説明できるようにする ・ろう義歯試適の際の注意点を理解する ・全部床義歯患者のメンテナンスを理解する ・残存組織、顎堤粘膜、顎堤のトラブルを知る ・修理や補修を理解し説明できる ・リラインとリベースを正しく理解し説明できる

回	授業項目	授業内容
9～10	1. 部分床義歯治療の概要 2. 部分床義歯治療の流れと診療補助 3. 部分床義歯治療に伴うトラブルと対応	・維持、支持、安定について説明できるように ・咬合圧や欠損部位による分類を言えるようにする ・部分床義歯の構成を説明できるようにする 支台装置、連結子、義歯床、人工歯、レスト 等 ・治療の流れの詳細を理解し説明できる 医療面接・検査、治療計画、前処置 概形印象採得 精密印象採得 咬合採得(顎間関係の記録)、人工歯の選択 ろう義歯試適 フレームワークの試適 義歯装着、調整 患者への説明と指導 ・残存歯、欠損部顎堤のトラブルを理解する ・義歯およびその構成要素のトラブルを理解する ・補修とリラインおよびリベースを理解する ・誤飲や誤嚥のトラブルを理解する
11～12	4章 インプラント治療 1. インプラント治療の概要 2. インプラント治療の流れと診療補助 3. 上下無歯顎症例に対するインプラント治療 4. インプラント治療に伴うトラブルとその対応	・歯科インプラントについて大まかな説明ができる ・補綴歯科治療での位置づけが説明できる ・基本構造や術式(埋入法や上部構造の固定法)の説明ができる ・治療の流れの詳細を説明できる ・インプラントに特有の医療面接、診査、検査、診断、治療計画について理解し説明できる ・インフォームドコンセント(診査の段階、治療計画立案時の段階)について理解し説明できる ・インプラント治療の前処置について理解する ・一次手術、二次手術について理解し説明できる、診療補助についても理解する ・印象採得と咬合採得について、特殊性を理解し説明できる ・暫間の上部構造を理解する ・最終的上部構造について理解し説明できる(固定法) ・インプラント患者のリコールとメインテナンスのついて理解し説明できる ・患者への説明と指導について理解する ・ボーンアンカーブリッジについて知る ・インプラントオーバードンチャーについて知る ・外科的処置に関わるトラブルを理解する ・上部構造装着後のトラブルについて理解する
12～13	5章 特殊な口腔内装置を用いる治療 1. 顎顔面補綴装置 2. 嚥下・構音機能の補助治療 3. 顎関節症と歯ぎしりの治療 4. スポーツ外傷の予防 5. 睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療	・それぞれの治療において、治療の目的、治療の流れ、歯科衛生士の役割を理解する ・隣接医学の知識を必要な分だけ身につける ・様々な装置の名称や機能、取扱いを理解し覚える ・睡眠時無呼吸症候群の治療法について理解する
13	6章 補綴歯科治療における機材の管理 1. 器具・器材別滅菌、消毒、洗浄、保管 2. 歯科技工士との連携	・歯科衛生士の感染予防対策を理解し説明できる ・口腔内使用器具の管理を理解し説明できる ・口腔外使用器具の管理を理解し説明できる ・印象体および石膏模型の管理を理解し説明できる ・歯科技工士との連携を理解する ・歯科技工物の取扱い・管理を理解する ・歯科技工指示書の取扱い、書き方などを理解し説明できる

【科目名】		歯科矯正学	【担当講師】	齋藤 卓麻		
【年次・開講期】		2年次・前期	【時間】	26 時間	【単位】	1単位
【授業概要】						
歯科矯正治療は、歯列と咬合の異常によって起こりうるあらゆる機能的、心理的障害の除去と予防を目的としている。このため、歯科矯正治療に携わるには、歯列や咬合の異常の原因、治療法およびその予防法について習得する必要がある。また、歯科矯正臨床の現場における歯科衛生士の役割は多く、その内容も矯正装置装着時の口腔衛生指導・管理、口腔習癖の指導、矯正装置の使用に関する患者教育など特殊である。 本教科では、歯科矯正臨床の現場で必要となる基礎的知識と能力の習得を目的とする。						
【実務経験有】						
さいとう矯正歯科開設・院長(歯科医師)						
【到達目標】						
1、歯列や咬合の異常の原因や成り立ちを理解する。						
2、歯列や咬合の異常の予防法を理解し、その指導法を習得する。						
3、歯列や咬合の異常の治療法を理解し、治療に使用する器材の取り扱いについて習得する。						
【教科書】						
最新歯科衛生士教本「歯科矯正学」医歯薬出版						
【参考図書】						
与五沢矯正研究会「矯正臨床の基礎」クインテッセンス出版						
【授業方法】						
講義(教科書、プリント、スライド)・実習						
【評価方法】						
全授業終了後、記述式試験を行う。60点以上の者を合格とする。出席実績、授業態度により減点を科す場合がある。						
【授業計画】						
回	授業項目		授業内容			
1	◎歯科矯正学概論 1.歯科矯正学とは何かを知る 2.不正咬合による生理的・心理的障害について知る 3.歯科矯正治療の目的とその必要性について知る 4.矯正臨床における歯科衛生士の役割について知る		・歯科矯正学の定義を言えるようにする ・不正咬合によってどんな障害が起こるかを説明できるようにする ・矯正治療の目的は、不正咬合によって起こる障害の除去であることを理解する ・矯正臨床における歯科衛生士の役割について説明できるようにする ・他の歯科診療における役割 とは内容が異なることを理解する			
2	◎咬合 1.下顎位について知る 2.正常咬合とは何かについて知る 3.正常咬合成立の条件について知る 4.乳歯列期、混合歯列期における正常咬合について知る 5.歯科矯正治療のゴールとしての咬合について知る		・下顎位には顎頭位と咬合位があることを理解する ・中心咬合位の定義を言えるようにする ・正常咬合の定義を言えるようにする ・正常咬合成立の条件を理解する ・乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期それぞれの時期での正常咬合について理解する ・歯科矯正治療のゴールとしての咬合について理解する			

回	授業項目	授業内容
3	◎不正咬合 1.個々の歯の位置異常について知る 2.歯列弓形態の異常について知る 3.上下歯列弓関係の異常について知る 4.不正咬合の分類について知る 5.不正咬合の原因について知る 6.不正咬合の予防について知る	・転位、傾斜、低位、高位、捻転、移転について説明できるようにする ・V字型歯列弓、鞍状歯列弓について説明できるようにする ・上顎前突、下顎前突、上下顎前突、犬歯低位唇側転位、開咬、叢生、切端咬合、過蓋咬合、正中離開、対称捻転について説明できるようにする ・Angleの分類について、図で説明できるようにする ・不正咬合の原因について理解する ・ディスクレパンシーについて説明できるようにする ・不正咬合の予防法にはどのようなものがあるかを理解する
4	◎口腔習癖 1.口腔習癖の種類と頻度について知る 2.口腔習癖の不正咬合への影響について知る 3.指しゃぶりについて知る 4.舌突出癖について知る 5.筋機能療法について知る 6.習癖除去装置について知る	・口腔習癖の種類について言えるようにする ・口腔習癖の不正咬合への影響について説明できるようにする ・指しゃぶりの発生頻度、原因、不正咬合への影響、歯科における指導と治療法について説明できるようにする ・舌突出癖の不正咬合への影響、治療法について理解する ・筋機能療法の実際について理解する ・習癖除去装置の効果と問題点を理解する
5	◎矯正力と歯の移動 1.器械力と機能力について知る 2.顎整形力について知る 3.至適矯正力について知る 4.歯の移動によって起こる組織変化について知る 5.歯の移動様式について知る ◎成長発育 1.頭部・顎・顔面の成長発育について知る 2.上顎と下顎の成長発育について知る 3.歯・歯列の成長発育について知る	・矯正力には器械力と機能力があることを理解する ・機械力、機能力それぞれを利用する矯正装置の種類を言えるようにする ・顎整形力とはどのようなものかを理解する ・臨床的に適正な矯正力について理解する ・歯の移動によって起こる組織変化について、圧迫側と牽引側それぞれに起こる変化を説明できるようにする ・傾斜移動、歯体移動、回転、圧下、挺出、トルクについて図を書いて説明できるようにする ・頭部・顎・顔面の成長発育について理解する ・差動成長について説明できるようにする ・上顎・下顎の成長時期、成長部位、成長方向の違いについて理解する ・唇顎口蓋裂の発生機序について理解する ・乳歯、永久歯の萌出時期について説明できるようにする ・歯・歯列の成長発育時期にみられる下記項目について説明できるようにする 霊長空隙 ターミナルプレーン 発育空隙 リーウェイスペース アグリーダックリングステージ
6	◎矯正診断に関する知識 1.診断に必要な資料について知る 2.症例分析法について知る 3.模型分析について知る 4.頭部エックス線規格写真分析について知る 5.治療方針の立て方について知る	・診断に必要な以下の資料から何を知るかを理解する カルテ、問診票 顔面写真 口腔内写真 口腔模型 口腔内X線写真 顎関節X線写真 頭部X線規格写真 顎機能検査 ・模型分析で計測する項目について理解する ・頭部X線規格写真で計測する項目について理解する ・治療方針の立て方について理解する

回	授業項目	授業内容
7	◎矯正治療に使用する器材とその取り扱い 1.矯正治療に使用する器材とその取り扱いについて知る(講義)	・以下の矯正用器具の構造と使用法について説明できるようにする ワイヤーベンディングプライヤー
8	◎矯正治療に使用する器材とその取り扱い 1.矯正治療に使用する器材とその取り扱いについて知る(実習)	ヤングプライヤー ツイードループベンディングプライヤー ツイードアーチベンディングプライヤー バードビークプライヤー ライトワイヤープライヤー 結紮、歯冠離開用鉗子 ハウプライヤー ワインガートユーティリティプライヤー リガチャータイイングプライヤー ワイヤーカッター ワイヤーカッター ピンアンドリガチャーカッター ディスタルエンドカッター バンドフォーミングプライヤー バンドカンタリングプライヤー バンドやボンディング材の撤去用鉗子 バンドリムービングプライヤー ボンディング材撤去鉗子 その他の器具 バンドプッシャー リガチャーディレクター アーチフォーマー ブラケットポジショニングゲージ スポットウェルダー ・以下の矯正材料の使用法について説明できるようにする ワイヤー 弾線 アーチワイヤー クラスプ 唇側線 舌側弧線 リガチャーワイヤー セパレーティングワイヤー バンド材料 ブラケット チューブ スクリュー コイルスプリング 床材料(レジン) エラストック エラストックモジュール ボンディング材
9	◎矯正装置 1.可撤式装置と固定式装置について知る 2.各種矯正装置について知る	・可撤式装置と固定式装置の利点と欠点について説明できるようにする ・以下の矯正装置の構造と適応症について説明できるようにする 舌側弧線装置 マルチブラケット装置 顎間固定法 床矯正装置 機能的顎矯正装置 側方拡大装置 顎外固定装置
10	◎保定 1.保定について知る	・保定には自然保定と器械保定があることを理解する ・保定装置の種類、構造について理解する ・あと戻りの原因を説明できるようにする

回	授業項目	授業内容
11	◎歯科矯正治療の実際 1. 歯科矯正治療の開始時期を知る 2. 乳歯列期の歯科矯正治療について知る 3. 混合歯列期の歯科矯正治療について知る 4. 永久歯列期の歯科矯正治療について知る 5. 成人の歯科矯正治療について知る 6. 唇顎口蓋裂の歯科矯正治療について知る 7. 外科的矯正治療について知る	・早期治療の長所と短所について理解する ・乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期それぞれの時期に歯科矯正治療の対象となる不正咬合について理解する ・乳歯列期、混合歯列期、永久歯列期それぞれの時期の実際の歯科矯正治療について理解する ・成人の歯科矯正治療の特徴と限界について理解する ・歯周治療のための矯正治療、補綴前準備のための矯正治療について理解する ・唇顎口蓋裂の歯科矯正治療について理解する ・外科的矯正治療の適応症と術前、術後の矯正治療について理解する
12～13	◎歯科矯正における歯科衛生士の役割 1. 歯科矯正における歯科衛生士の役割について知る	・矯正歯科における以下の業務について理解する - 口腔衛生指導管理 - 患者教育 - 刷掃指導、口腔衛生指導 - 間食指導、食事指導 - 予防措置 - 口腔機能の改善 - 指しゃぶり、舌突出癖の排除（筋機能療法） - 咀嚼訓練、開口訓練 - 介補 - チェアアシスタント - ダイレクトボンディングブラケットの接着準備、補助 - ボンディング材撤去後の歯面の研磨 - アーチワイヤーの結紮、撤去 - バンドへのブラケット、チューブの溶接、鑑着 - セメント合着の準備、余剰セメントの除去 - バンドやダイレクトボンディングブラケットの脱落チェック - 歯冠離開、措置破損時の応急処置 - 顎機能検査機器などME機器の操作補助 - 矯正装置・保定装置などの取り扱い方の注意 - 診断の補助 - 口腔内写真・顔面写真の撮影 - 矯正装置の撤去の補助 - その他 - 印象採得、石膏注入 - X線写真撮影準備、現像、トレース、計測 - 石膏模型の製作 - 保定装置の研磨 - 事務管理

【科目名】		小児歯科学		【担当講師】		廣幡 智子	
【年次・開講期】		2年次・前期		【時間】		26 時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
小児歯科医療は病気に対する治療と予防にとどまらず、心身ともに健康な小児を支援するという保健的な目的を理解する。							
【到達目標】							
1.発育過程と口腔の変化を理解する							
2.小児に対する診療補助及び予防業務を理解する							
3.国家試験出題基準内容を理解し覚える							
【実務経験有】							
有(平成13年から 田中歯科医院 院長)							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本「小児歯科」医歯薬出版							
【参考図書】							
カラーアトラスハンドブック 小児歯科臨床ヒント集 クインテッセンス出版							
【授業方法】							
講義形式(教科書・プリント・パワーポイント等)							
【評価方法】							
全授業の終了後マークシートと記述試験を行う。60点以上の者を合格とする。出席実績、授業態度、授業中に出す課題(レポート等)の提出実績、内容により加点を課す場合がある。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	I 編 小児歯科診療の基礎知識 1章 小児歯科学概論 ・小児歯科学の定義と目的を学び、人間とは健康とは何かを理解する 5章 歯の発育とその異常(一部)			1. 小児歯科とは ・ヘルマンの咬合発育段階 4. 歯の萌出 5. 歯の萌出異常			
2	2章 心身の発育 ・発育の概念・原則を理解し発育状態を評価する			1. 発育の概念と分類 2. 発達状態の評価 ・カウプ指数 ・ローレル指数			
3	・言語、情動、運動機能および摂食嚥下機能の発育を理解する			3. 生理的年齢 ・骨年齢 ・萌出年齢 ・石灰化年齢 4. 器官の発達 ・Scammonの発育曲線			
4	3章 小児の生理的特徴 ・小児のバイタルサインの特徴と薬剤を理解する 4章 顔面頭蓋の発達 ・上下顎骨の発育・成長を理解する			5. 精神的発達 ・摂食嚥下機能の発達 1. バイタルサインと生理的特徴 2. 薬剤処方と薬物療法 Harnak法 1. 脳頭蓋と顔面頭蓋の発育変化 ・上顎骨の発育 ・下顎骨の発育			

回	授業項目	授業内容
5	5章 歯の発育とその異常 ・乳歯、幼若永久歯の特徴を理解する ・歯の形成異常、萌出異常を理解する	1. 乳歯、幼若永久歯の特徴 2. 歯の形成
6		3. 歯の発育時期と形成異常 ・無歯症 ・エナメル質形成不全 ・ターナーの歯 ・中心結節 ・カラベリー結節 ・プロトスタイリッド ・臼後結節
7	6章 歯列、咬合の発育と異常 ・ヘルマンの咬合発育段階を理解する ・歯列、咬合の発育と異常を理解する	1. 歯列、咬合の発育 ・生理的歯間空隙 ・ターミナルプレーン ・リーウェイスぺース 2. 歯列、咬合の異常 ・口腔習癖 ・指しゃぶり、おしゃぶり
8	7章 小児の歯科疾患 ・乳歯、幼若永久歯のう蝕の特徴を理解する	1. 小児にみられるう蝕 ・乳歯のう蝕の特徴 ・幼若永久歯のう蝕の特徴
9	・小児の口腔粘膜や歯肉に現れる疾患を理解する	2. 小児にみられる歯周疾患 ・不潔性歯肉炎 ・抗てんかん薬による歯肉増殖症 3. 小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患 ・先天性歯 ・リガフェーデ病 ・ヘルペス性口内炎 ・アフタ性口内炎 ・麻疹、水痘 ・ヘルパンギーナ ・手足口病 ・カンジダ症 ・上皮真珠 ・歯肉膿瘍 ・ベドナーアフタ ・粘液のう胞 ・口唇ヘルペス ・上唇小帯異常 ・舌小帯異常 ・外胚葉異形成症 ・唇顎口蓋裂 ・鎖骨頭蓋異形成症
10	Ⅱ編 小児歯科診療 Ⅲ編 小児歯科診療における歯科衛生士の役割 ・小児歯科治療体系の流れを理解し、小児歯科患者への対応や診療補助に必要なことを覚える ・障害児の特徴を理解し覚える	1. 小児のX線撮影法 ・咬翼法 ・オルソパントモ 2. 小児の歯内療法 3. 小児の外傷 4. 咬合誘導 ・クラウンループ ・リングルアーチ ・ナンスのホールディングアーチ ・可撤保隙装置 ・スペースリゲーター 5. 小窩裂溝填塞法 6. 小児の歯冠修復
11		7. 治療時の対応法 ・オペラント条件付け ・TSD法 ・モデリング法 ・HOM法 ・TEACCH法 8. 障害児の歯科治療 ・精神発達遅滞 ・脳性麻痺 ・自閉症 ・ダウン症
12	講義の振り返りと補足	
13	国家試験問題対策と復習	

【科目名】 高齢者・障害者歯科学		【担当講師】 五味 暁憲	
【年次・開講期】 2年次・前期	【時間】 26時間	【単位】 1単位	
【授業概要】 高齢者・障害者の歯科診療に必要な知識を身につける			
【実務経験有】 1996年4月～2011年3月 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院口腔顎顔面外科 2011年4月～2014年3月 群馬大学医学部附属病院歯科口腔外科（現 歯科口腔・顎顔面外科） 2014年4月～2021年3月 同科関連施設（前橋赤十字病院，伊勢崎市民病院）勤務 2021年4月～現在 群馬県歯科総合衛生センター 2011年4月～2019年2月，2020年5月～2021年3月 群馬県歯科総合衛生センター非常勤歯科医師 資格：歯科医師，言語聴覚士，日本口腔外科学会専門医，日本障害者歯科学会認定医，日本口腔科学会認定医			
【到達目標】 1、高齢者の加齢に伴う変化を学習し，口腔衛生管理の必要性を理解する 1、障害者の口腔の状態について学習し，口腔衛生管理の必要性を理解する 2、高齢者，障害者の歯科診療に際して注意すべき点とその対応について理解する 4、高齢者，障害者の診療に関わる多職種連携や関連法律、制度について理解する			
【教科書】 歯科衛生士教本 高齢者歯科学 医歯薬出版 歯科衛生士教本 障害者歯科学 医歯薬出版			
【参考図書】			
【授業方法】 講義・実習			
【評価方法】 全授業の終了後、試験を行う。合計得点（100点満点）の60点以上の者を合格とする。 小テスト，レポートなどを課す予定である。課題の結果・内容は合格の判定に加味する。			
【授業計画】			
回	授業項目	授業内容	
1	高齢者歯科学総論 1.高齢社会と健康 高齢者の変化と疾患 1.全身的な変化 2.口腔・咽頭領域の加齢変化 3.精神・心理的变化	1.高齢社会と人口比率について理解する。 高齢者の歯科疾患の推移について理解する。 2.歯科疾患実態調査について理解する 1.老化による全身的な変化について理解する 2.老化による口腔咽頭領域の変化について理解する 3.老化による心理的变化を理解し、コミュニケーションの留意点を理解する	
2, 3	高齢者の変化と疾患 4.バイタルサイン 5.高齢者に多い全身疾患 6.高齢者に特有な口腔疾患 7.血液検査 8.薬物服用	4.バイタルサインについて理解する。 5.様々な高齢者の全身疾患について理解する 6.高齢者の口腔内疾患について理解する 7.認知機能の評価スケールについて理解する。 8.血液検査値について理解する。 9.薬物に対する反応や相互作用について理解する。 口腔への副作用も理解する。	
4	障害者の概念と疾患 1.障害の概念 2.歯科治療と関わりのある疾患 3.コミュニケーション 4.行動療法 5.体動のコントロール 6.薬物的行動調整法 7.特別な配慮が必要なケース	1.障害について概念や分類、スペシャルニーズ ノーマライゼーション、社会福祉等を理解する。 2.歯科診療において特別な支援が必要な疾患 について理解する。 3.疾患別によるコミュニケーション法の違いについて理解する。 4.様々な行動療法について理解する。 5.様々なコントロール法について理解する。 6.薬物による行動調整法について理解する。 7.疾患別に注意すべき事項を理解する。	

回	授業項目	授業内容
5	高齢者の栄養・服用薬・口腔ケア 1. 栄養評価 2. 薬物服用 3. 口腔ケアにおける高齢者の特徴 4. 口腔ケア用品 5. 有病高齢者の口腔ケア	1. 栄養スクリーニングや評価について理解する。 栄養摂取ルートについて理解する 2. 薬物に対する反応や相互作用について理解する。 口腔への副作用も理解する。 3. 口腔ケアにおける高齢者の特徴や留意点について理解する。 4. セルフケア、介助ケア、アセスメントなどを理解する。 5. 病態による口腔ケアの違いについて理解する。
6, 7	障害者の概念と疾患 1. 障害の概念 2. 歯科治療と関わりのある疾患	1. 障害について概念や分類、スペシャルニーズ ノーマライゼーション、社会福祉等を理解する。 2. 歯科診療において特別な支援が必要な疾患 について理解する。
8, 9	障害者の歯科治療とケア 1. コミュニケーション 2. 行動療法 3. 体動のコントロール 4. 薬物的行動調整法 5. 本人、介助者による口腔ケア 6. 専門的口腔ケア 7. 特別な配慮が必要なケース 8. リスク評価と医療安全管理 9. 要介護高齢者の口腔ケア	1. 疾患別によるコミュニケーション法の違いについて理解する。 2. 様々な行動療法について理解する 3. 様々なコントロール法について理解する。 4. 薬物による行動調整法について理解する。 5. 障害者のセルフケアについて理解する。 6. 疾患による専門的ケアの違いについて理解する。 7. 疾患別に注意すべき事項を理解する。 8. リスク評価や安全管理体制、感染予防等について理解する。 9. 要介護高齢者の口腔ケアについて、違いや留意点について 理解する。
10	摂食嚥下の基礎知識 1. 正常嚥下と嚥下モデル 2. 嚥下障害について 3. 食事介助の留意点 4. スクリーニングテスト 5. 画像診断 6. リハビリテーション 7. 誤嚥と誤嚥性肺炎 8. 摂食機能療法	1. 嚥下の5期モデル、4相モデルについて理解する。 2. 5期モデルの各期での嚥下障害の発現について理解する。 3. 食事介助について、嚥下モデルを意識しながら、 簡単な実習を通して理解する。 4. 各種スクリーニングテストについて理解する 5. VEとVFについて理解する 6. 障害分類や高齢者のリハビリの問題点について理解する。 7. 嚥下訓練の間接法と直接法について理解する。 トラブル時の対応について理解する。 8. 摂食介助法や機能訓練法について理解する。
11	高齢者、障害者の口腔ケア 1. 口腔ケア用品 2. 口腔ケアにおける高齢者の特徴 3. 有病高齢者の口腔ケア 4. 要介護高齢者の口腔ケア 5. 障害者本人、介助者による 口腔ケア 6. 専門的口腔ケア	1. 口腔ケアにおける高齢者の特徴や留意点について理解する。 2. セルフケア、介助ケア、アセスメントなどを理解する。 3. 病態による口腔ケアの違いについて理解する。 4. 要介護高齢者の口腔ケアについて、違いや 留意点について理解する。 5. 障害者のセルフケアについて理解する。 6. 疾患による専門的ケアの違いについて理解する。
12	栄養管理と多職種連携 1. 栄養評価 2. NSTと多職種連携	1. 栄養スクリーニングや評価について理解する。 栄養摂取ルートについて理解する 2. 栄養管理法と小児の栄養管理について理解する。 3. 多職種の役割について理解する 4. 多職種連携における歯科衛生士の役割について理解する。 5. NSTなど多職種連携について理解する
13	高齢者、障害者の生活評価 1. 生活の評価 2. 高齢者にかかわる法制度 3. 介護保険制度について 4. 高齢者の居住場所 5. 高齢者の居住場所と設備の特徴 6. 地域包括ケアシステムについて	1. ADL、BDR、QOL等の評価指標について理解する。 2. 老人保健法と近年の医療制度改革について理解する。 3. 介護保険について理解する 4. 高齢者の居住する場所を規定している要件を理解する。 5. 高齢者施設、介護保険施設の種類と特徴、違いについて理解する。 6. 地域包括ケアシステムについて理解する

【科目名】		歯科予防処置1(講義)		【担当講師】		一場 香奈	
【年次・開講期】		1年次・通年		【時間】		48時間	
【単位】				【単位】		2単位	
【授業概要】							
歯科予防処置論の概念を理解するために、歯牙・歯周組織に関する基礎的知識を習得する							
【到達目標】							
歯科予防処置の定義と内容を説明する							
歯周組織の名称が列挙できる							
歯肉の正常像を説明できる							
歯の付着物、沈着物の性質を説明できる							
歯周病の発症と進行を説明できる							
歯周診査用器材を列挙できる							
手用スケーラーの種類と特徴を説明できる							
手用スケーラーの基本操作ができる							
マネキンの取り扱いを理解し、操作できる							
マネキンで部位別にスケーラー操作ができる							
探針の特徴と使用を理解する							
プローブの特徴と使用を理解する							
超音波スケーラーの原理と特徴を理解できる							
エアースケーラーの原理と特徴を理解できる							
歯面研磨の目的や器具、操作法について理解する							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置(医歯薬出版)							
【参考図書】							
最新歯科衛生士教本 歯周病学 医歯薬出版							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
全講義終了後 筆記試験を行う。60点以上の者を合格とする。							
出席実績、授業態度、提出物等により総合的に判断する。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	歯科予防処置業務の理解			歯科予防処置業務内容を学ぶ 歯科予防処置の定義と意義を説明する			
2～5	歯・口腔の状態把握			歯・歯周組織の名称を理解する 健康歯肉の特徴、病的歯肉の変化を説明する プラーク、歯石について理解する その他付着物、沈着物の違いを説明する			
6～8	歯周疾患についての理解			歯周組織の肉眼的変化を説明する ポケットの形成、歯槽骨吸収を理解する 根分岐部病変を理解する			
9・10	歯石除去に用いる器材			歯周診査用器材を説明する 手用スケーラー(5つ)の種類、特徴、適応症について具体的に述べる			
11	シッケルタイプスケーラーの操作(演習)			シッケルスケーラーの操作4原則、把持、運動、固定を応用できる			
12	ミラーの目的と使用法 (ミラーの使用法の演習)			ミラーの役割、把持、固定法を説明する			
13	マネキンの取り扱い			マネキン取扱い、MA、HR、術者位置を応用する			
14	マネキンでのスケーラー操作			マネキン上でシッケルスケーラーによる部位別除石を理解する			

回	授業項目	授業内容
15	探針の特徴と使用法 (探針の使用法の演習)	探針の種類、使用目的、把持、使用時の注意を説明する
16・17	プローブの特徴と使用法	プロービングによって得られる情報を述べる ポケット測定部位、測定時の注意事項を応用する
18	チェアーユニットの取り扱い	チェアーユニットの各名称、使用法、注意点を説明する
19	医療現場に相応しい身支度	実習時の身支度を知る
20・21	超音波スケーラーの知識と基本的操作	超音波スケーラーの原理と特徴を具体的に述べる
22	エアースケーラーの知識と基本的操作	エアースケーラーの原理と特徴を具体的に述べる
23	バキューム操作(演習)	バキュームの挿入法、注意点を応用する
24	歯面研磨の知識と基本的操作	歯面研磨の種類、目的、注意事項について具体的に述べる 研磨剤の所要条件、主要成分を述べる

【科目名】 歯科予防処置論1(実習・実技)		【担当講師】 松原 香織 一場 香奈	
【年次・開講期】 1年次・通年	【時間】 60 時間	【単位】 2単位	
【授業概要】 予防処置法の使用器具の取り扱いと操作の基本を理解するために必要な技術を身につける			
【到達目標】 手用スケーラーの基本的操作ができる マネキンの取り扱いを理解し、操作できる マネキンで部位別にスケーラー操作ができる 超音波スケーラーの正しい操作ができる 歯面研磨の操作ができる			
【教科書】 最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)			
【参考図書】 最新歯科衛生士教本 歯周病学(医歯薬出版)			
【授業方法】 実習			
【評価方法】 実技試験 マネキン上でスケーラー操作を合否の評価とする			
【授業計画】			
回	授業項目	授業内容	
1～4	シックルタイプスケーラー操作法①	石膏棒を用いて	
5	シックルタイプスケーラー操作法②	顎模型を用いて	
6	シックルタイプスケーラー操作法③	マネキン模型実習(下顎前歯部)	
7	シックルタイプスケーラー操作法④	マネキン模型実習(上顎前歯部)	
8	シックルタイプスケーラー操作法⑤	マネキン模型実習(上顎左側臼歯部)	
9	シックルタイプスケーラー操作法⑥	マネキン模型実習(上顎右側臼歯部)	
10	シックルタイプスケーラー操作法⑦	マネキン模型実習(下顎左側臼歯部)	
11	シックルタイプスケーラー操作法⑧	マネキン模型実習(下顎右側臼歯部)	
12・13	シックルタイプスケーラー操作法⑨	マネキン模型実習(全顎)	
14	探針操作法	マネキン模型実習(全顎)	
15	プローブ操作法①	マネキン模型実習(上顎)	
16	プローブ操作法②	マネキン模型実習(下顎)	
17	プローブ操作法③	マネキン模型実習(全顎)	
18・19	超音波スケーラー操作法①	マネキン模型ユニット(上下前歯部)実習	
20	超音波スケーラー操作法②	マネキン模型ユニット(上下顎臼歯部)実習	

回	授業項目	授業内容
21・22	超音波スケーラー操作法③	マネキン模型ユニット(全顎)実習
23	歯面研磨操作法①	マネキン模型ユニット(上下前歯部)実習
24	歯面研磨操作法②	マネキン模型ユニット(上下顎臼歯部)実習
25・26	歯面研磨操作法③	マネキン模型ユニット(全顎)実習
27・28	超音波スケーラー・歯面研磨の 操作法	マネキン模型ユニット(全顎)実習
29	相互実習①	ユニット実習(プロービング・スケーリング・歯面研磨)
30	相互実習②	ユニット実習(プロービング・スケーリング・歯面研磨)

【科目名】		歯科予防処置2(講義)		【担当講師】		松原 香織					
【年次・開講期】		2年次・通年		【時間】		24時間		【単位】		1単位	
【授業概要】											
う蝕予防処置に応用される薬物や材料・器具について正しい知識を身につける キュレットスケーラーの操作法、シャープニングを習得する											
【到達目標】											
う蝕について理解する う蝕予防処置について理解する フッ化物について理解する PMTCの意義、操作を理解する 薬物や材料について、正しい知識を身につける											
【教科書】											
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置(医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本 歯周病学(医歯薬出版) 最新衛生士教本 保健生態学(医歯薬出版)											
【参考図書】											
抗菌薬・殺菌薬とフッ化物(医歯薬出版) フッ化物応用と健康(口腔保健協会) 感染予防対策と滅菌・消毒・洗浄(医歯薬出版)											
【授業方法】											
講義(教科書、プリント、スライド)											
【評価方法】											
全授業および実習終了後、筆記試験を行う。60点以上の者を合格とする。 授業態度、課題(レポート)の提出内容についても、成績に含む。											
【授業計画】											
回		授業項目				授業内容					
1		齲蝕の疫学				う蝕の疫学的特性について 「健康日本21」ヘルスプロモーションについて 歯科衛生士が行うう蝕予防処置法について					
		う蝕予防法①				う蝕発生のメカニズム・要因について う蝕の予防法 う蝕発生要因に対する予防法 ステファンカーブ					
2		う蝕の予防②				う蝕活動性試験 リスク分類の特徴					
		う蝕の予防③				唾液の作用について カリエスリスク診断について					
3		フッ化物によるう蝕予防				フッ素の基礎知識 日本及び世界のフッ化物応用について フッ素の代謝について フッ素の毒性・安全性について					
		フッ化物応用によるう蝕予防方法①				フッ化物歯面塗布法 目的、種類、術式					
4		フッ化物応用によるう蝕予防方法②				フッ化物洗口 フッ化物配合歯磨剤 水道水・食品へのフッ化物添加					
		フッ化物量の算出法				安全量・悪心嘔吐発現フッ化物量の算出法					

回	授業項目	授業内容
5	塗銀法の応用	フッ化ジアミン銀の適応と禁忌 フッ化ジアミン銀塗布法の術式 汚染時の対応について
6	カリエスリスク診断①	口腔内の観察 食事回数・フッ化物応用調査、DMFT う蝕活動性試験 レーダーチャートの作成
7	カリエスリスク診断②	カリエスリスク診断 予防プログラムの作成
	カリエスリスク診断③	リスク別グループワーク 予防プログラムの発表
8	小窩裂溝填塞の応用	小窩裂溝填塞法の適応と禁忌 小窩裂溝填塞法に使用する器具・機材について ラバーダム防湿について
9	PMTc	PMTcとは PMTcツール・術式について フッ化物入りペーストの種類・特徴について
10	歯科領域の インфекションコントロール	ユニバーサルプレコーションとは 感染リスクと対策のレベル 滅菌・消毒・洗浄について 医療従事者の感染予防対策について
11	シャープニング	シャープニングの目的と必要性を理解する 使用器具と研ぎ方の原則および、鋭利度判定について学ぶ シックル・キュレットスケーラーの研磨方法を修得する
12	キュレットスケーラー	キュレットの形態や使用目的について理解する グレイシータイプ、ユニバーサルタイプキュレット グレイシータイプキュレットを用いた歯石除去の基本操作を学ぶ キュレットの使用法、キュレット使用上の注意

【科目名】		歯科予防処置2(実習・実技)		【担当講師】		松原 香織 一場 香奈					
【年次・開講期】		2年次・通年		【時間】		60時間		【単位】		2単位	
【授業概要】											
齲蝕予防法の基礎知識に基づき、齲蝕予防処置業務における歯科衛生過程を理解したうえで、フッ化物応用法・小窩裂溝填塞法・齲蝕活動性試験等の術式を習得し、術前、術後の指導ができるようにする											
【到達目標】											
う蝕予防処置法の種類および術式について理解する											
各う蝕予防処置に必要な薬液・材料について理解するとともに、準備ができる											
正確な手技を身につける											
ライフステージにあったう蝕予防処置前後に必要な患者指導ができる											
キュレットスケーラーの操作法を習得する											
【教科書】											
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置(医歯薬出版)											
最新歯科衛生士教本 歯周病学(医歯薬出版)											
最新衛生士教本 保健生態学(医歯薬出版)											
【参考図書】											
【授業方法】											
実習											
【評価方法】											
実習態度および姿勢											
模型実習および相互実習で、専任教員が技術評価する											
【授業計画】											
回	授業項目				授業内容						
1	フッ化物歯面塗布法実習①				綿球法 歯ブラシ法(相互実習)NaF 味見、フッ化物量の算出						
2	フッ化物歯面塗布法実習②				綿球法 歯ブラシ法(相互実習)APFゼリー 味見、フッ化物量の算出						
3	フッ化物歯面塗布法実習③				トレイ法(相互実習)						
4	小窩裂溝填塞実習				小窩裂溝填塞法(模型実習) ラバーダム防湿						
5	PMTc実習①				PMTc実習(マネキン実習) 上顎						
6	PMTc実習②				PMTc実習(マネキン実習) 下顎						
7	PMTc実習③				PMTc実習(相互実習)						
8	PMTc実習④				PMTc実習(相互実習)						
9	塗銀法実習				塗銀法(模型実習) 染み抜き実習 フッ化ジアミン銀の汚染時の対応法						
10	キュレットスケーラー実習①				下顎前歯部(マネキン実習)						

回	授業項目	授業内容
11	キュレットスケーラー実習②	上顎前歯部(マネキン実習)
12	キュレットスケーラー実習③	上顎左右臼歯部(マネキン実習)
13	キュレットスケーラー実習④	下顎左右臼歯部(マネキン実習)
14	キュレットスケーラー実習⑤	全顎復習(マネキン実習)
15	キュレットスケーラー実習⑥	全顎復習(マネキン実習)
16	シャープニング実習	キュレットスケーラー 操作法、使用器具等
17	相互実習①	頭髪、白衣等の身支度を整える
18		ユニット等の取扱い 術者位置等の確認 口腔内観察
19	相互実習②	歯石除去
20		手用スケーラー
21	相互実習③	プロービング・歯石除去・歯面研磨(下顎)
22		手用スケーラー
23	相互実習④	プロービング・歯石除去・歯面研磨(全顎)
24		手用スケーラー
25	相互実習⑤	プロービング・歯石除去・歯面研磨(上顎)
26		超音波スケーラー
27	相互実習⑥	プロービング・歯石除去・歯面研磨(下顎)
28		スケーリング(超音波スケーラー)
29	相互実習⑦	プロービング・歯石除去・歯面研磨(全顎)
30		スケーリング(超音波スケーラー)印象採得(片顎)

【科目名】		歯科予防処置 3		【担当講師】		松原 香織 一場 香奈	
【年次・開講期】		3年次・後期		【時間】		24時間	
【単位】		1単位					
【授業概要】							
臨地・臨床実習修了時に得た知識や技術と座学で学んだ基礎知識をリンクするために歯科予防処置全般を総復習する							
【到達目標】							
歯科予防処置についての専門的知識と技術や態度を修得する							
歯周病の基本的知識を理解する							
う蝕予防の目的と内容を理解する							
薬剤や材料を適切に取り扱える知識を修得する							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置(医歯薬出版)							
最新歯科衛生士教本 歯周治療(医歯薬出版)							
最新歯科衛生士教本 保健生態学(医歯薬出版)							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
学院規定による定期試験受験資格の出席率を満たし、全講義終了後、国家試験と同じ形式で試験を行う。合計得点の60%以上の得点で合格とする。							
出席実績、授業態度も評価する場合がある。							
【授業計画】							
回	授業項目		授業内容				
1	歯科予防処置の概要		歯科予防処置の内容、対象者の把握				
2	口腔の基礎知識		正常な口腔、歯周組織、歯冠と歯根の形態、口腔の機能 口腔内の付着・沈着物、プラーク、歯石、歯周病				
3	歯周病の基礎知識		生活習慣の把握、歯周病と全身疾患の関連性				
4	歯周診査器具		歯や歯周組織の検査法、使用器具 プロービング、動揺度、コンタクト検査				
5	歯石除去法		手用スケーラー、超音波スケーラー、エアースケーラーの特徴と操作法、術者位置				
6	歯面研磨法		使用器具、器械、材料の種類、操作方法				
7	う蝕の基礎知識		う蝕と生活習慣の関連、全身疾患の関連、安全性				
8	フッ化物の応用		薬剤の種類、取扱い事項、塗布の分類と術式、注意事項 フッ化物の種類、使用法				
9	小窩裂溝填塞法		填塞材の種類や特徴、適応症、術式、注意事項				
10	シャープニング		使用器具、操作法				
11	う蝕のリスク評価		う蝕の活動性、う蝕活動性試験				
12	総まとめ		歯科予防処置全般の総復習				

【科目名】		歯科保健指導論1		【担当講師】		設楽 雅枝	
【年次・開講期】		1年次・通年		【時間】		52時間	
				【単位】		2単位	
【授業概要】							
歯科の二大疾患であるう蝕と歯周疾患の予防は、個人が毎日自主的に行うことにより効果があるが、自分の口腔内に関心を持っていない者も多くいるのが、現状である。そのような人に対して、口腔の健康への関心を高め、健康管理ができる方向に援助できるよう、基礎知識と技術を学ぶ。							
【到達目標】							
歯科保健指導の目的を理解する。							
口腔の正常像を理解する。							
歯ブラシの所要条件と選択基準がわかり、各種ブラッシング法が実践できる。							
歯口清掃の評価と各指標・指数を理解している。							
各種補助清掃道具の種類、使用方法を理解する。							
【教科書】							
新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論 医歯薬出版							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義形式(教科書、プリント、スライド、DVD)・実習							
【評価方法】							
筆記試験の評価点により総合的に判断する							
定期試験100点満点中60点以上で合格							
出席態度(実習態度)・実習レポート							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1～4	歯科保健指導とは ・歯科保健指導と保健教育 ・保健行動 ・指導、助言の方法			歯科保健指導の意義・目的を理解する。			
5.6	口腔保健正常像の理解			口腔周囲組織の正常な状態を理解する。			
7	初期病変の理解			う蝕や病変の初期病変の状態を理解する。			
8.9	歯ブラシの基礎知識			歯ブラシの歴史、各部の名称や、形態などを理解する。			
10.11	歯ブラシの種類・歯磨きの方法 口腔内の汚れについて			対象別の歯ブラシの特徴を理解し、個人に合った歯ブラシを選択できるようにする。 口腔内の付着物・沈着物の特徴や除去方法を理解する。			
12.13	歯ブラシの害・歯磨剤について			歯磨きにおける偽害作用の症状や、歯磨剤の偽害作用の問題点・解決策を理解する。			
14.15	染め出し剤について			染めだし剤の種類・所要条件・染めだし方法・手順を理解する。			
16	染め出し実習			いろいろな種類の染めだし剤を実際に口腔内で体験し、色の違いや染色状況を習得する。			
17.18	毛先磨き実技実習①			歯ブラシの毛先を使用した磨き方の種類と方法を習得する。			
19.20	脇腹磨き実技実習②			歯ブラシの脇腹を使用した磨き方の種類と方法を習得する。			
21	補助清掃用具について			各種補助清掃用具の種類・使用方法・特徴を理解し、状態にあった清掃用具を選択し、指導方法を習得する。			
22.23	汚れの表現方法①			口腔清掃指数のオレリー、OHI、OHI-Sなどの指数化を習得する。			
24	汚れの表現方法②			歯周疾患の指標について習得する。			
25.26	染め出し実習			相互実習で染めだしを行い、PCRをとり問題部分に対してブラッシング指導の方法を考える。			

【科目名】		歯科保健指導論2	【担当講師】		加藤 よしみ
【年次・開講期】		2年次・前期	【時間】		78時間
			【単位】		3単位
【授業概要】					
個人(集団)を対象とした歯科保健指導を实践できるよう、ライフステージごとのセルフケア・プロフェッショナルケアの方法を専門的な立場から支援・助言ができるように、知識、技術、態度を学ぶ。					
【到達目標】					
集団、個人などを対象に合わせた口腔衛生指導やメンテナンス管理方法を理解する。 地域歯科保健指導における集団指導の展開方法を理解する。					
【教科書】					
最新歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)					
【参考図書】					
【授業方法】					
講義					
【評価方法】					
筆記試験の評価点により総合的に判断する。 評価は100点満点で6点以上を合格とする。 出席態度(実習態度)、実習レポートの提出					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1.2	情報収集の方法		保健指導をするうえで患者の情報収集の重要性を理解する。		
3	スタディモデルについて		スタディモデルから読み取れる情報や活用方法について		
4	口腔内写真について		口腔内写真から読み取れる情報や活用方法について		
5	問題点の抽出と分析		口腔内写真・スタディモデルを用い問題点の抽出と分析を行い、問題点に対する解決策を考える。		
6～8	成人の口腔保健管理		1年生を患者とする症例検討実習を行い、実際の指導法を学ぶ。 (情報収集・考察・指導案の計画・実施)		
9	歯科保健指導論		口腔保健における歯科衛生士の役割を理解する。		
10.11	対象別保健指導①		妊産婦期の歯科保健行動を理解する。		
12～14	対象別保健指導②		新生児期・乳幼児期の歯科保健行動を理解する。		
15	対象別保健指導③		学齢期の歯科保健行動を理解する。		
16	対象別保健指導④		青年期の歯科保健行動を理解する。		

回	授業項目	授業内容
17	対象別保健指導⑤	成人期の歯科保健行動を理解する。
18.19	対象別保健指導⑥	高齢期の歯科保健行動を理解する。
20	対象別保健指導⑦	有病者の歯科保健行動を理解する。
21	インプラント装着者への メンテナンス	インプラント体の構造と、メンテナンスの方法を理解する。
22.23	音波電動歯ブラシについて	音波電動歯ブラシの特徴を理解し、患者さんに使用方法の説明ができる。
24	健康教育について	地域歯科保健の場における歯科衛生士の役割を知る。
25	指導用媒体の種類	個人・集団に指導する際の媒体について学ぶ。
26	集団への指導法	集団の特性を理解し、具体的な指導法を学ぶ。
27.28	幼児への口腔保健教育活動 (保育所歯科刷掃指導実習)	幼児、保護者への口腔保健教育と保育士、教員等への 支援内容を理解する。
29	情報の収集と整理法	対象集団へ、適切な情報を提供するためにも、 正しい情報の収集のやりかた、その情報をどのように 活用していくか理解する。
30	対象把握の目的	集団指導を行う場合、対象とそれを取り巻く環境(生活背景) や対象者の状況を把握する必要があることを理解する。
31	保育所における集団指導	実習に備えて、役割分担、指導目標と指導内容の検討、 指導内容の決定をおこなう。
32～37	紙芝居・ペープサート(媒体) 等の作製と活用法	紙芝居・ペープサートの作製をとおして、活用法・話法を学ぶ。
38	保護者向けパンフレット作製	対象集団・年齢にあったテーマでパンフレットを作製。
39	ご褒美のメダル作製	対象集団にあったテーマでご褒美メダルを作製。

【科目名】		歯科保健指導論2ーⅠ		【担当講師】		大美賀 由美子	
【年次・開講期】		2年次・前期		【時間】		16 時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
食事摂取基準を理解し、ライフステージ別にどのような食生活指導が必要かを学ぶ。							
国民栄養の現状と課題を学ぶ。							
食品成分表の内容について学ぶ。							
2冊の教科書を使います。							
7回目の分量が多いため、8回目にずれ込むことになります。							
【実務経験有】							
管理栄養士							
足利市において、特定保健指導、糖尿病性腎症重症化予防保健指導、地域ケア会議の助言者など							
【到達目標】							
国家試験合格のための知識に留まらず、自分自身や家族、患者さんの健康管理に役立てるようになる。							
ライフステージ別の特徴をとらえる。							
【教科書】							
①歯科予防処置論・歯科保健指導論							
②人体の構造と機能2栄養と代謝							
【参考図書】							
日本人の食事摂取基準 離乳食大事典 幼児食大事典 食事バランスガイド							
【授業方法】							
講義 1回毎に「復習シート」を配布し各自の学習に役立てる。							
【評価方法】							
マークシート式の試験を行い、100点満点中60点以上を合格とする。不合格者は再試験。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	食事摂取基準 ②p128～p139			日本人の食事摂取基準とはどういうものか。 栄養素の指標とは。			
2	妊産婦期 ①p304～p314			妊産婦期の一般的特徴 妊産婦に対する食生活指導			
3	乳児期 ①p314～p324			乳児期の一般的特徴 乳児期における食生活指導(離乳を含む)			
4	幼児期・学齢期 ①p324～p338			幼児期・学齢期の一般的特徴 幼児期・学齢期における食生活指導			
5	青年期・成人期 ①p339～p353			青年期・成人期の一般的特徴 青年期・成人期における食生活指導			
6	老年期 ①p354～p364			老年期の一般的特徴 老年期における食生活指導			
7	食生活と健康 ②p178～p193			国民栄養の現状と課題 食生活指針			
8	食べ物と健康 ②p203～p210			食品成分表 食品分類 食べ物の物性			

【科目名】		歯科保健指導論3		【担当講師】		設楽雅枝 加藤よしみ	
【年次・開講期】		3年次・後期		【時間】		20時間	
				【単位】		1単位	
【授業概要】							
講義やグループワークを中心に歯科衛生過程の思考とプロセスを学び、それに基づいた歯科衛生介入ができるように症例検討などを通して学んでいく。							
【到達目標】							
歯科衛生過程に基づいた情報収集、ケア計画立案を行い対象者に合わせた介入ができる。計画内容及び介入について、評価・検討ができる。							
【教科書】							
最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論(医歯薬出版)							
【参考図書】							
よくわかる 歯科衛生過程(医歯薬出版)・事例でわかる 歯科衛生過程(医歯薬出版)							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
学院規定による定期試験受験資格の出席率を満たし、全講義終了後、国家試験と同じ形式で試験を行う。合計得点の60%以上の得点で合格とする。出席実績、授業態度も評価する場合がある。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	歯科衛生士過程とは			歯科衛生士過程を学ぶ意味			
2	歯科衛生過程の基礎			歯科衛生過程の思考とプロセス			
3・4	歯科衛生過程の進め方			アセスメント・歯科衛生診断・歯科衛生計画立案・歯科衛生介入 歯科衛生評価・書面化について			
5・6	歯科衛生過程の応用			症例から考える歯科衛生過程の実践方法 (グループワーク・発表)			
7・8	義歯安定剤、洗浄剤について			臨床で使用されている材料の特徴や効能について習得する。			
9・10	100%歯磨き			歯ブラシ、補助清掃道具を使用し磨き残しの部分にに対して、適切な道具を選択し使用する。			

【科目名】		歯科診療補助論1		【担当講師】		渡辺 昌明	
【年次・開講期】		1年次・通年		【時間】		15時間	
【単位】				【単位】		2単位	
【授業概要】							
歯科診療において使用される材料の種類と特性について理解し、それぞれの使用目的、使用方法について知識を習得する。							
【実務経験有】							
渡辺歯科医院(歯科医師)							
【到達目標】							
各種歯科材料の基本性質と取り扱い方を理解する。							
診療室の管理について理解する。							
歯科診療の補助を理解する							
感染予防のための滅菌・消毒の必要性を理解する							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 医歯薬出版株式会社							
最新歯科衛生士教本「歯科材料」 医歯薬出版株式会社							
【参考図書】							
【授業方法】							
講義							
【評価方法】							
全講義終了後、筆記試験を行う。60点以上を合格とする。							
出席実績、授業態度、提出物等により総合的に判断する。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1・2	印象材			印象採得の目的 印象材の種類と用途、組成と特徴 アルジネート、寒天、ゴム印象材			
3	模型用材料			石膏の種類と用途 一般性質と取り扱い			
4	合着材・接着材			接着材の種類・成分・用途 一般性質と取り扱い			
5	成形修復材料			種類と用途 コンポジットレジン、グラスアイオノマー 一般性質と取り扱い			
6	仮封材			種類と用途			
7	暫間修復材と仮着用セメント			暫間修復材と仮着用セメントの種類と用途 暫間修復について			
8	ワックス			ワックスの種類と用途について			
9	歯科診療補助論 歯科診療室の基礎知識			歯科衛生士の業務と歯科診療補助 歯科診療室の環境、構造・設備 歯科用ユニット			

回	授業項目	授業内容
10	医療安全と感染予防	感染症の概念と予防対策 手指消毒 滅菌と消毒 医療廃棄物の取扱い
11	歯科診療所における患者対応の基本	受診の流れ 共同動作 ポジショニング、ライティング 器具の受け渡し、フォーハンドテクニック
12		スリーウェイシリンジテクニック バキュームテクニック
13		歯科領域に必要な臨床検査 画像検査 口腔内写真撮影
14	歯科衛生士がかかわる 医科疾患患者	主な全身疾患とその対応 代謝・内分泌、血液、呼吸器疾患 消化器、腎・泌尿器、循環器疾患疾患
15	周術期における歯科診療の 補助	病態の把握 口腔機能管理と歯科治療への対応

【科目名】 歯科診療補助論1(実習・実技)		【担当講師】 設楽 雅枝	
【年次・開講期】 1年次・通年	【時間】 30時間	【単位】 1単位	
【授業概要】 歯科診療補助の業務範囲について理解します。また、患者様はじめスタッフとのコミュニケーションを図るためには基本的な作法を理解し、身に着けることが大切です。 受付での窓口対応や電話対応を学び、具体的状況を設定した演習で適切に対応できる能力を養います。 さらに、感染予防や廃棄物の処理方法など、診療室の医療安全管理について、演習を取り入れ学習します。 各歯科材料の基礎知識を認識し、取り扱い方法やその留意点を理解します。 また、各診療内容に沿った共同動作の工夫により効率のよい歯科診療補助を習得します。			
【到達目標】 歯科診療の流れを理解し、歯科衛生士による補助、介助の重要性を理解する。 歯科診療補助の概要を理解する。 診療室における医療安全管理および消毒・滅菌法を修得する。 受付の事務的な業務を理解し、薬品、物品などの管理法を修得する。 歯科用ユニットを操作し、診療を安全に行う準備ができる。 共同動作を安全に行うことができる。 受付対応の基礎を理解し、患者様に誠意ある対応法を修得する。			
【教科書】 最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」 医歯薬出版 イラストで楽しく学ぶ デンタルオフィス入門 新人さんのためのTextBook 第2版(医歯薬出版)			
【参考図書】 ポイントを押さえてスキルアップ チェアサイドのアシスタントワーク(医歯薬出版) 最新歯科衛生士教本「歯科材料」 医歯薬出版			
【授業方法】 実習			
【評価方法】 レポート提出、受講・実習態度など			
【授業計画】			
回	授業項目	授業内容	
1	診療用器材の取扱い	診療室の環境・設備を整えられる 歯科用ユニットの取扱い・管理ができる	
2・3	主要歯科材料の取扱い	歯科用セメントの取扱いができるよう技能を修得する 合着材の取扱い・練和ができる 仮封材の取扱い・練和ができる	
4・5		印象材の取扱いができる 印象採得の方法・手順を実施することができる 歯科用石膏の取扱いができる	
6・7		(マネキン実習) 上下顎の印象採得ができる マネキン実習にて作製した印象体を用いて石膏注入ができる	
8・9		(相互実習) 上下顎の印象採得ができる 相互実習にて作製した印象体を用いて石膏注入ができる	
10・11		(相互実習) スタディモデルの作製ができる トリーマーの取扱いができる	
12	共同作業	術者・アシスタント・患者のポジショニングを實踐できる 正しいライティングができる	
13		(マネキン実習) 部位別口腔内洗浄とバキュームテクニックについて修得する	
14・15		(相互実習) バキューム操作技術を実施する 歯科診療におけるフォーハンドを実施できる	

【科目名】		歯科診療補助論2(講義)		【担当講師】		高橋 邦夫					
【年次・開講期】		2年次・通年		【時間】		30時間		【単位】		2単位	
【授業概要】											
令和の時代を担っていく歯科衛生士には、う蝕や歯周病はもちろん、全身疾患、摂食、嚥下障害を有する患者や介護を要する高齢者に対して口腔と全身の関係を考慮し他職種と連携しながら対応していくことが求められます。インプラントや高度先端医療の新たな知識の習得も必須です。こうした社会的ニーズに則したよりよい支援ができる視点と能力が必要になってきます。これらの習得をしていくことが本科目の概要である。											
【実務経験有】											
みやこ歯科開設・院長(歯科医師)											
【到達目標】											
具体的には、医療安全、感染予防対策、滅菌法、根管充填法のアシスト、CR術式とアシスト、外科器具の取り扱い、各種印象材の習熟と取り扱い、各種セメントの練り方や取り扱い等 バキューム操作、ラバーダム、模型製作、患者介護											
【教科書】											
最新歯科衛生士教本 歯科診療補助 医歯薬出版											
【参考図書】											
最新歯科衛生士教本 歯科材料 医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 歯科機器 医歯薬出版											
【授業方法】											
講義											
【評価方法】											
全授業終了後 実技試験と筆記試験を行う。 60点以上を合格とする。											
【授業計画】											
回	授業項目				授業内容						
1	接遇				歯科医療もサービス業であるという観点から、受付対応、電話対応、挨拶、敬語等を学び 一社会人として恥ずかしくない行動がとれるようにする						
2	各種石膏の取り扱い				普通石膏 硬石膏 超硬石膏に分けられる。 混水比もことなり 硬さもことなる。また使用用途も違うことからそれらの性質の差を理解すると同時に取り扱いについても学ぶ。						
3	セメント練和				合着用、接着用セメントも種類が多く その取り扱いには知識と熟練を要する。 セメントの種類別に練和法、その性質を学び 実践の場で迷うことなく扱えるようにする。						
4	コンポジットレジン充填				コンポジットレジンの性質や取り扱いを学ぶ 光重合型、化学重合型、デュアル重合型、各々緒知識と取り扱い法、適応症を学ぶ。						
5.6	一人スケーリング・バキューム				一人でバキュームを持ちながら 超音波スケーリングが出来るようにする。特に右上臼歯部、左上臼歯部など 一人では困難な場所のバキュームの取り扱いについて学ぶ。						
7	アルギン酸印象採得				アルギン酸印象採得について学ぶ。特に頬側部や前歯部に気泡が入らないようにする。						

回	授業項目	授業内容
8	アルギン酸寒天印象	使用頻度の高いアルギン酸寒天の連合印象について正しい知識と取り扱い方を繰り返し学ぶ。
9	個人トレー製作	レジンの取り扱いに慣れ その知識を完全なる物にする 個人トレー製作を学ぶ。
10	個人トレーを用いての印象	個人トレーを用いたアルギン酸印象 既成トレーとの違いを学ぶ。
11	外科用器具の取り扱い	持針器と針、糸、メスとメスホルダーなどの着脱について学ぶ。
12	各種研磨について	コンポジットレジン、インレー、クラウン、義歯など 使う器具と研磨法について学ぶ。
13	器具の受け渡し	術者との器具の受け渡しについて学ぶ 相互に術者とアシスタントを経験することで お互いの立場を理解し、受け渡しがスムーズに出来るようにする。
14	バキューム操作法	バキュームをいつどの位置に入れればいいのかを学ぶ。 術者の妨げにならぬようなバキューム操作とはについて学ぶ。
15	プロービング	口腔内のプロービングの6点法計測 出血の有無・チャートの記録の仕方を学ぶ。

【科目名】		歯科診療補助2(実習・実技)		【担当講師】		設楽 雅枝						
【年次・開講期】			2年次・通年		【時間】		30時間		【単位】		1単位	
【授業概要】												
歯科診療の実習を通して、教科者だけではわかり得ない知識や技能等を身に着け、実践的な歯科衛生士を育成する。また日進月歩の時代のニーズに対応できるようにする。												
【到達目標】												
実習を通して知識や器具の取り扱い水準の技能を高め、社会のニーズに応えるようにする。 コンポジットレジンの取り扱いとアシスタントワーク、各種印象材を用いて複雑窩洞の印象を採り石膏注入までを行うことで、流れを理解する。また根管充填、歯周外科等の術式への理解を深めるため実際に実習を行い技能の習得を行う。												
【教科書】												
最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 医歯薬出版												
【参考図書】												
最新歯科衛生士教本 歯科材料 医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 歯科機器 医歯薬出版												
【授業方法】												
実習												
【評価方法】												
実習毎に模型やチャート等の提出を求め 指導者が評価を行い全授業終了後実技試験を行う。												
【授業計画】												
回	授業項目				授業内容							
1.2	保存修復時の診療補助実習①				・コンポジットレジン修復を模型に充填し、レジンの性質や取り扱いを学ぶ。また、アシスタントと術者を経験することでスムーズなアシスタントワークが出来るようにする。 ・即時重合型レジンの性質や取り扱いを学ぶ。 暫間被覆冠等作成時に応用できるよう小筆の取り扱いも学び、後片づけの方法等についても実際にできるようにする。							
3.4	保存修復時の診療補助実習②				・各種印象材の取り扱いについて学ぶ。 ・寒天とアルジネートの連合印象について特徴を理解し、窩洞形成歯牙にて一連の印象採得が術者、アシスタントと連携しスムーズにできるようにする。							
5.6	歯内療法時の診療補助実習				・根管充填時の術式を理解し、器具の受け渡し実習を行う。 相互に術者とアシスタントを経験することで、お互いの立場を理解し受け渡しがスムーズに出来るようにする。 同時に、器具受け渡しに適した位置、避ける位置を学ぶ。 ・様々な小器具の渡し方について学ぶ。 ・各種セメントや仮封剤の練和をし、それぞれの使用器材や稠度が調節できるようにする。							
7.8	歯周外科治療の診療補助実習				・各種歯周外科治療の術式について学び、使用する器具を術式ごとに準備できるようにする。 ・持針器と針、糸、メスとメスホルダーなどの着脱について学び着脱ができるようにする。 ・歯周パットの練り方や固さ、口腔内での取り扱い方について学ぶ。							
9.10	補綴治療時の診療補助実習①				・アルジネート印象材を使用し概形印象採得をし、口腔内に適合する既製トレーの選択、歯列の状態に合わせたワックスでの修正、印象材のトレーへの盛り付けなど、一連の流れを理解しできるようにする。 ・採得した印象に石膏を流入し、スタディモデルを作成する。							

回	授業項目	授業内容
11.12	補綴治療時の診療補助実習②	・出来上がったスタディモデルを使用し、個人トレーを作成する。 ・個人トレー用レジンの取り扱いに慣れ、実際に触れることでその性質を理解し、その知識を完全なるものにする。
13.14	口腔外科治療時の診療補助	・各種口腔外科手術の術式について学び、使用する器具を術式ごとに準備できるようにする。 ・浸潤麻酔、伝達麻酔を学び、それぞれの準備ができるようにする。 ・各種手指消毒法を理解し、臨床の場における手洗いの実際を学ぶ。手洗いの実際を学ぶ。 また、手洗いチェッカーを用いて洗い残した汚れの有無や付着場所を確認し、洗い方を再考する。 ・滅菌済ガウンの着用方法や介助方法を学び、実際に介助者と共に着用し、清潔域と不潔域を理解する。 ・滅菌済グローブの清潔域を理解して、着用できるようにする。
15	矯正治療時の診療補助	・口腔内写真撮影について学び、正面観、側方面観、咬合面観の撮影ができるようにする。

【科目名】		歯科診療補助論2-I		【担当講師】		品川 泰弘	
【年次・開講期】		2年次・前期		【時間】		26時間	
【単位】		1単位					
【授業概要】							
歯科放射線に関する歯科衛生士としての必要な知識を学ぶ。 臨床検査に関する歯科衛生士としての必要な知識を学ぶ。 歯科診療補助行為の基礎から技術までを学習し、的確な歯科診療補助行為を習得する。							
【実務経験有】							
しながらわ歯科クリニック開設・院長(歯科医師)							
【到達目標】							
放射線の取り扱いの基本原則を理解する 放射線関係の業務内容を習得する 歯科診療における臨床検査の基礎知識を理解する 臨床検査におけるインフォームド・コンセント、医療事故防止に関する知識を理解する 臨床の現場で活動できる具体的な歯科診療補助行為を、基礎から技術までを学習し、 的確な歯科診療補助行為を習得する							
【教科書】							
最新歯科衛生士教本 歯科放射線 医歯薬出版 最新歯科衛生士教本 臨床検査 医歯薬出版							
【参考図書】							
【授業方法】							
教科書・プリント・スライド							
【評価方法】							
全授業の終了後、国試形式・記述式の進級試験を行う。 60点以上の者を合格とする。							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	歯科医療と放射線			歯科におけるエックス線写真と画像診断 放射線とその性質 放射線の人体への影響と防護			
2	エックス線画像の形成			エックス線と画像の形成 エックス線フィルムと増感紙 デジタル画像系			
3	歯科におけるエックス線検査			口内法エックス線撮影 パノラマエックス線撮影 頭部エックス線規格撮影 その他の画像検査法			
4	口腔内エックス線撮影の実際と 歯科衛生士の役割			撮影の準備 フィルムとヘッドの位置づけ 配慮が必要な患者のエックス線撮影 感染予防 写真のみかた			
5	パノラマエックス線撮影と歯科衛生士 の役割、写真処理と画像保管の実際			撮影の準備 患者の誘導の位置づけ 写真のみかた 写真処理 品質保証計画の実施 医療機器の保守・点検 写真の整理・観察・保管			
6	放射線と口腔管理			放射線治療 放射線治療による副作用 放射線治療患者の口腔管理			
7	歯科放射線復習			国試形式・記述式による問題を解いて復習			
8	臨床検査とは			臨床検査の倫理と安全 臨床検査はなぜ必要か どんな検査があるのか 検査成績の読み方			
9	生体検査(生理機能検査)			体温検査 脈拍検査 血圧検査 心機能検査 肺機能検査 筋電図検査 脳波検査 血中酸素濃度検査			

回	授業項目	授業内容
10	検体検査	血液を用いる検査 感染症(細菌)検査 病理検査
11	口腔領域の臨床検査	口臭検査 味覚検査 歯科金属アレルギーの検査 舌の検査 口腔粘膜の検査 唾液検査 歯周組織検査 歯の検査 細菌培養検査
12	摂食嚥下関連の検査	摂食嚥下障害のスクリーニングテスト 摂食嚥下障害の検査法
13	臨床検査復習	国試形式・記述式による問題を解いて復習

【科目名】 歯科診療補助論2-Ⅱ		【担当講師】 稲川 元明	
【年次・開講期】 2年次・前期	【時間】 26時間	【単位】 1単位	
【授業概要】 医療における歯科麻酔の必要性を理解し、局所麻酔・精神鎮静法・全身麻酔・ペインクリニック・歯科臨床で遭遇する全身的偶発症について歯科衛生士として必要な知識と技術の習得を目標とする。			
【到達目標】 1、局所麻酔について理解する 2、精神鎮静法について理解する 3、全身麻酔について理解する 4、歯科診療時に発生する全身的偶発症を理解する。 5、一次救命処置の方法を理解し、実習で習得する。			
【実務経験有】 高崎総合医療センター 歯科口腔外科医長(歯科医師)			
【教科書】 最新歯科衛生士教本「顎・口腔粘膜疾患 口腔外科・歯科麻酔」 医歯薬出版			
【参考図書】 歯科衛生士国家試験 過去問題			
【授業方法】 教科書・スライド・動画による講義形式			
【評価方法】 全授業および実習終了後、筆記試験を行う。60点以上の者を合格とする。出席実績、授業態度、出席実績、授業態度、課題(レポート等)の提出実績、実習態度、実習成績により減点を科す場合がある。			
【授業計画】			
回	授業項目	授業内容	
1	歯科麻酔学総論 1. 麻酔の概念 2. 歯科臨床における歯科麻酔全身状態の評価	・麻酔の概念を理解する ・歯科臨床における麻酔学の役割 ・局所麻酔の発見と応用について知る ・インフォームドコンセント ・問診、視診、触診、打診、聴診 ・呼吸・循環・中枢神経のモニタリング	
	局所麻酔・局所麻酔の構造 1. 局所麻酔薬・局所麻酔薬の代謝と排泄	・局所麻酔薬の全身への作用 ・局所麻酔薬の種類 ・局所麻酔薬の性質と作用 ・口腔領域に用いられる表面麻酔薬	
2	局所麻酔 1. 血管収縮薬 2. 全身麻酔時の局所麻酔 3. 局所麻酔を実施する前に 4. 局所麻酔の利点と欠点	・血管収縮薬添加の目的 ・血管収縮薬の種類 ・血管収縮薬の臨床使用上の注意 ・血管収縮薬の薬理(アドレナリン・フェリプレシン) (循環系疾患、甲状腺機能亢進症、糖尿病) ・血管収縮薬の局所的問題 ・アドレナリンの薬物相互作用 ・全身状態の把握 「高血圧症、虚血性心疾患(狭心症・心筋梗塞)、不整脈、心臓弁膜疾患、脳血管障害、呼吸系疾患、代謝性疾患、妊婦、肝炎」 ・局所麻酔の利点と欠点	
3	局所麻酔 1. 局所麻酔法 2. 局所麻酔の偶発症	・表面麻酔法 ・浸潤麻酔法 ・伝達麻酔法(上顎、下顎) ・局所麻酔の局所的偶発症	

回	授業項目	授業内容
4	局所麻酔 1.局所麻酔の偶発症	・局所麻酔の全身的偶発症
5	精神鎮静法 1.精神鎮静法 2. 吸入鎮静法	・精神鎮静法の内容 ・精神鎮静法の内容 ・精神鎮静法の内容と適応 ・精神鎮静法と全身麻酔との相違点 ・笑気吸入鎮静法の利点と欠点 ・笑気吸入鎮静法の適応症と禁忌症 ・吸入鎮静法に使用される薬剤 ・笑気について ・笑気吸入鎮静法に使用される器械、器具 ・至適鎮静度・注意事項 ・術前・術中・術後管理
6	精神鎮静法 1.静脈内鎮静法	・静脈内鎮静法の臨床的分類 ・笑気吸入鎮静法と静脈内鎮静法 ・静脈内鎮静法の適応症と禁忌症 ・静脈内鎮静法に使用される薬剤 ・術前・術中・術後管理 ・患者への説明と指示 ・静脈内鎮静法の実施 ・至適鎮静度
7	全身麻酔 1.全身麻酔	・全身麻酔とは ・周術期管理の方法 (術前・術中・術後管理) ・歯科医療における全身麻酔の適応 ・術前の全身状態評価と管理 ・術前の経口摂取制限 ・手術危険度 ・麻酔前投薬
8	全身麻酔 1.全身麻酔に使用される薬剤 2.気管内麻酔 3.外来全身麻酔 4.ペインクリニック	・吸入麻酔薬 ・静脈麻酔薬 ・筋弛緩薬 ・気管内麻酔の適応 ・気管内麻酔の利点と欠点 ・外来全身麻酔とは ・外来全身麻酔の適応症と禁忌症 ・ペインクリニックとは ・ハリ麻酔
9	歯科臨床における救急処置 1.全身的偶発症 2.一次救命処置 3.AED	・全身的偶発症 ・ショック ・一次救命処置(心マッサージ、気道確保、人工呼吸) ・AED
10	救急蘇生法	
11	これまでのまとめ	これまでのまとめ
12	定期試験対策	定期試験対策
13	国家試験対策	国家試験対策

【科目名】 歯科診療補助論3(講義)		【担当講師】 高橋邦夫	
【年次・開講期】 3年次・後期	【時間】 20時間	【単位】 1単位	
【授業概要】 超高齢化社会を迎え歯科診療所に来院する患者は、60歳以上が急激に増加している。昔と比べて、う蝕は減少傾向で高齢者を対象とする口腔機能回復が中核となり全身疾患を抱える患者も増えてきた。これからは以前からの歯科診療補助に加えて訪問診療、口腔健康管理、摂食嚥下リハビリテーションまでが要求される時代となった。これらに対応できる歯科衛生士の養成をするための知識と技能を身に着けさせることを目標とする。また、それら共同動作に必要な基本的な知識と技術を習得する。			
【実務経験有】 みやこ歯科を開設・院長(歯科医師)			
【到達目標】 歯科医院での補助、介助がスムーズにできるレベルまで、各自の技術・知識を高める。 また、有病者への対応や周術期 訪問診療時のスムーズなアシスタントワークの習熟をめざす			
【教科書】 医歯薬出版 歯科診療補助学			
【参考図書】 医歯薬出版 歯科機器 医歯薬出版 歯科材料			
【授業方法】 講義			
【評価方法】 学院規定による定期試験受験資格の出席率を満たし、全講義終了後、国家試験と同じ形式で試験を行う。合計得点の60%以上の得点で合格とする。 出席実績、授業態度も評価する場合がある。			
【授業計画】			
回	授業項目	授業内容	
1	仮封材の取り扱い	仮封の目的、仮封材の種類、性質を理解するとともに、その取り扱い方を習得する。	
2	印象材の取り扱い	アルギン酸、合成ゴム質印象材の実習を通して、各種印象材の性質、取り扱いを習熟する。	
3	小外科手術時の器材の取り扱い	局所麻酔器具、替え刃メス、縫合器材の取り扱いを習熟する。	
4	保存修復器材の準備	レジン、インレー、アマルガムの修復方法の違いに応じたセッティングが出来るようにする。	
5	歯内療法器材の準備	根管治療・根管充填の基礎知識を学び、器材準備の手順を覚える。	
6	歯周療法器材の準備	歯周組織の診査、歯周外科器材の準備を理解し、器具の取り扱いを覚える。	
7	小児歯科治療器材の準備	ラバーダム、シーラント、歯髄切断法について理解し器材の準備	
8	抜歯の準備と取り扱い	各処置の術式について理解し、必要な器具を準備できるようにする。	
9	補綴用器材の取り扱い	義歯の印象、咬合採得、ろう義歯試適、研磨等について学び、使用する器具を準備できるようにする。	
10	口腔内写真撮影	写真は客観的に残せる方法であり、後から確認できる。撮影法を学ぶ。	

【科目名】		臨地・臨床実習1		【担当講師】	
【年次・開講期】		1年次・後期	【時間】	90時間	【単位】 2単位
【授業概要】					
歯科診療所の業務内容、及び歯科医療チームの一員としての歯科衛生士の役割を理解し、歯科衛生士としての心構えを身に付ける。校内で既習の知識、技術、態度を具体的かつ实际的に理解し、歯科衛生士としての役割を把握する。					
【到達目標】					
1. 臨床現場での診療システムを習得することができる					
2. 臨床現場での歯科衛生士の業務範囲を知り、習得することができる					
3. 臨床現場での患者さんへの対応を見学し、どのように意思疎通を図っているのかを知る					
【教科書】					
【参考図書】					
【授業方法】					
実習					
【評価方法】					
出席、遅刻、早退や実習帳の提出状況などで、総合判定する。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	診療システム		円滑な診療をするためにどのような共同動作のルールで行われているかなど基本的な知識を習得する。		
2	消毒・滅菌の方法		感染予防対策がどのように行われているかを学ぶ。 診療所で行われている消毒・滅菌の方法と用途および効果について。		
3	器具の準備と後始末の方法		診療室から排出される廃棄物に対する理解と分別がどのようにされているのかを学ぶ。		
4	歯科材料の取り扱いと保管方法		診療室内にある材料をの取り扱い方と取り扱い方によって材料の優劣にも関わるため保管方法および材料の知識を習得する。		
5	患者への対応 (患者の確認及び誘導の仕方)		患者の状況把握を行い、患者への説明、伝達対話等を通して患者と歯科医、歯科衛生士が意思疎通をどのように測っているのかを学ぶ。		
6					
7					
8					

【科目名】		臨地・臨床実習2		【担当講師】	
【年次・開講期】		2年次・後期	【時間】		360時間
			【単位】		8単位
【授業概要】					
歯科衛生士の業務である歯科予防処置、各診療科目における歯科診療補助、歯科保健指導の手技を修得する。（授業計画の回数は、実習内容の分類を示す。）					
【到達目標】					
1. 受付対応事務ができる					
2. 予診における診療補助ができる					
3. 歯科保存治療時の診療補助ができる					
4. 歯周治療時の診療補助ができる					
5. 歯科補綴治療時の診療補助ができる					
6. 口腔外科治療時の診療補助ができる					
7. 矯正歯科治療時の診療補助ができる					
8. 小児歯科治療時の診療補助ができる					
9. X線撮影時の診療補助ができる					
10. 公衆歯科衛生現場において集団を対象とした歯科保健教育ができる					
【教科書】					
【参考図書】					
【授業方法】					
実習					
【評価方法】					
出席、遅刻、早退や実習帳の提出状況および実習課題の内容などで、総合判定する。					
【授業計画】					
回	授業項目	授業内容			
1	受付対応事務	患者・訪問者の受付対応、電話の対応、診療申込書の指導、カルテの作成 患者誘導、経理事務、アポイント、リコール、服薬指導			
2	予診	予診表の記載・整理、診査・検査用器材の準備と消毒・滅菌、診査表の記入 バイタルサイン、歯科保健指導			
3	保存修復・歯内療法	歯科保存治療用器材の準備と消毒・滅菌、歯科保存治療に用いられる薬剤 材料の準備と管理、バキューム操作法、ラバーダム防湿法、仮封操作 コンポジットレジン修復・インレー修復の診療介助と研磨、歯髄鎮静・歯髄覆罩 歯髄除去・根管治療・根管充填剤の介補、歯科保存治療患者へのメンテナンス			
4	歯周治療	歯周組織検査、歯周治療用器材の準備と消毒・滅菌、薬剤、材料の準備と管 理 スケーリングとルートプレーニング、歯周ポケット搔爬術・歯肉切除術 その他歯周外科の介補・術後のメンテナンス			

回	授業項目	授業内容
5	歯科補綴	歯肉圧排法、印象採得法、模型作製法、TEK作製法、歯科補綴治療用器材の取り扱いと消毒・滅菌法、クラウンブリッジ・局部床義歯・全部床義歯装着時の介補 補綴物装着患者へのメンテナンス
6	口腔外科・歯科麻酔	口腔外科治療用器械の準備と消毒・滅菌、口腔外科治療に用いる薬剤・材料の取り扱いと保管、腫瘍切開・嚢胞摘出手術・歯槽骨整形術 感染患者への対応
7	矯正歯科	矯正治療用器械・材料の準備と消毒・滅菌法、スタディモデル作製、酸処理・歯面研磨、舌側弧線装置・床矯正装置・機能的矯正装置・保定装置装着時の介補、矯正歯科治療患者のメンテナンス
8	小児歯科	小児歯科治療用器械・材料の準備と消毒・滅菌、乳歯修復処置・乳歯歯内療法 乳歯抜歯・咬合誘導治療時の介補
9	歯科放射線	各種X線撮影の準備と補助、X線フィルムの現像・整理・保管
10	歯科保健教育	地域保健センター幼児健診見学(歯科健診、歯科保健指導) 保育所(幼児に対する歯科保健教育)小学校刷掃指導見学(学童に対するブラッシング指導介助)

【科目名】		臨地・臨床実習3	【担当講師】	
【年次・開講期】		3年次・前期	【時間】	450時間
			【単位】	10単位
【授業概要】				
歯科衛生士の業務である歯科予防処置、各診療科目における歯科診療補助、歯科保健指導ができる能力を付ける。(授業計画の回数は、実習内容の分類を示す。)				
【到達目標】				
1. 歯科予防処置ができる 2. 障害者歯科治療時の診療補助ができる 3. 年代、状況に応じた歯科保健指導ができる。 4. 口腔外科治療時の診療補助ができる				
【教科書】				
【参考図書】				
【授業方法】				
実習				
【評価方法】				
出席、遅刻、早退や実習帳の提出状況および実習課題の内容などで、総合判定する。				
【授業計画】				
回	授業項目	授業内容		
1	歯科予防処置	歯科予防処置用器材の準備と消毒・滅菌法、口腔内不潔度検査 歯口清掃指導、フッ化物歯面塗布法、フッ素洗口法、フッ化ジアンミン銀塗布法 小窩裂溝填塞法、歯石除去法、歯面研磨法、貼薬法、シャープニング 歯科疾患・口腔清掃に関する統計処理		
2	歯科診療補助	障害者歯科治療時の介補 障害者施設での健診介補		
3	歯科保健指導	幼児、児童、成人、老人、妊産婦、矯正治療患者・補綴物装着患者 歯周治療患者の歯科保健指導 齲蝕・歯周病の疫学的特性を理解し、説明することができる 齲蝕・歯周病の予防・コントロールを理解し説明することができる 歯科保健指導の目的と意義を理解し、歯科保健指導計画をたてることができる 業務記録の目的と意義を理解し、作成することができる 地域保健の意義と特質・基礎的活動を理解する		
4	口腔外科	口腔外科大手術の見学、病棟見学、術後メンテナンス見学		

【科目名】		看護学	【担当講師】		吉野 初恵
【年次・開講期】		1年次・前期	【時間】		16時間
			【単位】		1単位
【授業概要】					
高齢化社会の到来や疾病構造の変化等の社会情勢の変化によって、歯科衛生士に求められる役割が変化している。また、病院におけるチーム医療の推進もあり、歯科衛生士と看護師が協働する場面も増えた。このような状況に対応するために、病院や地域医療活動における歯科衛生士の役割や、全身疾患の評価や全身管理に対する理解に必要な基本的な看護技術について学ぶことを目的とする。					
【実務経験有】					
前橋赤十字病院看護師					
【到達目標】					
1. 歯科衛生士が看護師と協働する必要性を理解する					
2. 歯科衛生士が基礎知識として押えておくべき看護技術及び看護実務を理解する					
3. 患者の精神状態も含めた全身状態に目を向けることができる					
4. 起こりうる危険を予知し、患者の安全・安楽を考慮した対策を考えることができる					
5. 地域医療活動のしくみを理解する					
【教科書】					
歯科衛生士のための看護大意第2版					
【参考図書】					
【授業方法】					
・講義 演習					
【評価方法】					
・学科試験 60点以上を合格					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1	1. 病院における歯科衛生士の役割 2. 看護の概念		・歯科衛生士の活動の場 ・診療所・病院 ・医療チームのなかの歯科衛生士 ・看護の歴史 ・看護とは		
2	3. 歯科衛生士が知っておくべき看護技術(1)		・バイタルサインについて ・バイタルサインの測定方法(体温・脈拍・呼吸)		
3	3. 歯科衛生士が知っておくべき看護技術(2)		・血圧測定 ・コミュニケーション ・患者への支援・安全と安楽 ・摂食 ・与薬・嚥法・吸引および吸入		
4	4. 歯科衛生士に必要な看護業務(1)		・記録の作成 ・病院外来での業務 ・口腔ケア		
5.6	3. 歯科衛生士が知っておくべき看護技術		・バイタルサイン測定・手技 ・車いすの移乗 ・手洗いの仕方 ・リラクゼーション ・ハンドケア		
7	4. 歯科衛生士に必要な看護業務(2)		・救急時の看護 ・洗浄・消毒・滅菌 ・感染対策 ・スタンダードプリコーション ・医療安全対策		
8	5. 地域医療活動における歯科衛生士の役割		・地域社会における看護のあり方 ・保健・医療・福祉チームとの連携 ・在宅医療における歯科衛生士の役割		

【科目名】		保険請求		【担当講師】		中嶋 耕次	
【年次・開講期】		2年次・前期		【時間】		16時間	
【単位】				【単位】		1単位	
【授業概要】							
社会保険制度の仕組み、とりわけ医療保険の基礎を学ぶ							
そして歯科医療に携わるための保険の決まりを学ぶ							
【実務経験有】							
なかじま歯科クリニック開設:院長(歯科医師)							
【到達目標】							
我が国の医療保険の仕組みを学び、歯科特有のルールを理解する							
【教科書】							
歯科衛生士のための歯科診療報酬入門(医歯薬出版株式会社)							
【参考図書】							
【授業方法】							
教科書・配布資料・スライドを用いた講義							
【評価方法】							
マークシート方式の試験にて評価							
【授業計画】							
回	授業項目			授業内容			
1	社会保険制度 医療保険			社会保険の仕組みについて 医療保険の分類について			
2	年金保険 労働保険			年金、労働保険(主に雇用保険)について 介護保険、生活保護の仕組み			
3	診療録の記載			カルテの読み方、カルテ・レセプトに使われる略称について 負担金の仕組み、計算について 歯科衛生士の業務範囲について			
4	保険治療と保険外治療			保険適用外の治療について 保険適応の治療の流れについて(う蝕治療、根管治療、補綴治療、外科治療)			
5	保険でおこなう歯周治療(1)			保険適応となる歯周治療の流れについて 歯科衛生実地指導について			
6	保険でおこなう歯周治療(2)			歯周基本検査・歯周基本治療について 歯周外科手術・メインテナンスについて			
7・8	レセプトコンピューターの 取り扱い実習			実際のパソコン入力等の実習を行う			

【科目名】		総合歯科学Ⅰ	【担当講師】		矢内太郎 塩崎秀一 谷口明慧
【年次・開講期】		3年次・後期	【時間】		90時間
			【単位】		3単位
【授業概要】					
校外臨床実習修了を踏まえ、解剖・生理等の基礎的な分野を統合するために学ぶ。					
【到達目標】					
人体の構造・組織に関する基本的知識を理解することができる					
人体の機能、構成成分に関する基礎知識を理解することができる					
歯・口腔の構造およびその周囲組織に関する基本的知識を理解することができる					
歯・口腔の機能、組織に関する基本的知識を理解することができる					
【実務経験有】					
矢内太郎:矢内歯科医院院長(歯科医師)					
塩崎秀一:生理学、病理学分野の研究者(医学博士)として長年従事					
谷口明慧:群馬大学歯科口腔・顎顔面外科:歯科医師					
【教科書】					
歯科衛生士教本 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学					
歯科衛生士教本 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学					
【参考図書】					
【授業方法】					
講義					
【評価方法】					
学院規定による定期試験受験資格の出席率を満たし、全講義終了後、国家試験と同じ形式で試験を行う。合計得点の60%以上の得点で合格とする。					
出席実績、授業態度も評価する場合がある。					
【授業計画】					
回	授業項目		授業内容		
1・2	人体の構造・骨格系		人体の区分、体の方向用語 骨の機能、構造、形態 骨の連結様式を説明できるようにする 骨の発生様式、再構成に様式について実際の骨の構造		
3・4	筋と運動・消化と呼吸		筋の形状と分類 体の各部位の筋系(頭部、頸部、背部、胸部、腹部、上肢、下肢) 消化と呼吸の意義 消化器の構造 口腔、咽頭、食道、胃、小腸、大腸、肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜、大腸の機能		
5・6	循環・呼吸		血管系の概要 終動脈、体循環、肺循環 心臓の内部構造 動脈系、静脈系、静脈確保と静脈注射、胎児循環 リンパ系の概要とその機能 リンパ管とリンパ節 リンパ循環、胸腺、脾臓 外呼吸と内呼吸 呼吸器の構成(上気道、下気道、肺と気管、気管支・肺嚢胞と肺胞、肺の血管)気管と肺の神経支配		
7	内分泌		内分泌気管とホルモン 内分泌気管の種類 内分泌気管の構造と機能(下垂体、上皮小体、膵臓、副腎、性腺、松果体) 歯とホルモン 男性生殖器、女性生殖器		
8・9	組織発生・細胞の構造と機能		組織発生についてのイントロダクション 細胞膜、オルガネラ(細胞内小器官)、核、細胞		
10・11	組織・発生学		上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織 染色体、減数分裂、精子、卵子、胚葉、胎児		
12・13	骨・筋の構造・神経の構造		骨・筋の組織学的構造 神経の組織学的構造		

回	授業項目	授業内容
14・15	細胞と組織・血液	細胞と組織 血液の成分、機能 血液の凝固と溶解 血液型と輸血 恒常性体温
16	循環器系・呼吸系	心臓の構造と機能 心臓の自動性、心臓の機能の調整 血管の構造と機能 血圧とその調整 呼吸器の構造と機能 呼吸機能の調整 呼吸運動
17	神経系・感覚系・筋系	神経系の構造(分類)と機能 中枢神経、末梢神経 感覚器の構造と機能 筋の構造と機能 運動機能(随意運動)、反射
18・19	消化系、腎・泌尿器系(排泄) 内分泌系、生殖系	消化器の構造と機能 腎・泌尿器の構造と機能 内分泌機能、ホルモン 生殖器の構造と機能
20・21	口腔、口腔前庭、固有口腔 口峽、舌、唾液腺、咽頭	口腔前庭の部位の確認 口唇や頬、歯肉の解剖学的構造を理解しその機能について学ぶ 歯肉を構成する組織について学ぶ 口蓋と舌下部の場所と構造について知る 口峽に存在する筋肉の名称と役割について 舌の解剖(区分、粘膜の構造、筋肉の走行、動脈・静脈の流れ、神経の走行など) 唾液腺の種類や分泌される唾液の性状 唾液腺の導管の走行について 咽頭の定義 咽頭部に存在する筋の名称、走行、働きについて
22・23	頭蓋骨、上顎骨、口蓋骨 舌骨、顎関節	頭蓋骨は15種類、23個の骨から構成されている それぞれの構造や神経、血管が通る経路なども理解する 上顎体を中心に上顎骨を構成する突起について 歯槽管を通る神経、動脈の分布 口蓋骨の構造と口蓋骨内を通る神経、脈管について 下顎骨の構造、下顎骨を通る神経、脈管や下顎骨に付着する筋肉について 舌骨の構造や付着する筋肉について 顎関節の複雑な構造と運動を理解する
24・25	表情筋、舌骨上筋、咀嚼筋 口腔付近に分布する動脈 静脈	表情筋の種類と走行について 舌骨上筋群の種類と付着部位、走行について 顎下三角とオトガイ下三角の部位とそこに存在するリンパ節について 咀嚼筋(咬筋、側頭筋、内側翼突筋、外側翼突筋)の走行と運動について 頭頸部から口腔にかけて分布する動脈・静脈の走行について 頭頸部のリンパ節の位置について
26	頭頸部のリンパ系、神経	神経の種類 脳神経(三叉神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経、舌下神経) 脊椎神経 脊椎神経と脊椎神経叢の区分頭頸部に分布する脊椎神経 自律神経
27	歯の機能、交換、植立、組織 形態 種類と数、表示法、歯式	歯の機能、交換、植立について 歯の硬組織、軟組織について 歯の形態、各部の名称について 永久歯、乳歯の種類と数について 永久歯、乳歯の表示記号について ジグモンディー方式、FDI方式について
28	歯の位置による名称 歯の用語 根管の形態 歯の左右の鑑別 歯・歯周組織及び顎骨組織 の模式図	歯の位置による名称について 歯の方向、歯冠の区分、各部の名称について 根管の形態について ミュールライターの三徴候について 歯、歯周組織及び顎骨組織の模式図を書いて図解できるようにする
29 30 31	前歯部の特徴 小臼歯部の特徴 大臼歯部の特徴	上顎中切歯、側切歯、犬歯とその特徴について 下顎中切歯、側切歯、犬歯とその特徴について 上顎第一、二小臼歯とその特徴について 下顎第一、二小臼歯とその特徴について 上顎第一、二、三大臼歯とその特徴について 下顎第一、二、三大臼歯とその特徴について
32・33	乳歯の特徴 特色のある歯の形態	乳歯の特徴 乳歯と永久歯の比較 形態学的特徴 典型的な歯の形態とは異なる歯の状態について
34・35	顔面と口腔の発生 歯と歯周組織の発生	鰓弓や突起、口蓋と鼻腔などのポイントを理解し 顔面と口腔の発生について理解できるようにする 歯胚の形成や発生、歯牙の交換について
36・37	エナメル質・象牙質、歯髄	エナメル質の正常組織構造 象牙質・歯髄の正常組織構造
38・39	セメント質、歯根膜・歯槽骨 歯肉	セメント質・歯根膜の正常組織構造 歯槽骨・歯肉の正常組織構造
40・41	口腔の神経、感覚・味覚、嗅覚	脳神経 頭部・口腔の自律神経 歯と口腔の感覚 味覚の役割、感受性、神経機構 嗅覚の役割、特性、神経機構
42・43	咬合、咀嚼・嚥下、嘔吐	下顎の構造と機能(咀嚼・吸啜) 嚥下の過程、機能 嘔吐の機序
44・45	発声・唾液	発声機構、声の生成、構音障害 唾液の役割、分泌機構、成分、疾患

【科目名】		総合歯科学Ⅱ		【担当講師】		島村 好則 石原 宏一 外丸 雅晴					
【年次・開講期】		3年次・後期		【時間】		90時間		【単位】		3単位	
【授業概要】											
教科書、スライド、補助プリント、国家試験対策プリント、時点問題プリント を使い臨床に結びつけて説明していく											
【実務経験有】											
島村好則：しまむら歯科医院開設・院長（歯科医師）											
石原宏一：歯科医師、医学博士・臨床経験21年											
外丸雅晴： 歯科医師として歯科診療業務に従事。学校歯科医として学校歯科保健活動に従事 労働衛生コンサルタントとして労働衛生活動に従事（企業歯科健診などを含む）											
【到達目標】											
病因と病態、感染と免疫および生体と薬物に関する基本的知識を理解できる											
口腔領域の先天異常、嚢胞および腫瘍について理解できる											
歯科臨床に用いる薬剤を理解できる											
歯と口腔の疾病異常の予防と健康増進、疫学と歯科保健統計および、 地域歯科保健活動に関する基本的知識を理解することができる											
健康を保持増進するための基本的知識が理解できる											
歯科衛生士として必要となる保健・医療・福祉の関連法規と制度を理解できる											
【教科書】											
最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学											
最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学											
最新歯科衛生士教本 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学											
最新歯科衛生士教本 人体の構造と機能2 栄養と代謝											
最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み1 保健生態学											
最新歯科衛生士教本 歯・口腔の健康と予防に関する人間と社会の仕組み3 保健情報統計学											
歯科衛生士のための衛生行政・社会福祉・社会保険											
【参考図書】											
【授業方法】											
講義											
【評価方法】											
学院規定による定期試験受験資格の出席率を満たし、全講義終了後、国家試験と同じ形式で 試験を行う。合計得点の60%以上の得点で合格とする。											
出席実績、授業態度も評価する場合がある。											
【授業計画】											
回	授業項目			授業内容							
1	病理学Ⅰ 循環障害・代謝障害 退行性病変			虚血、うっ血、充血を説明できる 閉塞性循環障害について説明できる 細胞障害・代謝障害の種類を列挙できる 壊死と壊疽、壊死とアポトーシスの違いを説明できる							
2	増殖と修復			刺激や傷害に対する能動的な反応の種類と意義を説明できる							

回	授業項目	授業内容
3	炎症・免疫応答異常	創傷治療や再生の基本的な概説できる 炎症の原因と機序を説明できる 炎症の分類と各炎症の特徴を説明できる
4	腫瘍	液性免疫・細胞性免疫の特徴を説明できる 腫瘍の原因と発生機序を説明できる 腫瘍の組織学的特徴を説明できる
5	病理学Ⅱ 歯の発育異常・歯の損傷と付着物	歯・咬合等のついてさまざまな発育異常を理解し、歯の損傷とプラーク、歯石を中心とした付着物を説明できる
6	齲蝕・象牙質・歯牙複合体・根尖部 歯周組織の病変 辺縁性歯周炎の病変	う蝕やそれに続発する歯髓病変や根尖部歯髓組織 病変の原因、病態を理解して説明できる 辺縁性歯周炎の原因、病態が説明できる
7	口腔粘膜疾患 口腔癌・前癌病変・口腔の嚢胞・腫瘍 唾液腺疾患	粘膜疾患、前癌病変、口腔癌について説明できる 代表的な嚢胞性病変、腫瘍性病変を説明できる 全身疾患から生じる口腔病変について説明できる
8	微生物Ⅰ 細菌各論Ⅰ（グラム陽性菌） 細菌各論Ⅱ（グラム陰性菌）	グラム陽性・陰性球菌およびグラム各桿菌の代表的 な菌種をとりあげ、その特徴（症状・病原性・ 感染症とその感染経路等）について説明できる
9	ウイルス・真菌・原虫・プリオン	ウイルスの特徴、感染症、感染経路について説明できる 真菌・原虫・プリオンの特徴や構造それらが引き起こす感染経路が説明できる
10	宿主防御機構と免疫ⅠⅡ	生まれながらにもっている自然免疫・獲得免疫について二つの免疫系を説明 できる 抗原抗体反応の種類と検査法、感染症の予防法 ワクチン、過剰反応でおこるアレルギーについて説明できる
11	微生物Ⅱ 口腔内微生物ⅠⅡ	口腔内に微生物が定着する機構並びに細菌・種類 バイオフィーム形成について説明できる
12	齲蝕・歯周病	齲蝕・歯周病と微生物の関係並びにその発症機構を説明できる
13	口腔内感染症 化学療法 消毒・滅菌	口腔内に症状がみられる各種感染症について 口腔内微生物に対する化学療法 口腔内微生物に対して臨床で行われている消毒・滅菌について
14	薬理Ⅰ 薬理の作用	薬物療法の種類、薬理作用の様式、形式、分類 薬用量と生体内の反応、薬理作用の機序について
15	薬物動態	薬物の生体膜通過様式、吸収、分布、代謝、排泄 薬物動態のパラメーター
16	薬物の適用方法の種類と特徴 薬物の作用に影響を与える因子	適用方法の種類、生物学的利用能が説明できる 薬物の連用、併用、相互作用
17	薬物の副作用・適用する際の 注意事項、取り扱い 薬物と法律	薬物の有害作用の分類と原因、歯科領域における 薬物の副作用について説明できる 剤形、処方箋、保存方法、医薬品と法律 表示保管方法について説明できる
18	薬理Ⅱ 末梢神経系・中枢神経系に 作用する薬物	自律神経作動薬各種について、中枢神経系に作用する 各種の薬物について分類、説明ができる
19	循環器・腎臓・呼吸器・消化器 系に作用する薬物	高血圧、不整脈、心不全、脂質異常症、腎臓、気管支喘息に作用する薬物が 説明できる
20	齲蝕、歯内療法、歯周疾患 治療薬に用いる薬物	フッ化物、歯髓、根管治療、局所・全身投与する薬物について説明できる
21	栄養と代謝Ⅰ 生体の構成要素 栄養素・消化と吸収 酸素と運搬・酵素	糖質・脂質・タンパク質・ミネラル・ビタミン・酵素など、種類や役割を説明する ことができる
22	糖質・脂質の構造と代謝	エネルギー代謝・解糖・グリコーゲンの合成と分解を説明できる クエン酸回路・電子伝達系を説明できる β 酸化・脂質の合成を説明できる
23	タンパク質とアミノ酸の代謝	アミノ酸・DNAと遺伝子について説明ができる
24	生体における恒常性の維持	恒常性、血液の緩衝能、血糖値を説明できる
25	栄養と代謝Ⅱ 歯と歯周組織の生化学	結合組織の組成と機能を学ぶ 歯の組成、歯の無機成分、有機成分の特徴について説明できる
26	硬組織の生化学 血清中のカルシウムとリン酸 骨の生成と吸収 歯の脱灰と再石灰化	血清中のカルシウムとリン酸濃度と、その活動度積について理解する 血清カルシウム調節ホルモン、歯の脱灰とキレート 作用の相関性について理解する

回	授業項目	授業内容
27	唾液・プラークの生化学	プラークの種類・組成について説明できる プラークとう蝕の関係性について説明できる
28	栄養と代謝Ⅲ 栄養素の働き	タンパク質、脂質、糖質、ビタミン、ミネラル の種類と栄養素の関係性について理解できる
29	栄養の基礎知識	日本人の摂取状況
30	栄養素の消化・吸収	日本人の摂取状況 消化作用の種類・仕組みについて説明できる 栄養素の消化・吸収・役割を理解できる
31	保健生態学Ⅰ 医療の倫理	ヘルスプロモーション、アルマ・アタ宣言、オワタ 憲章、ヘルシンキ宣言について説明できる
32	疫学 有病率、罹患率 コホート研究	有病率、罹患率について説明できる オッズ比とは何かを計算できる
33	人口Ⅰ・Ⅱ	人口動態統計と人口静態統計の違いを説明できる 各動態統計指標と定義を説明できる
34	感染症	感染の原因、経路、感染予防の分類について説明できる
35	保健生態学Ⅱ 歯と口腔の健康保持・増進 の手段	口腔清掃の分類と種類が説明できる
36	フッ化物によるう蝕の予防	う蝕発生のメカニズム 人体へのフッ化物作用
37	歯周疾患の予防	歯周組織の構造、種類と原因 歯周疾患の治療法
38	保健生態学Ⅲ 地域社会と地域保健	ヘルスプロモーション、ノーマライゼーションとは
39・40	母子保健、学校保健、成人 老人保健、産業保健 精神保健、国際保健	各歯科健康診断について説明ができる 精神障害者の医療制度について説明ができる 世界の歯科疾患の状況について理解できる
41	保健情報統計学 口腔情報と疫学	国家統計を学ぶ 学校保健統計調査を学ぶ
42	歯科疾患の指数	歯周疾患、口腔清掃状態の指数を理解できる 咀嚼能率、咀嚼嚥下のスクリーニングテストを学ぶ
43	保健統計の方法	母集団と標本について理解できる
44	衛生行政・社会福祉学 社会保障と社会保険	社会保障制度、社会保険の組織、年金、医療制度、 雇用、介護保険について理解できる
45	衛生関係法について	医療保険の仕組み

【科目名】	総合歯科学Ⅲ		【担当講師】	五味暁憲 高橋智幸 廣幡智子	
【年次・開講期】	3年次・後期	【時間】	90時間	【単位】	3単位
【授業概要】					
教科書で学んだ知識や技術と校外臨床実習で習得した知識や技術を結び付け、理解する。 また、歯科衛生士業務に直結する臨床歯科医学分野について整理・体系化し、歯科医療の担い手としての総合的な臨床能力を身につける。					
【実務経験有】					
五味暁憲：1996年4月～2011年3月 鹿児島大学医学部・歯学部付属病院口腔顎顔面外科 2011年4月～2014年3月 群馬大学医学部付属病院歯科口腔外科（現 歯科口腔・顎顔面外科） 2014年4月～2021年3月 同科関連施設（前橋赤十字病院，伊勢崎市民病院）勤務 2021年4月～現在 群馬県歯科総合衛生センター 2011年4月～2019年2月，2020年5月～2021年3月 群馬県歯科総合衛生センター非常勤歯科医師 高橋智幸：高橋歯科医院開設・院長（歯科医師） 廣幡智子：田中歯科医院院長（歯科医師）					
【到達目標】					
1. 歯科保存学Ⅰ・Ⅱ：歯の歯組織疾患、歯髄疾患および根尖性歯周疾患とその治療法が理解ができる。 2. 歯周治療学：辺縁性歯周疾患とその治療法が理解できる。 3. 口腔外科学：口腔顎顔面領域の疾患とその治療法が理解できる。 4. 歯科補綴学：歯および歯列欠損を補い咀嚼機能等を回復する治療法が理解できる。 5. 歯科矯正学：不正咬合とその治療法が理解できる。 6. 小児歯科学：小児期に生ずる口腔疾患の特性とその治療法が理解できる。 7. 高齢者・障害者歯科学：高齢者・障害者の特性と歯科治療時の注意点が理解できる。					
【教科書】					
最新歯科衛生士教本 歯・歯髄疾患 保存修復・歯内療法（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本 歯周病学（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本 口腔外科・歯科麻酔（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常1 歯科補綴（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本 咀嚼障害・咬合異常2 歯科矯正（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本 小児歯科（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本 高齢者歯科（医歯薬出版） 最新歯科衛生士教本 障害者歯科（医歯薬出版）					
【参考図書】					
【授業方法】					
講義					
【評価方法】					
学院規定による定期試験受験資格の出席率を満たし、全講義終了後、国家試験と同じ形式で試験を行う。合計得点の60%以上の得点で合格とする。 出席実績、授業態度も評価する場合がある。					

【授業計画】		
回	授業項目	授業内容
1	歯科保存学Ⅰ①	歯の硬組織疾患の種類と検査法について理解する
2	歯科保存学Ⅰ②	う蝕治療の流れと前準備について理解する
3	歯科保存学Ⅰ③	修復法の種類と特徴について理解する
4	歯科保存学Ⅰ④	窩洞の構成と名称、分類、形態の原則について理解する
5	歯科保存学Ⅰ⑤	硬組織疾患の予防法と修復処置後の不快事項とメンテナンスについて理解する
6	歯科保存学Ⅱ①	歯髄疾患の種類と病態について理解する
7	歯科保存学Ⅱ②	歯髄保存療法と歯髄除去療法について理解する
8	歯科保存学Ⅱ③	根尖性歯周組織疾患の種類と病態、治療について理解する
9	歯科保存学Ⅱ④	根管治療と根管充填に用いる器具・器材について理解する
10	歯科保存学Ⅱ⑤	根未完成歯の処置、外科的歯内療法について理解する
11	歯周治療学①	歯周病の種類と病態について理解する
12	歯周治療学②	歯周病の発現とリスクファクター、歯周病と全身との関連について理解する
13	歯周治療学③	歯周組織検査、歯周基本治療について理解する
14	歯周治療学④	歯周外科治療について理解する
15	歯周治療学⑤	歯周治療後の再評価について理解する
16	歯周治療学⑥	メンテナンス、SPTについて理解する
17	口腔外科学①	先天異常と発育異常、損傷、口腔粘膜疾患について理解する
18	口腔外科学②	炎症、嚢胞、腫瘍、顎関節疾患について理解する
19	口腔外科学③	唾液腺疾患、神経系疾患、血液疾患について理解する
20	口腔外科学④	口腔外科分野における各手術の術式、使用器具術後の指導について理解する
21	口腔外科学⑤	各手術中、術後の局所的偶発症について理解する
22	口腔外科学⑥	周術期の口腔衛生管理について理解する
23	歯科補綴学①	補綴治療の基礎、補綴治療の種類と材料について理解する
24	歯科補綴学②	補綴装置の維持・支持・安定と治療の流れについて理解する
25	歯科補綴学③	有床義歯について理解する
26	歯科補綴学④	クラウンについて理解する
27	歯科補綴学⑤	ブリッジについて理解する
28	歯科補綴学⑥	インプラント義歯の概要、利点と欠点について理解する
29	歯科矯正学①	顎顔面の成長発育について理解する
30	歯科矯正学②	正常咬合と不正咬合、不正咬合による障害について理解する
31	歯科矯正学③	矯正歯科治療の流れについて理解する
32	歯科矯正学④	矯正装置について理解する
33	歯科矯正学⑤	矯正治療で使用する器材の種類と取扱いについて理解する
34	小児歯科学①	小児の成長発育、機能や情緒、社会性の発達について理解する
35	小児歯科学②	小児の顎顔面と頭蓋の成長発育、歯の萌出・交換、乳歯の特徴について理解する
36	小児歯科学③	小児の疾病異常について理解する
37	小児歯科学④	小児患者の行動の特徴と情動変化について理解する
38	小児歯科学⑤	小児の歯科治療について理解する

回	授業項目	授業内容
39	高齢者・障害者歯科学①	高齢社会における社会環境、加齢に伴う変化について理解する
40	高齢者・障害者歯科学②	高齢者の歯科治療について理解する
41	高齢者・障害者歯科学③	通院困難者への対応について理解する
42	高齢者・障害者歯科学④	高齢者の摂食嚥下とリハビリテーションについて理解する
43	高齢者・障害者歯科学⑤	障害の概念について理解する
44	高齢者・障害者歯科学⑥	障害の種類と歯科的特徴について理解する
45	高齢者・障害者歯科学⑦	障害児者の歯科治療と摂食嚥下障害、リハビリテーションについて理解する

【科目名】 キャリア教育		【担当講師】 加藤 よしみ	
【年次・開講期】 3年次・後期		【時間】 16時間	【単位】 1単位
【授業概要】 社会人、医療従事者としての言葉遣い、基本的態度、良好な人間関係を築けるように情操を豊かにする基礎を学ぶ。また自分自身を知り、将来のキャリアプランを考える能力を養う。			
【到達目標】 自分自身を理解し、将来のキャリアプランを考えたとうえでそれに適した就職先を選択し、内定するためのスキルを身に付けることができる			
【教科書】			
【参考図書】 学院作成資料			
【授業方法】 講義			
【評価方法】 ・出席率 ・レポート提出 ・授業態度			
【授業計画】			
回	授業項目	授業内容	
1	自己理解①	自分自身の性格・価値観・大切なものを理解する	
2	自己理解②	他己理解を含めながら、自分の特性・強みを考え自分の将来設計をイメージする(キャリアプラン)	
3	情報収集	就職活動にあたり、情報収集の方法を理解する	
4	求人票の見方	求人票の見方、チェック項目の理解する	
5	働くことの意味 ・履歴書の記入 ・面接方法 ・働くことの意味	履歴書の書き方、面接時の注意点を理解する	
6	就職活動アドバイス	卒業生の就職活動を通してのアドバイスを説明する	
7	社会保険制度について	社会保険労務士による社会保険制度の仕組みについて説明する	
8	ブラック企業対策について	ブラック企業への対策方法について説明	